第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況

対象事業実施区域は高松市の南部に位置している。高松市は、東は三木町及びさぬき市、西は坂出市、南西は綾川町とまんのう町、南は徳島県に接し、北は瀬戸内海に接している。

対象事業実施区域周辺における自然的・社会的状況（以下「地域特性」という。）について、既存資料により把握した。図 3-1 に本事業の地域特性を把握する範囲（以下「調査区域」という。）を示す。

調査区域は、対象事業実施区域及びその端部から 3km[注)] の地域を含む範囲（高松市の一部及び綾川町の一部）とした。ただし、統計資料等により市町単位で地域特性の状況を述べる事項については、対象事業実施区域が位置する高松市全域及び綾川町の全域（以下「調査対象地域」という。）を対象とした。

注）3kmの範囲は、特に広域的な影響が想定される環境要素である景観の影響範囲を考慮して、「面整備事業環境影響評価技術マニュアル」（平成11年11月、建設省監修）を参考に設定した。

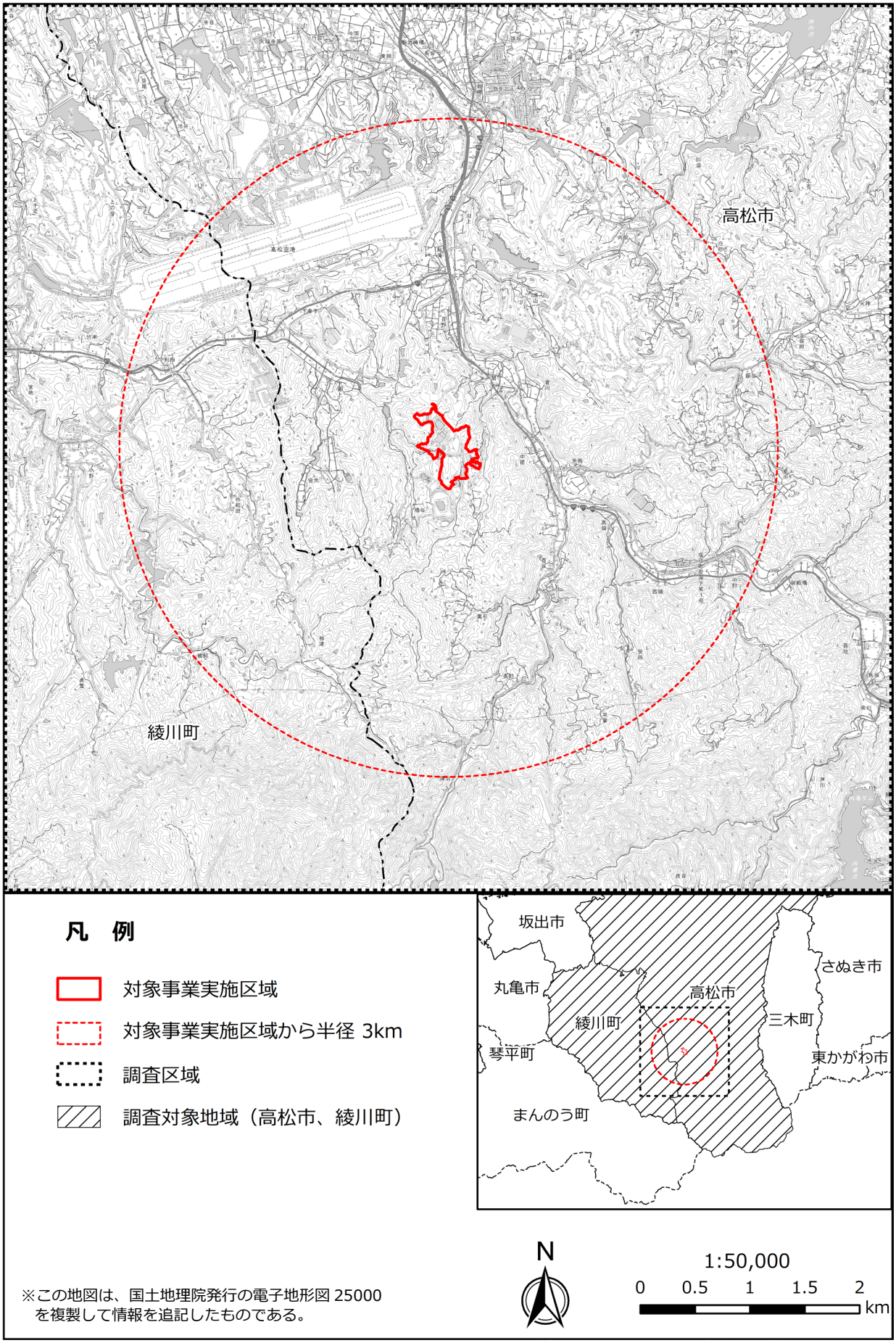


図　3-1　地域特性を把握する範囲（調査区域・調査対象地域）

3.1 自然的状況

3.1.1 大気環境の状況

(1) 一般的な気象の概況

1) 気象概況

対象事業実施区域は、香川県高松市の南部に位置し、瀬戸内式気候区に属している。また、年間通して温暖で、日照時間も長く、晴れの日が非常に多い地域である。降水量は、梅雨期と台風期に集中しており、夏季においては他県と比べて一段と降水量の少ない地域でもある。

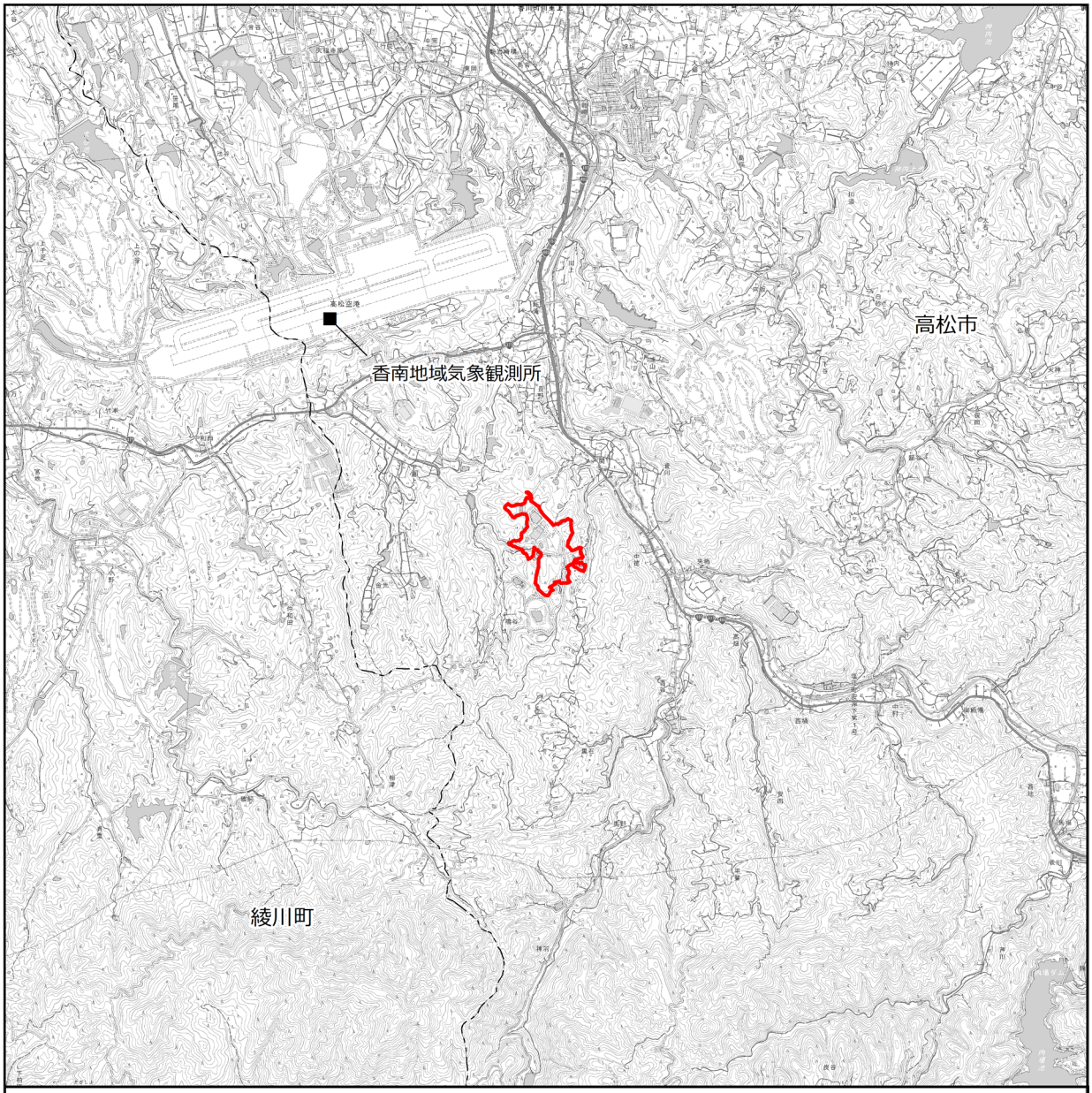
対象事業実施区域に最も近い気象観測所としては、対象事業実施区域の北西約3kmに位置する香南地域気象観測所（高松市香南町由佐　高松空港気象観測所）がある。

調査区域における気象調査概要を表 3-1に、気象観測所位置を図 3-2に示す。

表 3-1　調査区域における気象調査概要

調査地点	調査項目	調査期間
香南地域気象観測所	気温、風向・風速、降水量	平年値の統計期間(2003年～2020年)及び令和6年

出典：「地域気象観測所一覧」気象庁HP（https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/amedas/ame_master.pdf）



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000
を複製して情報を追記したものである。

凡　例

対象事業実施区域

地域気象観測所

出典：「地域気象観測所一覧」気象庁HP
(https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/amedas/ame_master.pdf)

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図　3-2　気象観測所位置図

香南地域気象観測所における気象概況を表 3-2に、同観測所における気象概況（平年値）を図 3-3に、令和6年の気象概況及び風配図を図 3-4及び図 3-5に示す。

香南地域気象観測所における平年値は、年平均気温が15.1℃、年間降水量が1,353.9mm、年平均風速は3.3m/s、年最多風向は南南東である。令和6年の気象概況は、年平均気温は16.2℃、年間降水量は1,594.5mm、平均風速は3.1m/sで、最多風向は南東である。

表 3-2 香南地域気象観測所における気象概況（令和 6 年）

月	令和６年									平年値[注1)]			
	降水量（mm）			気温（℃）			風速（m/s）			年月間降水量（合計）（mm）	気温（℃）	風速（m/s）	最多風向
	年月間降水量（合計）	日降水量の最大	1時間降水量の最大	平均気温	最高気温	最低気温	平均風速	最大風速	最多風向				
1	26.5	5.5	3.5	5.3	14.7	-3.5	3.9	13.0	W	41.0	4.1	4.1	W
2	116.5	20.5	8.0	6.2	19.2	-2.2	3.0	10.7	SE	54.8	4.9	3.8	W
3	121.5	29.5	7.5	8.1	23.6	-2.0	3.8	16.1	W	84.8	8.0	3.7	SSE
4	120.5	40.5	12.5	15.8	25.9	2.4	2.7	10.5	SE	77.8	13.3	3.6	SSE
5	211.5	101.5	23.0	17.5	29.0	7.0	2.9	17.6	SE）	105.5	18.3	3.1	SSE
6	296.0	57.5	20.0	21.9	33.6	11.3	2.6	9.0	SE	160.7	21.8	2.7	SSE
7	192.5	73.0	29.0	27.5	35.1	20.5	3.1	10.4	WSW	193.2	25.6	2.7	SSE
8	193.5	67.5	66.0	28.2	36.4	20.8	2.6	12.9	SE	150.1	26.7	2.8	SSE
9	89.5	74.0	22.5	25.9	34.5	17.8	2.5	8.5	SE	214.4	22.8	2.7	SSE
10	119.0	23.5	6.0	19.4	29.6	11.8	2.5	7.0	SE	148.4	17.3	2.9	SSE
11	89.5	34.5	15.5	12.7	22.9	1.6	3.1	10.7	SE	64.4	11.8	3.2	SSE
12	18.0	7.0	5.0	6.4	18.8	-2.6	4.2	10.9	W	59.0	6.5	4.0	W
年間	1,594.5	101.5	66.0	16.2	36.4	-3.5	3.1	17.6	SE）	1,353.9	15.1	3.3	SSE

注1）平年値は、平成15年から令和2年までの18年間の観測値を基に算出している。

注2）表中の“）”は、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱う準正常値を示す。必要な資料数は、要素又は現象、統計方法により若干異なるが、全体数の80%を基準とする。

出典：「過去の気象データ検索」気象庁HP（https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php）

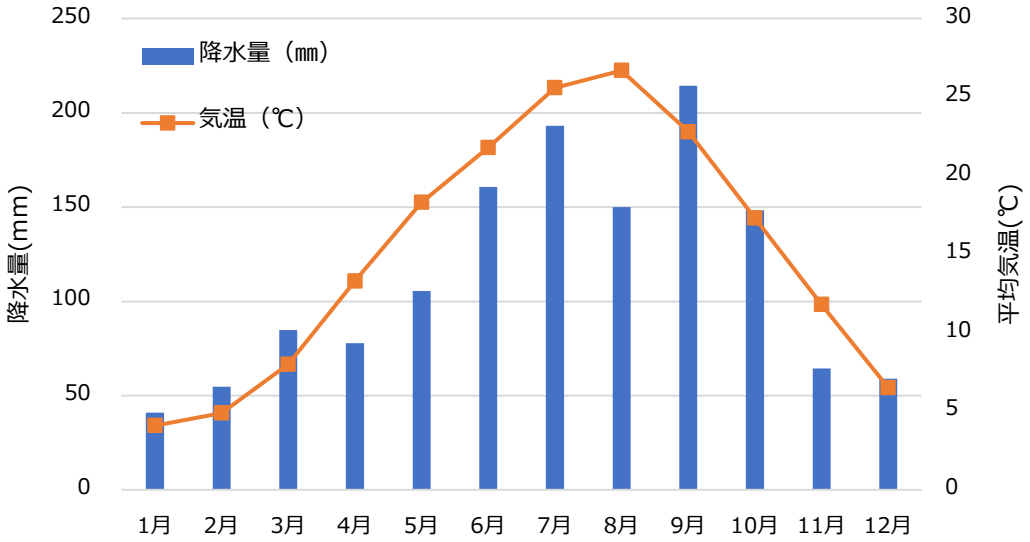


図　3-3　香南地域気象観測所における降水量及び平均気温（平年値）

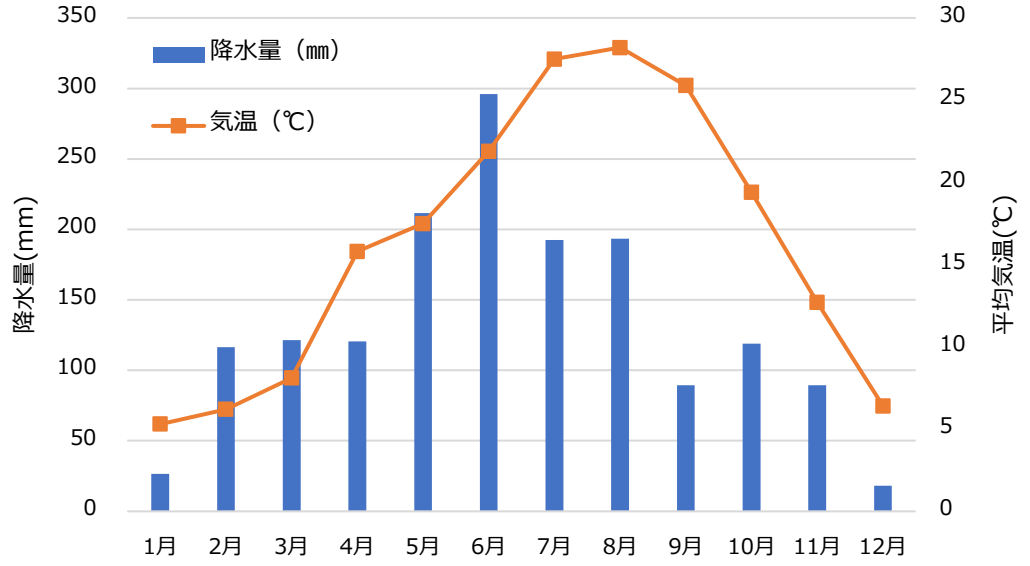
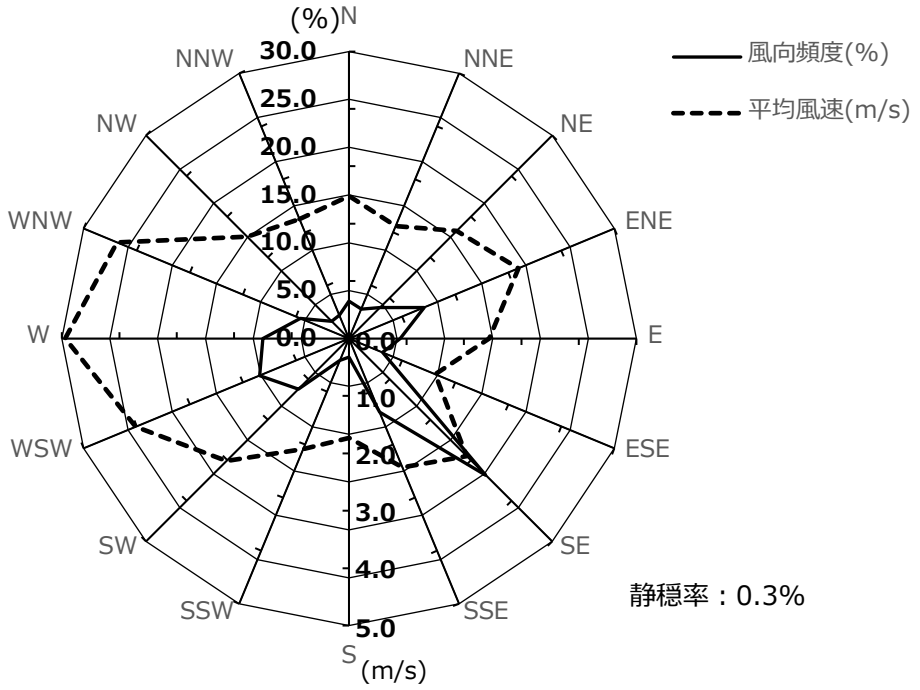


図　3-4　香南地域気象観測所における降水量及び平均気温（令和 6 年）



注1）静穏率は風速0.3m/s以下の割合を示す。
注2）風配図の作成にあたっては、令和6年1月から12月までの12か月間のデータを集計した。
出典：「過去の気象データ検索」気象庁HP（https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php）

図 3-5　香南地域気象観測所における風配図（令和 6 年）

2) 気温

香南地域気象観測所における気温の経年変化を表 3-3に示す。平均気温は、15.4~16.2℃で推移している。

表 3-3　香南地域気象観測所における気温の経年変化

単位：℃

区分	年次	平均	最高	月日	最低	月日
香南地域気象観測所	令和 2 年	15.6	36.6	8/26	-2.7	2/10
	3 年	15.4	35.8	8/5	-5.6	1/9
	4 年	15.4	36.8	7/2	-4.1	2/23
	5 年	15.7	35.6	8/1	-4.2	1/24
	6 年	16.2	36.4	8/9	-3.5	1/14

出典：「過去の気象データ検索」気象庁HP（https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php）

3) 降水量

香南地域気象観測所における降水量の経年変化を表 3-4に示す。年間降水量は、884.0～1,595.5mmで推移している。

表 3-4　香南地域気象観測所における降水量の経年変化

単位：mm

区分	年次	年間総量	日最大	月日	1 時間最大	月日
香南地域気象観測所	平成 27 年	1,342.5	144.0	7/16	36.0	7/16
	28 年	1,336.5	127.5	9/20	39.5	9/20
	29 年	1,555.5	147.0	10/22	46.5	9/17
	30 年	1,595.5	126.5	7/6	40.0	9/4
	令和元年	1,062.0	54.0	10/24	27.5	9/4
	2 年	1,206.5	74.0	9/25	22.5	7/8
	3 年	1,308.5	92.0	7/8	32.0	6/13
	4 年	884.0	92.0	9/1	45.5	9/1
	5 年	1,176.5	116.0	8/15	26.0	8/15
	6 年	1,594.5	101.5	5/28	66.0	8/25

出典：「過去の気象データ検索」気象庁HP（https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php）

4) 風向・風速

香南地域気象観測所における風向・風速の経年変化を表 3-5に示す。平均風速は3.1～3.3m/sで推移し、最多風向は南東である。

表 3-5　香南地域気象観測所における風向・風速の経年変化

単位：m/s

区分	年次	平均	最大風速			最多風向
			風速	月日	風向	
香南地域気象観測所	令和 2 年	3.3	17.7	1/8	WSW	SE
	3 年	3.3	16.5	2/17	W	SE)
	4 年	3.2	15.0	3/5	W	SE
	5 年	3.1	14.9	12/16	W	SE)
	6 年	3.1	17.6	5/16	W	SE)

注）表中の“）”は、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱う準正常値を示す。必要な資料数は、要素又は現象、統計方法により若干異なるが、全体数の80%を基準とする。

出典：「過去の気象データ検索」気象庁HP（https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php）

(2) 大気質

1) 一般環境大気測定局

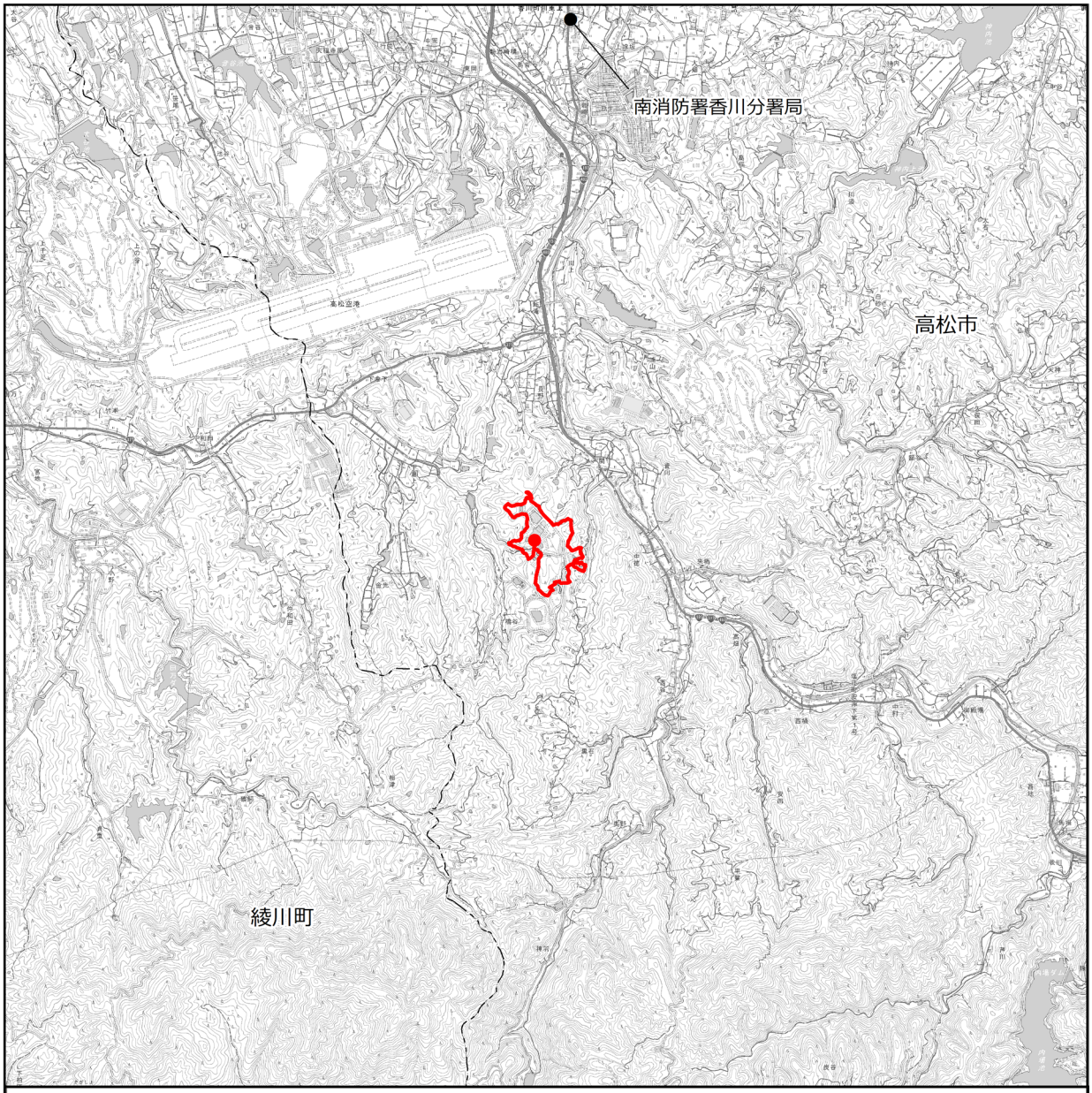
香川県では大気汚染の状況を把握するため、監視網となる大気測定局を設置し、大気汚染物質の濃度等を測定している。調査区域では、一般環境大気測定局として南消防署香川分署局が設置されている。測定項目を表 3-6に、大気質調査地点位置を図 3-6に示す。

表 3-6　調査対象地域における大気質測定項目

区分	名称	所在地	測定項目								
			二酸化硫黄	一酸化炭素	浮遊粒子状物質	窒素酸化物		光化学オキシダント	微小粒子状物質	有害大気汚染物質	ダイオキシン類
						二酸化窒素	一酸化窒素				
			SO_2	CO	SPM	NO_2	NO	O_X	PM2.5		
一般環境大気測定局	南消防署香川分署局	高松市香川町川東上 947-1	○	－	○	○	○	○	○	－	－

注）“－”は当該項目の調査が実施されていないことを示す。

出典：「令和元年度～令和5年度版　大気汚染調査結果」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/kankyo-hozen/taikiseikatu/kfvn.html）



凡　例

- 対象事業実施区域
- 一般環境大気測定局
- 現有施設調査地点

※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000 を複製して情報を追記したものである。

出典：「さぬきの空　情報館」香川県大気汚染常時監視システムHP
（https://www.taiki.pref.kagawa.lg.jp/）

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図　3-6　大気質調査地点位置図

① 二酸化硫黄

南消防署香川分署局における二酸化硫黄の測定結果を表 3-7に示す。二酸化硫黄の年平均値は、0.000～0.002ppmで推移している。また、全ての年度で環境基準を達成している。

表 3-7　南消防署香川分署局における二酸化硫黄の測定結果

測定局	年度	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.04ppmを超えた日数
					時間数とその割合		日数とその割合					
		(日)	(時間)	(ppm)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(ppm)	(ppm)	有×，無○	(日)
南消防署香川分署局	令和元年度	356	8,605	0.002	0	0.0	0	0.0	0.012	0.006	○	0
	令和２年度	362	8,644	0.001	0	0.0	0	0.0	0.006	0.002	○	0
	令和３年度	361	8,629	0.001	0	0.0	0	0.0	0.006	0.002	○	0
	令和４年度	362	8,643	0.001	0	0.0	0	0.0	0.008	0.002	○	0
	令和５年度	361	8,649	0.000	0	0.0	0	0.0	0.010	0.001	○	0

注）環境基準は以下のとおりである。

【短期的評価】：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ1時間値が0.1ppm以下であること。

【長期的評価】：日平均値の2%除外値が0.04ppm以下である場合に環境基準達成とする。ただし、日平均値が0.04ppmを超える日が2日以上連続した場合は環境基準達成としない。

出典：「令和元年度～令和5年度版　大気汚染調査結果」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/kankyo-hozen/taikiseikatu/kfvn.html）

② 一酸化炭素

調査区域では、一酸化炭素の測定は行われていない。

③ 浮遊粒子状物質

南消防署香川分署局における浮遊粒子状物質の測定結果を表 3-8に示す。浮遊粒子状物質の年平均値は0.013～0.018mg/m^{3}で推移している。また、全ての年度で環境基準を達成している。

表 3-8　南消防署香川分署局における浮遊粒子状物質の測定結果

測定局	年度	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.20mg/m^{3}を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m^{3}を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m^{3}を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m^{3}を超えた日数
		(日)	(時間)	(mg/m^3)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(mg/m^3)	(mg/m^3)	有×，無○	(日)
南消防署香川分署局	令和元年度	361	8,691	0.018	0	0.0	0	0.0	0.113	0.043	○	0
	令和２年度	362	8,705	0.015	0	0.0	0	0.0	0.101	0.047	○	0
	令和３年度	362	8,710	0.013	0	0.0	0	0.0	0.072	0.029	○	0
	令和４年度	361	8,700	0.015	0	0.0	0	0.0	0.146	0.033	○	0
	令和５年度	363	8,730	0.015	0	0.0	0	0.0	0.087	0.033	○	0

注）環境基準は以下のとおりである。

【短期的評価】：1時間値の1日平均値が0.10mg/m^{3}以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m^{3}以下であること。

【長期的評価】：日平均値の2%除外値が0.10mg/m^{3}以下である場合に環境基準達成とする。ただし、日平均値が0.10mg/m^{3}を超える日が2日以上連続した場合は環境基準達成としない。

出典：「令和元年度～令和5年度版　大気汚染調査結果」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/kankyo-hozen/taikiseikatu/kfvn.html）

④ 窒素酸化物

南消防署香川分署局における二酸化窒素の測定結果を表 3-9に、窒素酸化物の測定結果を表 3-10に示す。二酸化窒素の年平均値は、0.004～0.005ppmで推移している。また、全ての年度で環境基準を達成している。

表 3-9　南消防署香川分署局における二酸化窒素の測定結果

測定局	年度	有効測定日数	測定時間	年平均値	1 時間値の最高値	1 時間値が 0.2ppm を超えた時間数とその割合		1 時間値が 0.1ppm 以上 0.2ppm 以下の時間数とその割合		日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその割合		日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の日数とその割合		日平均値の年間 98%値	98%評価による日平均値が 0.06ppm を超えた日数
		(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(時間)	(%)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)	(ppm)	(日)
南消防署香川分署局	令和元年度	363	8,664	0.005	0.036	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.012	0
	令和２年度	362	8,642	0.004	0.033	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.010	0
	令和３年度	362	8,643	0.004	0.028	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.008	0
	令和４年度	362	8,643	0.004	0.033	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.009	0
	令和５年度	363	8,669	0.004	0.030	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.009	0

注）環境基準は以下のとおりである。

【長期的評価】：日平均値の年間98%値が0.04ppmから0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下

出典：「令和元年度～令和5年度版　大気汚染調査結果」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/kankyo-hozen/taikiseikatu/kfvn.html）

表 3-10　南消防署香川分署局における窒素酸化物の測定結果

測定局	年度	有効測定日数	測定時間	一酸化窒素			窒素酸化物（$NO+NO_2$）			
				年平均値	1 時間値の最高値	日平均値の年間 98%値	年平均値	1 時間値の最高値	日平均値の年間 98%値	年平均値 $NO_2/(NO+NO_2)$
		(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(%)
南消防署香川分署局	令和元年度	363	8,664	0.001	0.020	0.002	0.005	0.045	0.014	87.4
	令和２年度	362	8,642	0.001	0.022	0.002	0.005	0.046	0.011	87.4
	令和３年度	362	8,643	0.001	0.018	0.001	0.004	0.039	0.009	88.3
	令和４年度	362	8,643	0.001	0.039	0.002	0.004	0.057	0.010	88.1
	令和５年度	363	8,669	0.000	0.016	0.001	0.004	0.046	0.009	87.6

出典：「令和元年度～令和5年度版　大気汚染調査結果」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/kankyo-hozen/taikiseikatu/kfvn.html）

⑤ 光化学オキシダント

南消防署香川分署局における光化学オキシダントの測定結果を表 3-11に示す。光化学オキシダントの年平均値（昼間）は、0.036～0.038ppmで推移している。また、いずれの年度も環境基準を超過している。なお、調査対象地域である高松市及び綾川町を含む高松地域及び中讃地域で、光化学オキシダント注意報は、令和元年度に各3回、中讃地域で、令和6年度に1回発令されている。

表 3-11　南消防署香川分署局における光化学オキシダントの測定結果

測定局	年度	有効測定日数	昼間測定時間	昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数			昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数と時間数			昼間の1時間値の最高値	昼間の日最高1時間値の年平均値
					(日)	時間数とその割合		日数とその割合		(時間)		
		(日)	(時間)	(ppm)		(時間)	(%)	(日)	(%)		(ppm)	(ppm)
南消防署香川分署局	令和元年度	366	5,465	0.038	99	603	–	1	–	5	0.138	0.052
	令和２年度	365	5,440	0.038	99	580	–	0	–	0	0.117	0.052
	令和３年度	365	5,430	0.037	86	454	8.4	0	0.0	0	0.092	0.051
	令和４年度	365	5,388	0.036	77	405	7.5	0	0.0	0	0.096	0.049
	令和５年度	366	5,452	0.036	76	405	7.4	0	0.0	0	0.109	0.049

注1）環境基準は以下のとおりである。

【環境基準】1年間の昼間に測定されたすべての1時間値が0.06ppm以下であること。「昼間」とは季節によらず5時から20時までの15時間の時間帯をいい、6時から20時までの1時間値を評価対象とする。

注2）網掛けは環境基準を満足していないことを示す。

出典：「令和元年度～令和5年度版　大気汚染調査結果」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/kankyo-hozen/taikiseikatu/kfvn.html）

⑥ 微小粒子状物質

南消防署香川分署局における微小粒子状物質の測定結果を表 3-12に示す。微小粒子状物質の年平均値は、減少傾向を示している。また、全ての年度で環境基準を達成している。

表 3-12　南消防署香川分署局における微小粒子状物質の測定結果

測定局	年度	有効測定日数	年平均値	日平均値が 35μg/m^3 を超えた日数とその割合		日平均値の最高値	日平均値の年間 98%値
		(日)	(μg/m^3)	(日)	(%)	(μg/m^3)	(μg/m^3)
南消防署香川分署局	令和元年度	364	8.9	0	0.0	32.2	22.4
	令和２年度	362	9.1	3	0.8	37.4	24.7
	令和３年度	363	8.0	0	0.0	26.8	18.5
	令和４年度	363	8.6	0	0.0	33.9	20.2
	令和５年度	362	8.0	0	0.0	25.3	20.0

注）環境基準は以下のとおりである。

【環境基準】1年平均値が15μg/m^{3}以下であり、かつ、1日平均値が35μg/m^{3}以下であること。達成状況の評価基準は、「1日平均値の1年平均値が15μg/m^{3}以下であり、かつ、1日平均値の低い方から98%に相当するものが35μg/m^{3}以下であること」とする。

出典：「令和元年度～令和5年度版　大気汚染調査結果」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/kankyo-hozen/taikiseikatu/kfvn.html）

⑦ 有害大気汚染物質

調査区域では、有害大気汚染物質の測定は行われていない。

⑧ ダイオキシン類

調査区域では、ダイオキシン類の測定は行われていない。

2) 現有施設における測定結果

対象事業実施区域に位置する高松市南部クリーンセンターでは、大気汚染物質の濃度等を測定している。現有施設の調査地点を図 3-6に示す。令和2年度～令和6年度の高松市南部クリーンセンターの測定結果を表 3-13～表 3-16に示す。令和2年度～令和6年度の全ての項目で環境基準を達成している。

① 二酸化硫黄

表 3-13 高松市南部クリーンセンターにおける二酸化硫黄の測定結果

年度	有効測定日数	測定時間	年平均値	1 時間値の最高値	日平均値の最高値	1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.04ppm を超えた日数とその割合	
	(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(時間)	(%)	(日)	(%)
令和 2 年度	358	8,624	0.001	0.007	0.003	0	0	0	0
令和 3 年度	356	8,579	0.001	0.008	0.002	0	0	0	0
令和 4 年度	359	8,644	0.001	0.008	0.003	0	0	0	0
令和 5 年度	357	8,584	<0.001	0.009	0.002	0	0	0	0
令和 6 年度	361	8,673	<0.001	0.005	0.002	0	0	0	0

注）測定結果欄における“く”は報告下限値未満であることを示す。
出典：「高松市資料」（令和7年9月）

② 浮遊粒子状物質

表 3-14 高松市南部クリーンセンターにおける浮遊粒子状物質の測定結果

年度	有効測定日数	測定時間	年平均値	1 時間値の最高値	日平均値の最高値	1 時間値が 0.20mg/m^3 を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.10mg/m^3 を超えた日数とその割合	
	(日)	(時間)	(mg/m^3)	(mg/m^3)	(mg/m^3)	(時間)	(%)	(日)	(%)
令和 2 年度	356	8,558	0.015	0.119	0.079	0	0	0	0
令和 3 年度	354	8,538	0.013	0.063	0.039	0	0	0	0
令和 4 年度	355	8,586	0.015	0.083	0.056	0	0	0	0
令和 5 年度	357	8,588	0.013	0.061	0.040	0	0	0	0
令和 6 年度	361	8,672	0.012	0.115	0.093	0	0	0	0

出典：「高松市資料」（令和7年9月）

③ 窒素酸化物

表 3-15 高松市南部クリーンセンターにおける二酸化窒素の測定結果

年度	有効測定日数	測定時間	年平均値	1 時間値の最高値	日平均値の最高値	日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の日数とその割合		日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその割合	
	(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(日)	(%)	(日)	(%)
令和 2 年度	361	8,679	0.004	0.031	0.020	0	0	0	0
令和 3 年度	361	8,677	0.003	0.027	0.012	0	0	0	0
令和 4 年度	359	8,639	0.003	0.190	0.014	0	0	0	0
令和 5 年度	357	8,584	0.003	0.062	0.013	0	0	0	0
令和 6 年度	351	8,453	0.003	0.025	0.010	0	0	0	0

出典：「高松市資料」（令和7年9月）

表 3-16　高松市南部クリーンセンターにおける窒素酸化物の測定結果

年度	有効測定日数	測定時間	一酸化窒素			窒素酸化物（$NO+NO_2$）			
			年平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	年平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	年平均値の $NO^2/(NO+NO^2)$
	(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(%)
令和２年度	361	8,679	0.001	0.016	0.006	0.004	0.047	0.026	−
令和３年度	361	8,677	0.001	0.034	0.004	0.004	0.041	0.014	−
令和４年度	358	8,639	0.001	0.146	0.012	0.005	0.192	0.020	−
令和５年度	357	8,584	<0.001	0.106	0.006	0.003	0.167	0.016	−
令和６年度	351	8,453	<0.001	0.050	0.003	0.004	0.062	0.011	−

注）測定結果欄における“<”は報告下限値未満であることを示す。
出典：「高松市資料」（令和7年9月）

(3) 騒音

1) 道路交通騒音

調査区域では、令和元年～令和7年にかけて、道路に面する地域の3地点で、道路交通騒音測定を実施している。調査地点における道路交通騒音測定結果を表 3-17に、調査区域の道路交通騒音調査地点位置を図 3-7に示す。

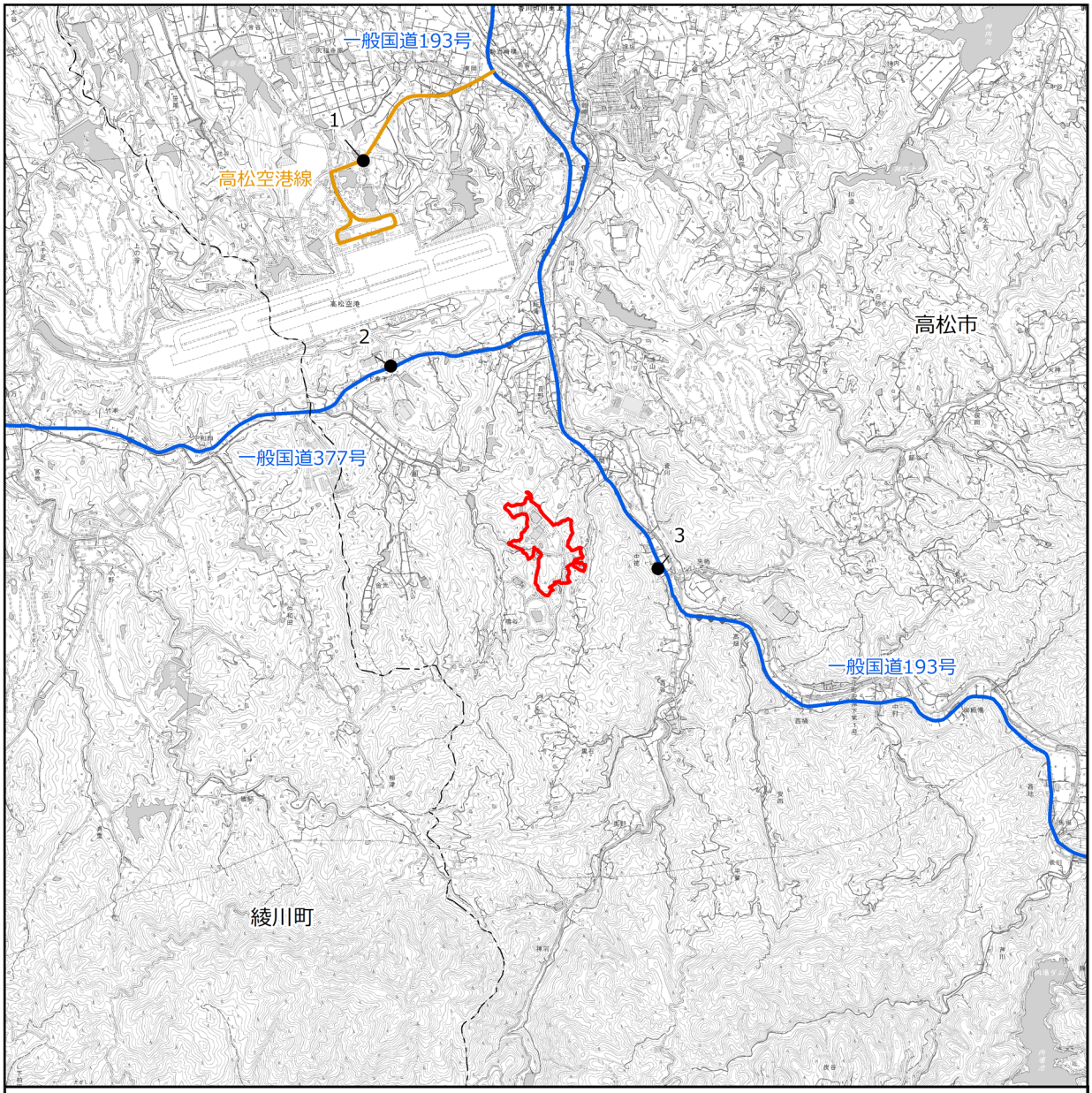
測定の結果、3地点とも環境基準を達成している。

表 3-17　調査区域の道路交通騒音測定結果

単位：dB

No.	年	調査地点名	路線名	車線数	車道からの距離(m)	地域類型	近接空間特例	騒音測定結果			
								騒音レベル（L_{Aeq}）		騒音環境基準	
								昼間	夜間	昼間	夜間
1	令和元年	高松市香南町岡	主要地方道高松空港線	2	4.0	無	有	60	50	70	65
2	令和２年	塩江町安原下第３号	一般国道377号	2	1.0	無	有	66	59	70	65
3	令和２年	塩江町安原下第２号	一般国道193号	2	1.2	無	有	67	61	70	65
3	令和７年	塩江町安原下第２号	一般国道193号	2	1.2	無	有	68	61	70	65

注1）単位dBとは、計量法（平成4年法律第51号）に定める音圧レベルの計量単位である。
注2）時間区分は以下のとおり。
昼間6:00～22:00、夜間22:00～翌6:00
注3）近接空間特例：幹線交通を担う道路近接空間（高速道路、国道、都道府県道及び4車線以上の市町村道から15m（2車線以下）又は20m（2車線超）の範囲）における基準値の適用の有無。
注4）No.は図 3-7に対応している。
出典：「高松市資料」（令和7年9月）



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000 を複製して情報を追記したものである。

凡　例

- 対象事業実施区域
- 一般国道
- 主要地方道
- ● 道路交通騒音調査地点

出典：「高松市資料」（令和7年9月）

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図　3-7　調査区域の道路交通騒音調査地点位置図

2) 現有施設における測定結果

対象事業実施区域に位置する高松市南部クリーンセンターでは、12地点で騒音を測定している。令和4年～令和7年の高松市南部クリーンセンターの測定結果を表 3-18に、騒音調査地点位置を図 3-8に示す。令和4年～令和7年の全ての地点で公害防止基準値（現有施設）を満たしている。

表 3-18　高松市南部クリーンセンターにおける騒音の測定結果

単位：dB

測定日	測定地点数	区分	朝	昼間	夕	夜間
令和４年 ６月３日	12 地点	最大	45	51	46	45
		最小	32	36	34	35
令和４年 12 月２日	12 地点	最大	44	52	43	43
		最小	29	35	32	32
令和５年 ６月９、10 日	12 地点	最大	44	54	48	44
		最小	34	41	31	34
令和５年 12 月８日	12 地点	最大	46	52	47	44
		最小	36	37	32	31
令和６年 ６月７日	12 地点	最大	47	54	42	43
		最小	33	44	31	31
令和６年 12 月３日	12 地点	最大	46	54	46	43
		最小	35	43	28	24
令和７年 ６月６日	12 地点	最大	47	52	46	44
		最小	35	38	31	30
公害防止基準値			50 以下	55 以下	50 以下	45 以下

注）朝（午前6時～8時）、昼間（8時～19時）、夕（19時～22時）、夜間（22時～翌6時）とする。
出典：「高松市資料」（令和7年9月）

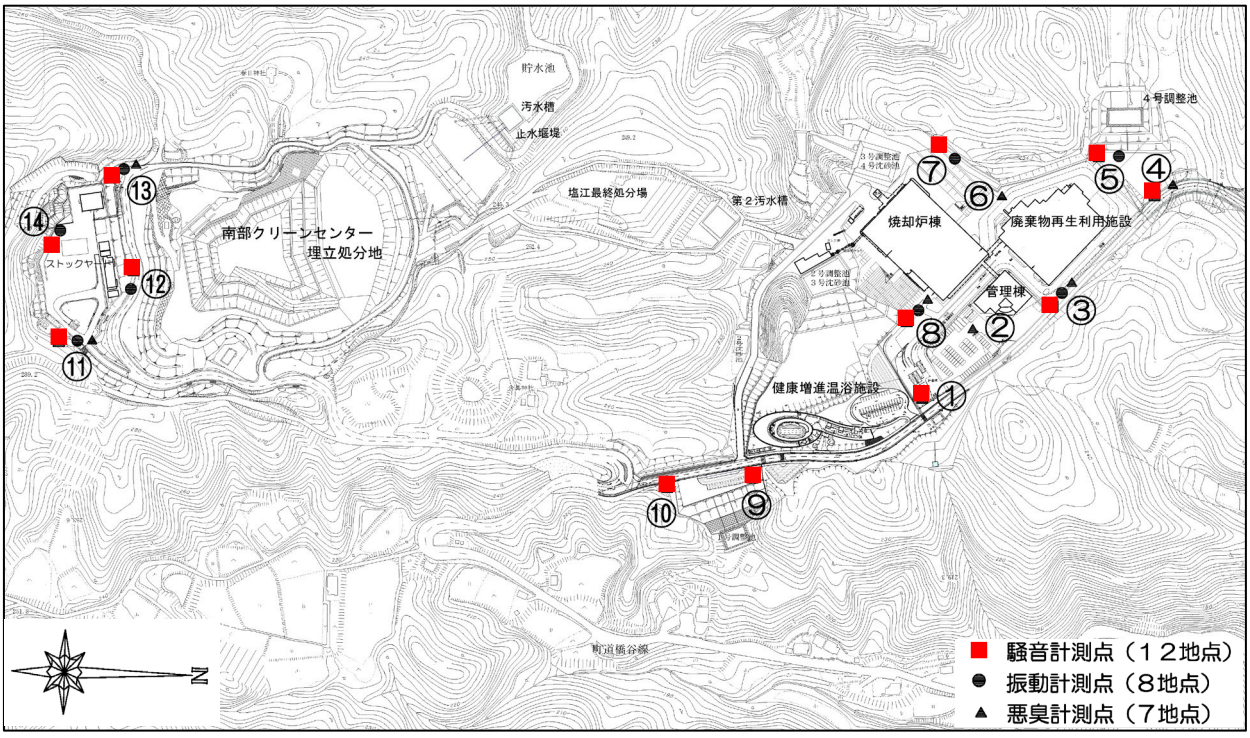


図 3-8　高松市南部クリーンセンターの騒音調査地点位置図

(4) 振動

1) 道路交通振動

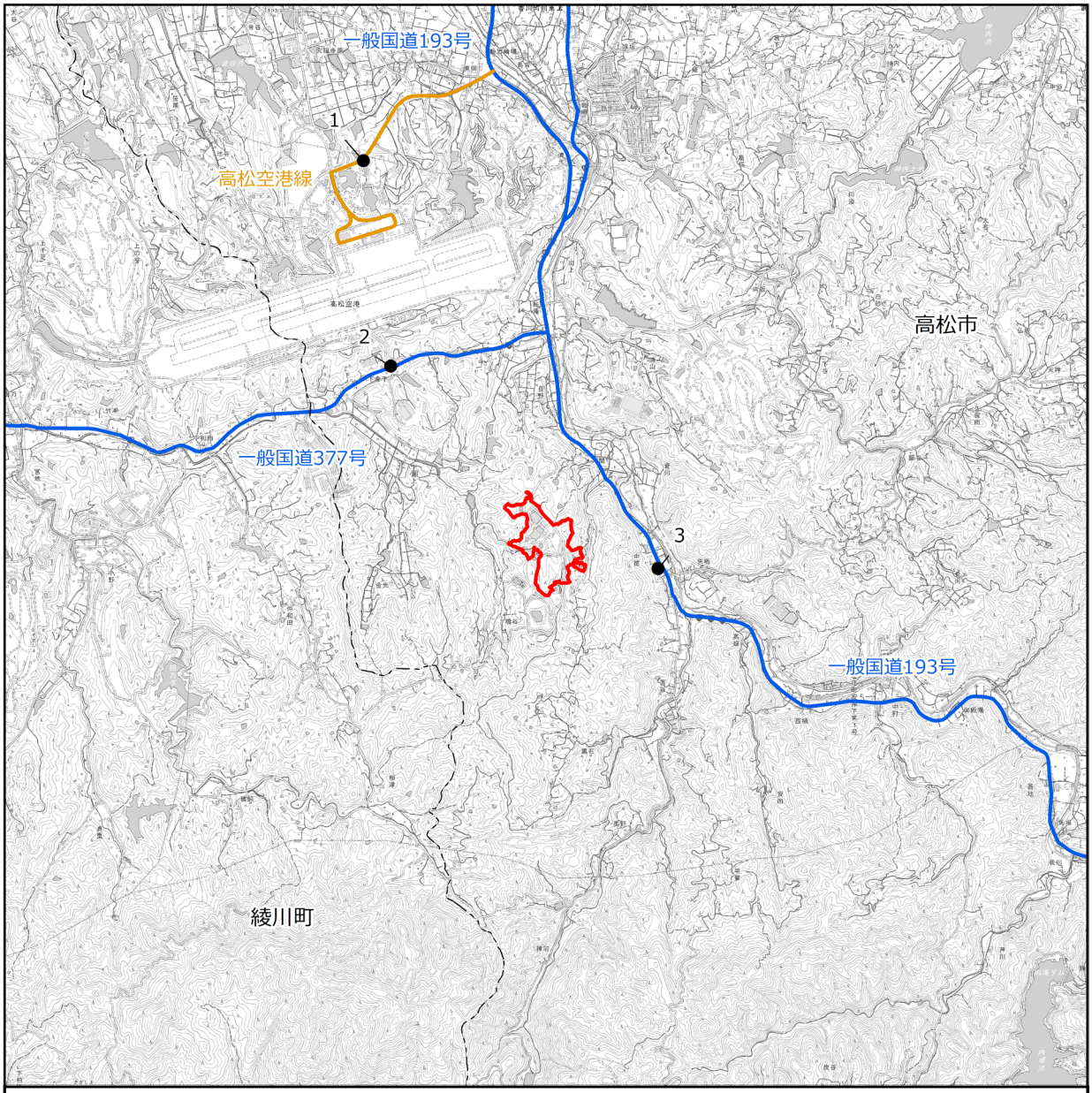
調査区域では、令和元年～令和2年にかけて、道路交通騒音地点と同地点で道路交通振動測定を実施している。調査地点における道路交通振動測定結果を表 3-19に、調査区域の道路交通振動調査地点位置を図 3-9に示す。

表 3-19　調査区域の道路交通振動測定結果

単位：dB

No.	年	調査地点名	路線名	車線数	車道からの距離(m)	振動測定結果	
						振動レベル（L_{10}）	
						昼間	夜間
1	令和元年	高松市香南町岡	主要地方道 高松空港線	2	4.0	44	36
2	令和２年	塩江町安原下第３号	一般国道 377 号	2	1.0	29	20
3	令和２年	塩江町安原下第２号	一般国道 193 号	2	1.2	34	26

注1）単位dBとは、計量法（平成4年法律第51号）に定める振動加速度レベルの計量単位である。
注2）No.は図 3-9に対応している。
注3）No.1～3は、いずれも振動規制法に基づく道路交通振動の要請限度の定めのない地域に位置している。
出典：「高松市資料」（令和7年9月）



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000 を複製して情報を追記したものである。

凡　例

- 対象事業実施区域
- 一般国道
- 主要地方道
- 道路交通振動調査地点

出典：「高松市資料」（令和7年9月）

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図　3-9　調査区域の道路交通振動調査地点位置図

2) 現有施設における測定結果

対象事業実施区域に位置する高松市南部クリーンセンターでは、8地点で振動を測定している。令和4年～令和7年の高松市南部クリーンセンターの測定結果を表3-20に、振動調査地点位置を図 3-10に示す。示す。令和4年～令和7年の全ての地点で公害防止基準値（現有施設）を満たしている。

表 3-20　高松市南部クリーンセンターにおける振動の測定結果

単位：dB

測定日	測定地点数	昼間 (公害防止基準値：60dB 以下)	夜間 (公害防止基準値：55dB 以下)
令和４年６月３日	1 地点	35	25 未満
	7 地点	25 未満	
令和４年 12 月２日	1 地点	32	25 未満
	7 地点	25 未満	
令和５年６月９日	1 地点	33	25 未満
	1 地点	27	
	6 地点	25 未満	
令和５年 12 月８日	1 地点	25	25 未満
	7 地点	25 未満	
令和６年６月７日	1 地点	32	25 未満
	7 地点	25 未満	
令和６年 12 月３日	1 地点	26	25 未満
	7 地点	25 未満	
令和７年６月６日	1 地点	31	25 未満
	7 地点	25 未満	

注）昼間（8時～19時）、夜間（19時～翌朝8時）とする。
出典：「高松市資料」（令和7年9月）

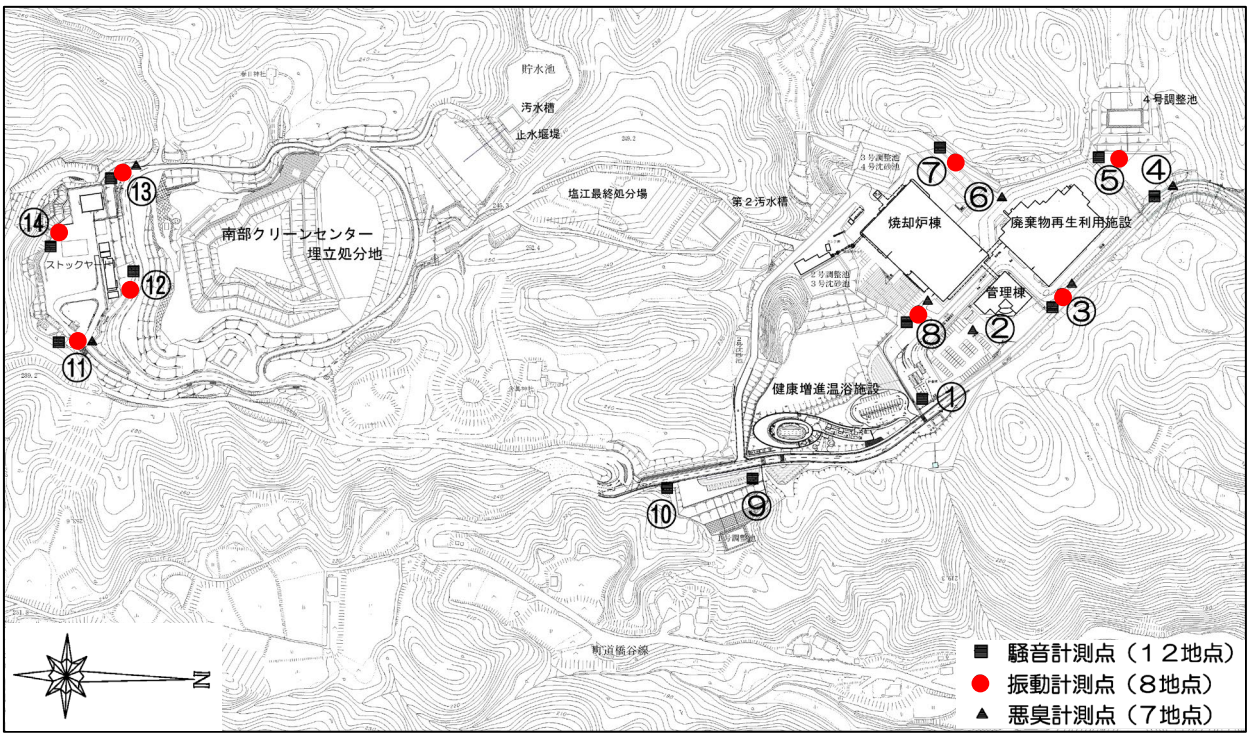


図 3-10　高松市南部クリーンセンターの振動調査地点位置図

(5) 悪臭

対象事業実施区域に位置する高松市南部クリーンセンターでは、7地点で悪臭を測定している。令和4年～令和7年の高松市南部クリーンセンターの測定結果を表3-21(1)～(7)に、悪臭調査地点位置を図 3-11に示す。令和4年～令和7年の全ての地点で公害防止基準値（現有施設）を満たしている。

表 3-21(1)　高松市南部クリーンセンターにおける悪臭の測定結果

単位：ppm

特定悪臭物質	公害防止基準値	令和４年６月７日						
		No.2	No.3	No.4	No.6	No.8	No.11	No.13
アンモニア	1 以下	0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
メチルメルカプタン	0.002 以下	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
硫化水素	0.02 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
硫化メチル	0.01 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009 以下	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
トリメチルアミン	0.005 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
アセトアルデヒド	0.05 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
プロピオンアルデヒド	0.05 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ノルマルブチルアルデヒド	0.009 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソブチルアルデヒド	0.02 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルバレルアルデヒド	0.009 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソバレルアルデヒド	0.003 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソブタノール	0.9 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
酢酸エチル	3 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
メチルイソブチルケトン	1 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
トルエン	10 以下	<0.01	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	0.02	0.01
スチレン	0.4 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
プロピオン酸	0.03 以下	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
ノルマル酪酸	0.001 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005

注）測定結果欄における“く”は報告下限値未満であることを示す。

出典：「高松市資料」（令和5年4月）

表 3-21(2)　高松市南部クリーンセンターにおける悪臭の測定結果

単位：ppm

特定悪臭物質	公害防止基準値	令和４年 12 月６日						
		No.2	No.3	No.4	No.6	No.8	No.11	No.13
アンモニア	1 以下	<0.05	0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	0.12
メチルメルカプタン	0.002 以下	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
硫化水素	0.02 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
硫化メチル	0.01 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009 以下	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
トリメチルアミン	0.005 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
アセトアルデヒド	0.05 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
プロピオンアルデヒド	0.05 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ノルマルブチルアルデヒド	0.009 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソブチルアルデヒド	0.02 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルバレルアルデヒド	0.009 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソバレルアルデヒド	0.003 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソブタノール	0.9 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
酢酸エチル	3 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
メチルイソブチルケトン	1 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
トルエン	10 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
スチレン	0.4 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
プロピオン酸	0.03 以下	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
ノルマル酪酸	0.001 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005

注）測定結果欄における“<”は報告下限値未満であることを示す。

出典：「高松市資料」（令和5年4月）

表 3-21(3)　高松市南部クリーンセンターにおける悪臭の測定結果

単位：ppm

特定悪臭物質	公害防止基準値	令和５年６月８日						
		No.2	No.3	No.4	No.6	No.8	No.11	No.13
アンモニア	1 以下	0.09	0.08	0.23	0.09	0.08	0.16	0.15
メチルメルカプタン	0.002 以下	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
硫化水素	0.02 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
硫化メチル	0.01 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009 以下	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
トリメチルアミン	0.005 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
アセトアルデヒド	0.05 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
プロピオンアルデヒド	0.05 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ノルマルブチルアルデヒド	0.009 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソブチルアルデヒド	0.02 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルバレルアルデヒド	0.009 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソバレルアルデヒド	0.003 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソブタノール	0.9 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
酢酸エチル	3 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
メチルイソブチルケトン	1 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
トルエン	10 以下	<0.01	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	0.02	0.01
スチレン	0.4 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
プロピオン酸	0.03 以下	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
ノルマル酪酸	0.001 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005

注）測定結果欄における“く”は報告下限値未満であることを示す。
出典：「高松市資料」（令和6年2月）

表 3-21(4)　高松市南部クリーンセンターにおける悪臭の測定結果

単位：ppm

特定悪臭物質	公害防止基準値	令和 5 年 12 月 12 日						
		No.2	No.3	No.4	No.6	No.8	No.11	No.13
アンモニア	1 以下	0.06	<0.05	0.10	0.11	0.07	0.17	<0.05
メチルメルカプタン	0.002 以下	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
硫化水素	0.02 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
硫化メチル	0.01 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009 以下	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
トリメチルアミン	0.005 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
アセトアルデヒド	0.05 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
プロピオンアルデヒド	0.05 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ノルマルブチルアルデヒド	0.009 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソブチルアルデヒド	0.02 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルバレルアルデヒド	0.009 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソバレルアルデヒド	0.003 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソブタノール	0.9 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
酢酸エチル	3 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
メチルイソブチルケトン	1 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
トルエン	10 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
スチレン	0.4 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
プロピオン酸	0.03 以下	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
ノルマル酪酸	0.001 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005

注）測定結果欄における“く”は報告下限値未満であることを示す。
出典：「高松市資料」（令和7年9月）

表 3-21(5)　高松市南部クリーンセンターにおける悪臭の測定結果

単位：ppm

特定悪臭物質	公害防止基準値	令和６年６月４日						
		No.2	No.3	No.4	No.6	No.8	No.11	No.13
アンモニア	1 以下	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	0.05	<0.05
メチルメルカプタン	0.002 以下	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
硫化水素	0.02 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
硫化メチル	0.01 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009 以下	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
トリメチルアミン	0.005 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
アセトアルデヒド	0.05 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
プロピオンアルデヒド	0.05 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ノルマルブチルアルデヒド	0.009 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソブチルアルデヒド	0.02 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルバレルアルデヒド	0.009 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソバレルアルデヒド	0.003 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソブタノール	0.9 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
酢酸エチル	3 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
メチルイソブチルケトン	1 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
トルエン	10 以下	<0.01	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	0.02	0.01
スチレン	0.4 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
プロピオン酸	0.03 以下	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
ノルマル酪酸	0.001 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005

注）測定結果欄における“く”は報告下限値未満であることを示す。

出典：「高松市資料」（令和7年9月）

表 3-21(6)　高松市南部クリーンセンターにおける悪臭の測定結果

単位：ppm

特定悪臭物質	公害防止基準値	令和 6 年 12 月 9 日						
		No.2	No.3	No.4	No.6	No.8	No.11	No.13
アンモニア	1 以下	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
メチルメルカプタン	0.002 以下	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
硫化水素	0.02 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
硫化メチル	0.01 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009 以下	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
トリメチルアミン	0.005 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
アセトアルデヒド	0.05 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
プロピオンアルデヒド	0.05 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ノルマルブチルアルデヒド	0.009 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソブチルアルデヒド	0.02 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルバレルアルデヒド	0.009 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソバレルアルデヒド	0.003 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソブタノール	0.9 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
酢酸エチル	3 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
メチルイソブチルケトン	1 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
トルエン	10 以下	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
スチレン	0.4 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
プロピオン酸	0.03 以下	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
ノルマル酪酸	0.001 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005

注）測定結果欄における“く”は報告下限値未満であることを示す。

出典：「高松市資料」（令和7年9月）

表 3-21(7)　高松市南部クリーンセンターにおける悪臭の測定結果

単位：ppm

特定悪臭物質	公害防止基準値	令和７年６月２日						
		No.2	No.3	No.4	No.6	No.8	No.11	No.13
アンモニア	1 以下	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
メチルメルカプタン	0.002 以下	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
硫化水素	0.02 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
硫化メチル	0.01 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009 以下	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
トリメチルアミン	0.005 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
アセトアルデヒド	0.05 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
プロピオンアルデヒド	0.05 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ノルマルブチルアルデヒド	0.009 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソブチルアルデヒド	0.02 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルバレルアルデヒド	0.009 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソバレルアルデヒド	0.003 以下	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
イソブタノール	0.9 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
酢酸エチル	3 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
メチルイソブチルケトン	1 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
トルエン	10 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
スチレン	0.4 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1 以下	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
プロピオン酸	0.03 以下	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
ノルマル酪酸	0.001 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001 以下	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005

注）測定結果欄における“<”は報告下限値未満であることを示す。
出典：「高松市資料」（令和7年9月）

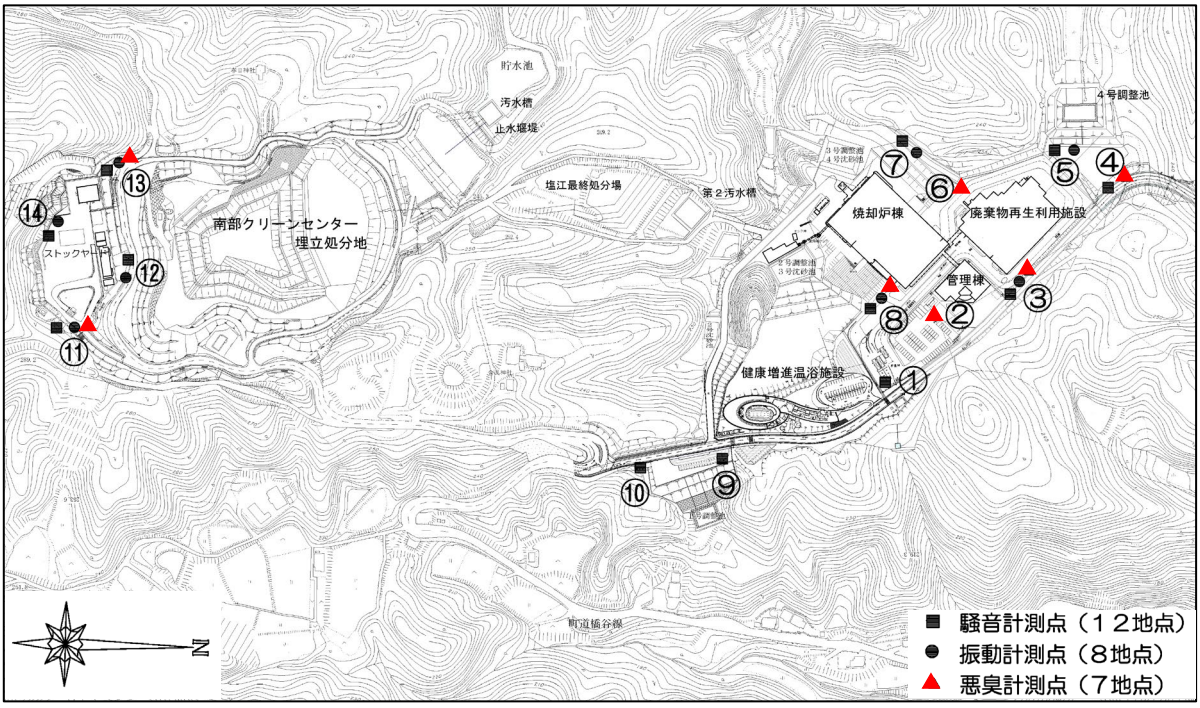


図 3-11　高松市南部クリーンセンターの悪臭調査地点位置図

3.1.2 水環境の状況

(1) 一般的な水象の状況

調査区域の河川及び湖沼一覧を表 3-22に、河川・湖沼等位置図を図 3-12に示す。

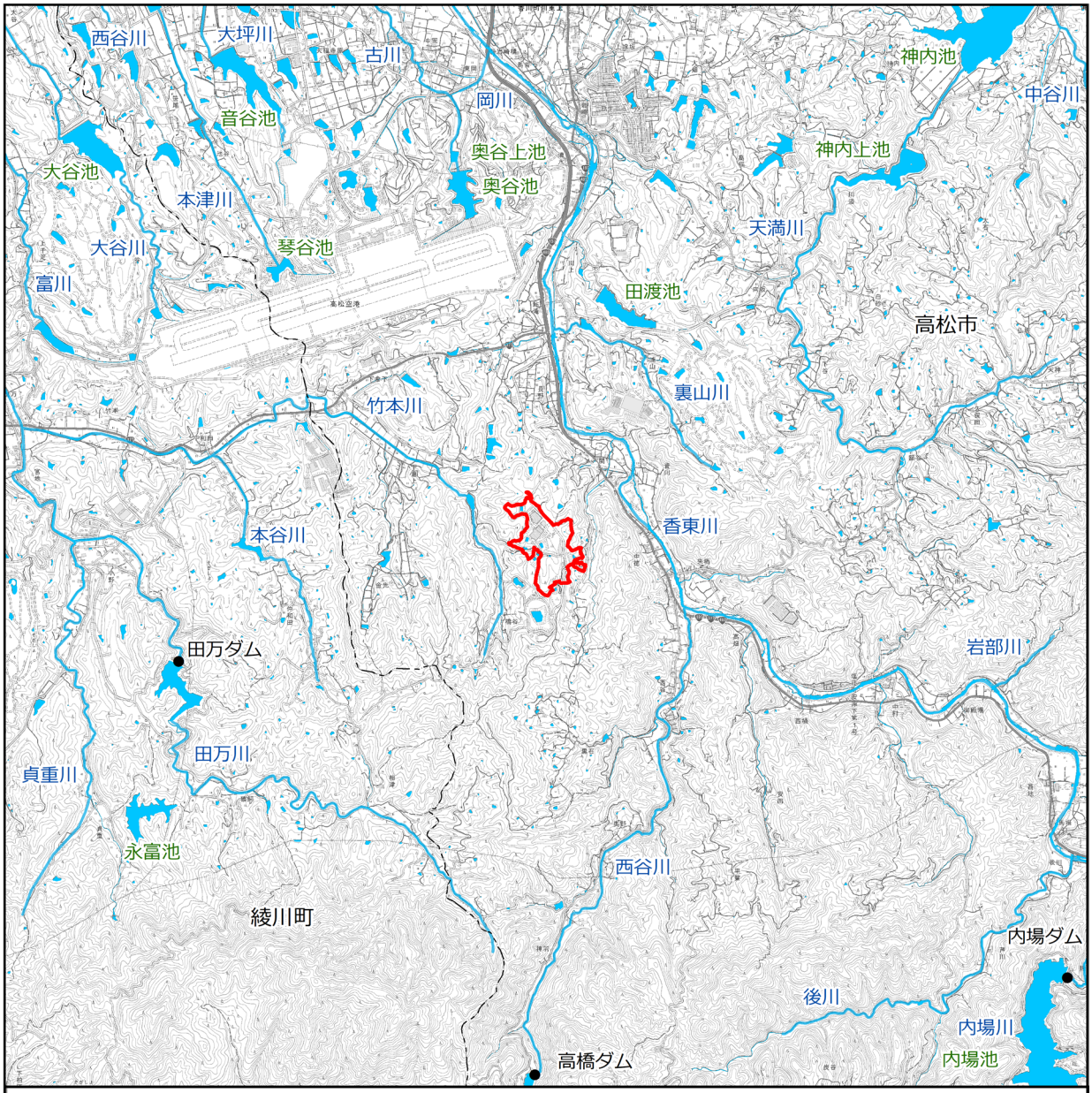
調査区域を流れる主な河川は、香東川水系の香東川、西谷川、綾川水系の田万川、新川水系の天満川等である。ダムの代表的なものは、対象事業実施区域の南東側に内場ダム、南西側に田万ダムがある。ため池は、北東側に神内池、南西側に永富池があるほか、調査区域全域に多数が広範囲に分布している。

対象事業実施区域の東側には香東川、西側には綾川水系の竹本川が南北に流れ、周辺には複数のため池が分布している。

表 3-22　調査区域の河川及び代表的な湖沼一覧

区分	水系等	名称
河川	香東川水系	香東川
		岡川
		裏山川
		西谷川
		岩部川
		後川
		内場川
	本津川水系	本津川
		古川
		西谷川
		大坪川
	新川水系	天満川
		中谷川
	綾川水系	大谷川
		富川
		田万川
		本谷川
		竹本川
		貞重川
湖沼	ダム	内場ダム（内場池）
		田万ダム
		高橋ダム
	ため池等	神内池
		神内上池
		田渡池
		奥谷池
		奥谷上池
		音谷池
		琴谷池
		大谷池
		永富池

出典：「高松土木事務所総合管内図」（高松土木事務所）
「中讃土木事務所総合管内図」（中讃土木事務所）



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000 を複製して情報を追記したものである。

凡　例

- 対象事業実施区域
- 主要な河川 、湖沼
- ダム

出典：「基盤地図情報ダウンロードサービス（水域データ）」国土交通省国土地理院HP
（https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php）
「国土数値情報（土地利用データ）」国土交通省HP（https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/）
「高松土木事務所総合管内図」（高松土木事務所）
「中讃土木事務所総合管内図」（中讃土木事務所）

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図　3-12　調査区域の河川・湖沼等位置図

(2) 水質

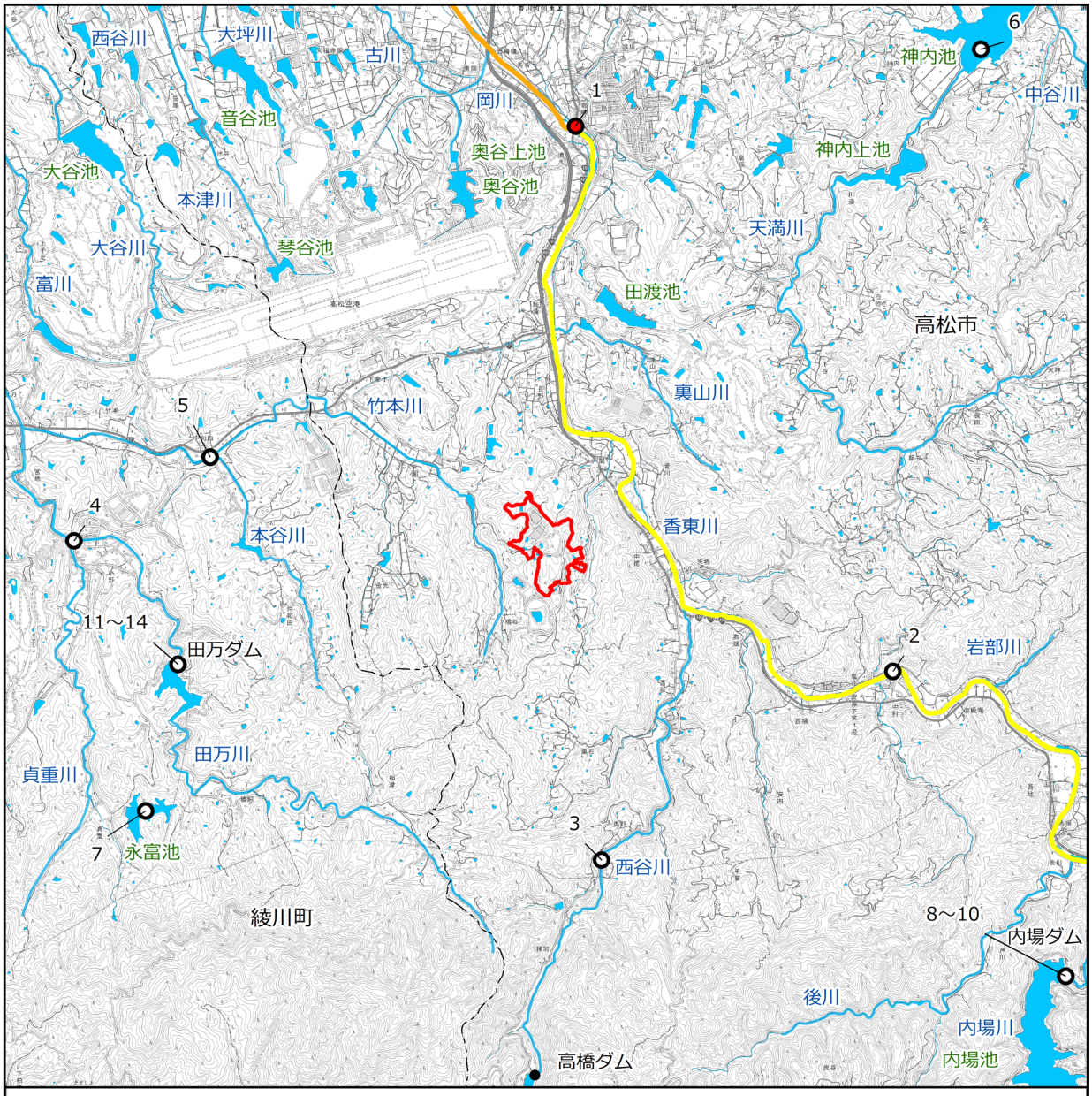
調査区域では、令和5年度に香東川や田万川等の河川で5地点、神内池、永富池等のため池で2地点、内場ダム、田万ダムではダム湖周辺の7地点において水質調査が実施されている。調査区域の水質調査概要を表 3-23に、水質調査地点位置図を図 3-13に、各調査地点の水質測定結果を表 3-25～表 3-28に示す。なお、調査区域では、令和5年度に健康項目に関する調査は実施されていない。

環境基準点である香東川の岩崎橋における測定結果は、ダイオキシン類調査の環境基準を達成している。一方、生活環境項目については、大腸菌数が環境基準を達成しなかった。

表 3-23 調査区域の水質調査概要

No.	河川・湖沼名等	調査地点	環境基準点	水域類型	調査項目				
					健康項目	生活環境項目	要監視項目	ダイオキシン類	その他項目
1	香東川	岩崎橋	○	河川 A	○注4)	○		○	○
2		川中島		河川 A		○			○
3	西谷川	奥野もみじ橋		―		○			○
4	田万川	田万川・貞重川合流点		―		○			○
5	竹本川	川北橋		―		○			○
6	神内池	神内池		―		○			
7	永富池	永富池		―		○			
8	内場ダム	放水口（表水層）		―		○			
9		放水口（底水層）		―		○			
10		下流		―		○			
11	田万ダム	放水口（表水層）		―		○			
12		放水口（底水層）		―		○			
13		下流		―		○			
14		上流		―		○			

注1）環境基準点欄における“○”は、該当調査地点が環境基準点であることを示す。
注2）水域類型欄における“－“は、水域類型が設定されていないことを示す。
注3）各項目欄における“○”は、該当項目の一部について調査を実施していることを示す。
注4）岩崎橋では令和5年度に健康項目の調査が行われていないため、令和4年度の調査結果を記載している。
注5）No.は、図 3-13に対応している。
注6）各調査地点における調査実施主体は以下のとおり。
No.1、2：高松市、民間検査機関
No.3、6：高松市
No.4、5、7：民間検査機関
No.8～14：農業試験場
出典：「公共用水域水質測定結果（令和5年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2023suishitsusokutei.html）



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000 を複製して情報を追記したものである。

凡　例

- 対象事業実施区域
- 主要な河川 、湖沼
- ダム

水質環境類型区分

- 河川 A 類型
- 河川 B 類型

水質及び水底の底質調査地点

- 環境基準点
- 補足地点

出典：「基盤地図情報ダウンロードサービス（水域データ）」
国土交通省国土地理院HP
（https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php）
「国土数値情報（土地利用データ）」国土交通省HP
（https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/）
「高松土木事務所総合管内図」（高松土木事務所）
「中讃土木事務所総合管内図」（中讃土木事務所）
「公共用水域水質測定結果（令和5年度）」香川県HP
（ https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2023suishitsusokutei.html）

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図　3-13　調査区域の水質及び水底の底質調査地点位置図

表 3-24　調査区域の水質測定結果（健康項目）

No.		1			環境基準
河川・湖沼名		香東川			
調査地点		岩崎橋（環境基準点）			
調査項目		平均	最大	最小	
健康項目	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003　以下
	全シアン	ND	ND	ND	検出されないこと
	鉛	<0.005	<0.005	<0.005	0.01　以下
	六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	0.02　以下
	砒素	<0.005	<0.005	<0.005	0.01　以下
	総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
	アルキル水銀	−	−	−	検出されないこと
	PCB	ND	ND	ND	検出されないこと
	ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	0.02　以下
	四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002　以下
	1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004　以下
	1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.1　以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	0.04　以下
	1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1　以下
	1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006　以下
	トリクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	0.01　以下
	テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01　以下
	1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002　以下
	チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006　以下
	シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003　以下
	チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	0.02　以下
	ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	0.01　以下
	セレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.01　以下
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.30	0.26	0.33	10　以下
	ふっ素	0.12	0.09	0.16	0.8　以下
	ほう素	<0.1	<0.1	<0.1	1　以下
	1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	0.05　以下

注1）測定結果欄における“ND”は検出限界未満、“<”は報告下限値未満、“−”は測定項目対象外であることを示す。
注2）No.は、図 3-13に対応している。
出典：「公共用水域水質測定結果（令和4年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2022suisitusokutei.html）

表 3-25(1)　調査区域の水質測定結果（生活環境項目　利用目的の適応性）

No	河川・湖沼名 調査地点 （水域類型）	区分	調査項目								
			pH (－)	DO (mg/L)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)	N－ヘキサン抽出物質油分等 (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全りん (mg/L)
1	香東川 岩崎橋 （A 類型） ※環境基準点	75%値	8.2	8.7	1.3	5.1	4	3.5×E+2	ND	1.3	0.039
		平均	8.1	9.7	1.1	4.4	4	1.6×E+2	ND	1.3	0.045
		最大	8.8	13	1.6	5.6	13	6.2×E+2	ND	2.4	0.16
		最小	7.7	6.6	0.7	3.0	<1	6.0×E+0	ND	0.74	0.011
2	香東川 川中島 （A 類型）	75%値	8.0	9.2	0.6	4.1	3	1.5×E+2	ND	1.6	0.017
		平均	8.0	9.9	0.6	3.6	2	8.8×E+1	ND	1.2	0.013
		最大	8.1	12	0.9	4.2	4	1.5×E+2	ND	2.4	0.019
		最小	7.9	8.7	<0.5	2.7	1	3.3×E+1	ND	0.68	0.004
3	西谷川 奥野もみじ橋 （指定なし）	75%値	8.3	9.1	0.7	3.3	<1	1.7×E+2	－	1.5	0.006
		平均	8.3	10	0.6	2.8	<1	9.0×E+1	－	1.2	0.005
		最大	8.3	11	0.7	3.3	<1	1.7×E+2	－	1.5	0.006
		最小	8.3	9.1	<0.5	2.3	<1	1.0×E+1	－	0.99	0.003
4	田万川 田万川・貞重川合流点 （指定なし）	75%値	7.9	9.0	1.3	4.4	2	4.9×E+2	－	0.93	0.075
		平均	7.8	9.9	1.2	4.6	2	1.6×E+2	－	0.76	0.055
		最大	8.0	12	1.3	7.5	7	4.9×E+2	－	1.2	0.082
		最小	7.7	8.3	1.0	3.6	<1	1.7×E+1	－	0.47	0.034
5	竹本川 川北橋 （指定なし）	75%値	8.2	10	2.0	5.8	3	3.6×E+3	－	3.2	0.19
		平均	7.9	10	1.7	5.8	3	8.6×E+2	－	2.4	0.17
		最大	8.2	12	2.3	7.8	6	3.6×E+3	－	3.3	0.24
		最小	7.5	8.7	1.2	5.0	<1	1.2×E+2	－	1.1	0.12
6	神内池 神内池 （指定なし）	75%値	8.5	7.0	－	10	9	<1.0×E+0	－	1.1	0.074
		平均	8.0	8.1	－	8.4	6	<1.0×E+0	－	0.79	0.055
		最大	8.5	9.1	－	10	9	<1.0×E+0	－	1.1	0.074
		最小	7.4	7.0	－	6.8	2	<1.0×E+0	－	0.48	0.036
7	永富池 永富池 （指定なし）	75%値	7.3	8.0	－	5.9	3	－	－	0.63	0.005
		平均	7.1	8.9	－	5.5	2	－	－	0.51	0.005
		最大	7.3	9.8	－	5.9	3	－	－	0.63	0.005
		最小	6.9	8.0	－	5.1	<1	－	－	0.38	0.004
環境基準		河川	A 類型 6.5 以上 8.5 以下	A 類型 7.5 以上	A 類型 2 以下	設定 なし	A 類型 25 以下	A 類型 300 以下	設定 なし	設定 なし	設定なし

注1）測定結果欄における“ND”は検出限界未満、“<”は報告下限値未満、“－”は測定項目対象外であることを示す。
注2）環境基準は岩崎橋、川中島が対象となるA類型の値を示す。
注3）網掛けは環境基準を達成していないことを示す。
注4）75%値のうち、大腸菌数については90%値を示す。
注5）大腸菌数欄の“E+0”、“E+1”、“E+2”等は、それぞれ10のゼロ乗、1乗、2乗等を示す。
注6）No.は、図 3-13に対応している。
出典：「公共用水域水質測定結果（令和5年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2023suishitsusokutei.html）

表 3-25(2) 調査区域の水質測定結果（生活環境項目 利用目的の適応性）

No	河川・湖沼名 調査地点 （水域類型）	区分	調査項目								
			pH (－)	DO (mg/L)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)	N－ヘキサン抽出物質油分等 (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全りん (mg/L)
8	内場ダム 放水口 （表水層） （指定なし）	75%値	7.7	6.9	2.0	4.7	1	－	－	1.2	0.027
		平均	7.5	8.1	1.5	3.3	1	－	－	0.84	0.019
		最大	7.7	10	2.0	4.7	1	－	－	1.2	0.027
		最小	7.3	6.9	<0.5	1.9	1	－	－	0.62	0.007
9	内場ダム 放水口 （底水層） （指定なし）	75%値	7.6	<0.5	8.6	4.7	17	－	－	2.6	0.035
		平均	7.3	1.3	6.0	3.6	9	－	－	1.6	0.026
		最大	7.6	2.7	8.6	4.7	17	－	－	2.6	0.035
		最小	6.9	<0.5	2.5	2.5	<1	－	－	1.1	0.011
10	内場ダム 下流 （指定なし）	75%値	8.0	7.1	1.3	4.1	7	－	－	1.5	0.051
		平均	7.7	8.4	0.8	2.9	3	－	－	1.0	0.036
		最大	8.0	10	1.3	4.1	7	－	－	1.5	0.051
		最小	7.3	7.1	0.5	1.5	1	－	－	0.72	0.013
11	田万ダム 放水口 （表水層） （指定なし）	75%値	7.7	6.2	1.7	6.2	1	－	－	1.1	1.8
		平均	7.5	8.2	1.4	4.1	1	－	－	0.82	0.61
		最大	7.7	10	1.7	6.2	1	－	－	1.1	1.8
		最小	7.2	6.2	1.0	1.8	<1	－	－	0.55	0.012
12	田万ダム 放水口 （底水層） （指定なし）	75%値	7.6	<0.5	10	7.3	41	－	－	10	0.12
		平均	7.3	<0.5	6.6	4.9	16	－	－	4.1	0.067
		最大	7.6	<0.5	10	7.3	41	－	－	10	0.12
		最小	7.0	<0.5	4.3	3.1	<1	－	－	0.87	0.024
13	田万ダム 下流 （指定なし）	75%値	7.7	6.6	1.3	4.7	2	－	－	0.92	0.067
		平均	7.6	7.9	1.1	3.7	1	－	－	0.79	0.050
		最大	7.7	9.3	1.3	4.7	2	－	－	0.92	0.067
		最小	7.5	6.6	0.9	2.2	1	－	－	0.60	0.031
14	田万ダム 上流 （指定なし）	75%値	7.7	6.9	0.7	3.3	1	－	－	0.75	0.081
		平均	7.6	8.1	0.6	2.4	1	－	－	0.67	0.049
		最大	7.7	9.5	0.7	3.3	1	－	－	0.75	0.081
		最小	7.4	6.9	0.6	1.1	<1	－	－	0.56	0.027

注1）測定結果欄における“ND”は検出限界未満、“<”は報告下限値未満、“－”は測定項目対象外であることを示す。
注2）No.は、図 3-13に対応している。
注3）75%値のうち、大腸菌数については90%値を示す。
出典：「公共用水域水質測定結果（令和5年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2023suishitsusokutei.html）

表 3-26　調査区域の水質測定結果（生活環境項目 水生生物の生息状況の適応性）

単位：mg/L

No	河川・湖沼名 調査地点 (水域類型) 注2)	区分	調査項目		
			全亜鉛	ノニルフェノール	LAS 注3)
1	香東川 岩崎橋 （指定なし）	75%値	0.001	<0.00006	<0.0006
		平均	0.001	<0.00006	<0.0006
		最大	0.001	<0.00006	<0.0006
		最小	<0.001	<0.00006	<0.0006
2	香東川 川中島 （指定なし）	75%値	0.002	−	−
		平均	0.002	−	−
		最大	0.002	−	−
		最小	0.001	−	−
8	内場ダム 放水口 （表水層） （指定なし）	75%値	0.004	−	−
		平均	0.002	−	−
		最大	0.004	−	−
		最小	<0.001	−	−
9	内場ダム 放水口 （底水層） （指定なし）	75%値	0.003	−	−
		平均	0.003	−	−
		最大	0.003	−	−
		最小	0.003	−	−
10	内場ダム 下流 （指定なし）	75%値	0.009	−	−
		平均	0.004	−	−
		最大	0.009	−	−
		最小	0.001	−	−
11	田万ダム 放水口 （表水層） （指定なし）	75%値	0.011	−	−
		平均	0.004	−	−
		最大	0.011	−	−
		最小	<0.001	−	−
12	田万ダム 放水口 （底水層） （指定なし）	75%値	0.010	−	−
		平均	0.004	−	−
		最大	0.010	−	−
		最小	0.001	−	−
13	田万ダム 下流 （指定なし）	75%値	0.002	−	−
		平均	0.001	−	−
		最大	0.002	−	−
		最小	0.001	−	−
14	田万ダム 上流 （指定なし）	75%値	0.007	−	−
		平均	0.003	−	−
		最大	0.007	−	−
		最小	<0.001	−	−

注1）測定結果欄における“ND”は検出限界未満、“<”は報告下限値未満、“−”は測定項目対象外であることを示す。
注2）水生生物の生息状況の適応性に関する水域類型を示す。
注3）LASは、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩を示す。
注4）No.は、図 3-13に対応している。
出典：「公共用水域水質測定結果（令和5年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2023suishitsusokutei.html）

表 3-27　調査区域の水質測定結果（その他項目）

単位：mg/L

No	河川・湖沼名 調査地点 （水域類型）	区分	調査項目		
			塩化物イオン	MBAS	トリハロメタン生成能
1	香東川 岩崎橋 （A 類型）	75%値	14.5	<0.01	0.055
		平均	13.4	<0.01	0.052
		最大	20.0	<0.01	0.082
		最小	9.0	<0.01	0.030
2	香東川 川中島 （A 類型）	75%値	16.0	－	－
		平均	12.2	－	－
		最大	17.0	－	－
		最小	9.0	－	－
3	西谷川 奥野もみじ橋 （指定なし）	75%値	33.0	－	－
		平均	25.5	－	－
		最大	33.0	－	－
		最小	18.0	－	－
4	田万川 田万川・貞重川合流点 （指定なし）	75%値	5.9	－	－
		平均	5.6	－	－
		最大	5.9	－	－
		最小	4.7	－	－
5	竹本川 川北橋 （指定なし）	75%値	20.0	－	－
		平均	17.5	－	－
		最大	21.0	－	－
		最小	11.0	－	－

注1）測定結果欄における“ND”は検出限界未満、“<”は報告下限値未満、“－”は測定項目対象外であることを示す。
注2）MBASは、陰イオン界面活性剤を示す。
注3）No.は、図 3-13に対応している。
出典：「公共用水域水質測定結果（令和5年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2023suishitsusokutei.html）

表 3-28　調査区域のダイオキシン類調査測定結果（水質）

単位：pg-TEQ/L

No.	河川・湖沼名	調査地点	測定結果（平均値）	環境基準
1	香東川	岩崎橋	0.088	1 以下

注1）No.は、図 3-13に対応している。
注2）水質の基準値は、年間平均値とする。
出典：「公共用水域水質測定結果（令和5年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2023suishitsusokutei.html）

(3) 水底の底質

調査区域では、令和4年度に香東川の岩崎橋において水底の底質のダイオキシン類調査が実施されている。水底の底質のダイオキシン類調査地点位置図を図 3-13に、水底の底質のダイオキシン類測定結果を表 3-29に示す。水底の底質のダイオキシン類調査の結果は、環境基準を達成している。

表 3-29　調査区域のダイオキシン類測定結果（水底の底質）

単位：pg-TEQ/g

No.	河川・湖沼名	調査地点	測定結果（平均値）	環境基準
1	香東川	岩崎橋	0.18	150 以下

注）No.は、図 3-13に対応している。

出典：「公共用水域水質測定結果（令和4年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2022suisitusokutei.html）

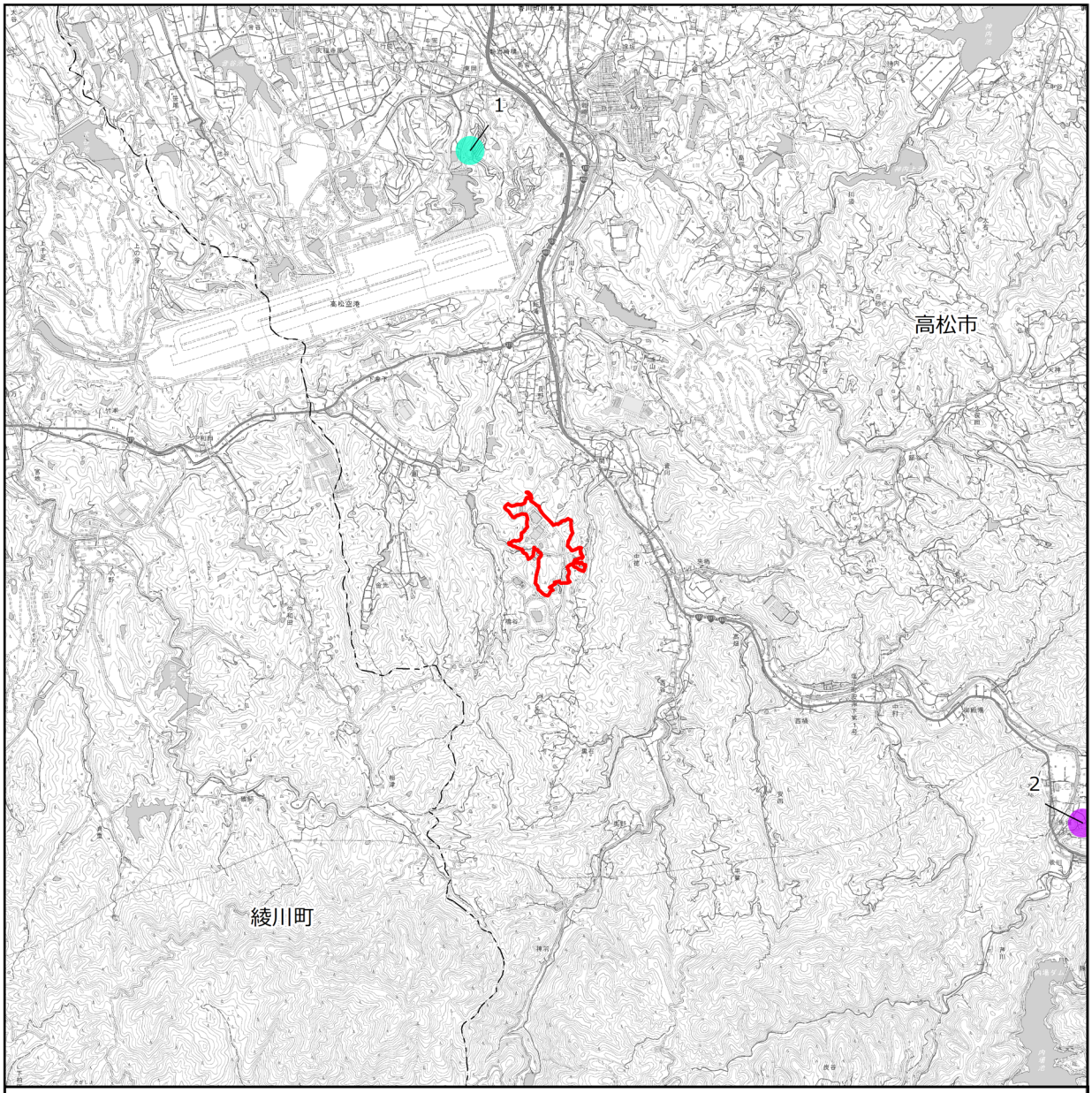
(4) 地下水

調査区域の地下水の状況については、概況調査が1地点（香南町）で行われている。なお、香川県では、過年度に実施された概況調査及び汚染井戸周辺地区調査により確認した汚染地域で実施される継続監視調査が27地点で実施されているが、調査区域には、継続監視調査地点はない。なお、汚染井戸周辺地区調査とは、概況調査等により新たに発見された汚染について、その汚染範囲を確認するとともに汚染原因の究明に資するために実施する地下水調査のことである。

調査区域の令和5年度の地下水水質測定結果（概況調査）を表 3-30に、調査区域の地下水水質調査地点位置図を図 3-14に示す。調査地点の詳細な位置は公表されていないため、調査地点を大まかな円形で示す。

地下水水質測定（概況調査）の結果、環境基準を達成している。

また、調査区域では、令和4年度に高松市塩江町において地下水のダイオキシン類の測定が実施されている。地下水のダイオキシン類測定地点位置図を図 3-14に、地下水のダイオキシン類の測定結果を表 3-31に示す。調査地点の詳細な位置は公表されていないため、調査地点を大まかな円形で示す。地下水のダイオキシン類測定の結果は環境基準を達成している。



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000 を複製して情報を追記したものである。

凡　例

- 対象事業実施区域
- 地下水水質調査地点（概況調査）
- 地下水のダイオキシン類測定地点

注）調査地点の詳細な位置は公表されていないため、調査地点を大まかな円形で示す。
出典：「公共用水域水質測定結果（令和4年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2022suisitusokutei.html）
「公共用水域水質測定結果（令和5年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2023suishitsusokutei.html）

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図　3-14　調査区域の地下水水質調査地点位置図

表 3-30　調査区域の地下水水質測定結果（概況調査）

単位：mg/L

No.	1	環境基準
市町村名/地区名	高松市/香南町	
浅井戸/深井戸	浅井戸	
用途	生活用水井戸	
カドミウム	–	0.003 以下
全シアン	–	検出されないこと。
鉛	< 0.005	0.01 以下
六価クロム	< 0.02	0.02 以下
砒素	< 0.005	0.01 以下
総水銀	< 0.0005	0.0005 以下
アルキル水銀	–	検出されないこと。
PCB	–	検出されないこと。
ジクロロメタン	< 0.002	0.02 以下
四塩化炭素	< 0.0002	0.002 以下
クロロエチレン	–	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	< 0.0004	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	< 0.002	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	< 0.002	–
1,2-ジクロロエチレン	< 0.004	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	< 0.0005	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	< 0.0006	0.006 以下
トリクロロエチレン	< 0.001	0.01 以下
テトラクロロエチレン	< 0.0005	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	< 0.0002	0.002 以下
チウラム	–	0.006 以下
シマジン	–	0.003 以下
チオベンカルブ	–	0.02 以下
ベンゼン	< 0.001	0.01 以下
セレン	–	0.01 以下
硝酸性窒素	0.64	–
亜硝酸性窒素	< 0.01	–
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.65	10 以下
ふっ素	0.40	0.8 以下
ほう素	< 0.1	1 以下
1,4-ジオキサン	–	0.05 以下
トランス-1,2-ジクロロエチレン	< 0.002	–

注1）測定結果欄における“ND”は検出限界未満、“<”は報告下限値未満、“－”は測定項目対象外であることを示す。
注2）環境基準欄における“－”は、環境基準が設定されていないことを示す。
注3）測定機関は、県環境保健研究センター、民間検査機関である。
注4）調査地域は、図 3-14に対応している。
出典：「公共用水域水質測定結果（令和5年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2023suishitsusokutei.html）

表 3-31　調査区域のダイオキシン類の測定結果（地下水）

単位：pg-TEQ/L

No.	測定年度	測定地点	測定結果（年平均値）	環境基準
2	令和４年度	高松市塩江町	0.058	１以下

注）調査地点は、図 3-14に対応している。

出典：「公共用水域水質測定結果（令和4年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2022suisitusokutei.html）

3.1.3 土壌及び地盤の状況

(1) 一般的な土壌の状況

調査区域の土壌図を図 3-15(1)～(2)に示す。

調査区域の北部には、褐色森林土壌（黄褐系）、乾性褐色森林土壌（黄褐系）及び黄色土壌が広く分布し、調査区域北端に位置する香東川の扇状地には、粗粒灰色低地土壌が分布する。また、調査区域北東部には、細粒灰色低地土壌が点在して分布する。調査区域の中央部及び北部には、乾性褐色森林土壌（黄褐系）が広く分布し、褐色森林土壌（黄褐系）や褐色低地土壌が点在して分布する。

(2) 土壌に係る環境の状況

調査区域では、香川県による土壌中のダイオキシン類調査が実施されている。調査区域の土壌中のダイオキシン類調査結果を表 3-32に、土壌中のダイオキシン類調査地点位置図を図 3-16に示す。

令和元～令和5年度の5年間において、調査区域では令和元年度と令和4年度に2か所で調査が実施されている。なお、調査地点の詳細な位置は公表されていないため、調査地点を大まかな円形で示す。令和元年度及び令和4年度における調査では、いずれも環境基準を達成している。

表 3-32　調査区域のダイオキシン類測定結果（土壌）

単位：pg-TEQ/g

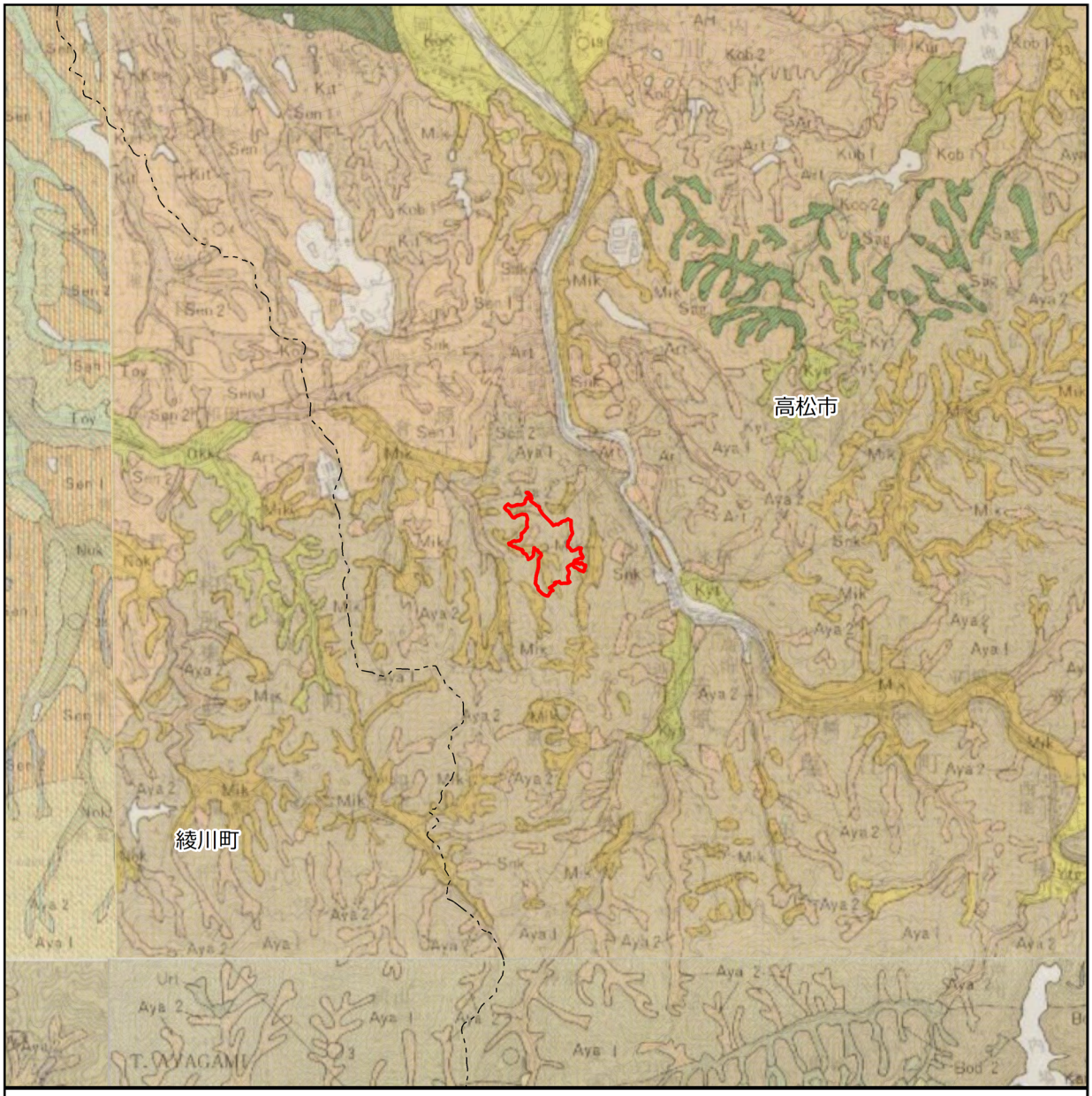
No.	測定年度	調査地点	測定結果（年平均値）	環境基準
1	令和元年度	高松市塩江町安原下	0.0011	1,000 以下
2	令和４年度	高松市塩江町	0.14	

注）No.は、図 3-16に対応している。

出典：「公共用水域水質測定結果（令和元年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/rei1suisitu.html）
「公共用水域水質測定結果（令和4年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2022suisitusokutei.html）

(3) 地盤の状況

「令和5年度全国の地盤沈下地域の概況（令和7年3月）」（環境省HP）及び「全国地盤環境情報ディレクトリ　香川県 讃岐平野（高松市周辺）　地盤環境情報　令和5年度」（環境省HP）によると、調査区域では近年の地盤沈下は認められていない。



凡　例

対象事業実施区域

注）土壌図の凡例は次ページに掲載する。
出典：①「土地分類基本調査　土壌図（高松南部）（昭和49年3月）」香川県
②「土地分類基本調査　土壌図（脇町）（昭和52年3月）」徳島県・香川県
③「土地分類基本調査　土壌図（丸亀）（昭和44年3月）」経済企画庁
④「土地分類基本調査　土壌図（池田）（昭和47年3月）」徳島県・香川県

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2
km

図　3-15(1)　調査区域の土壌図

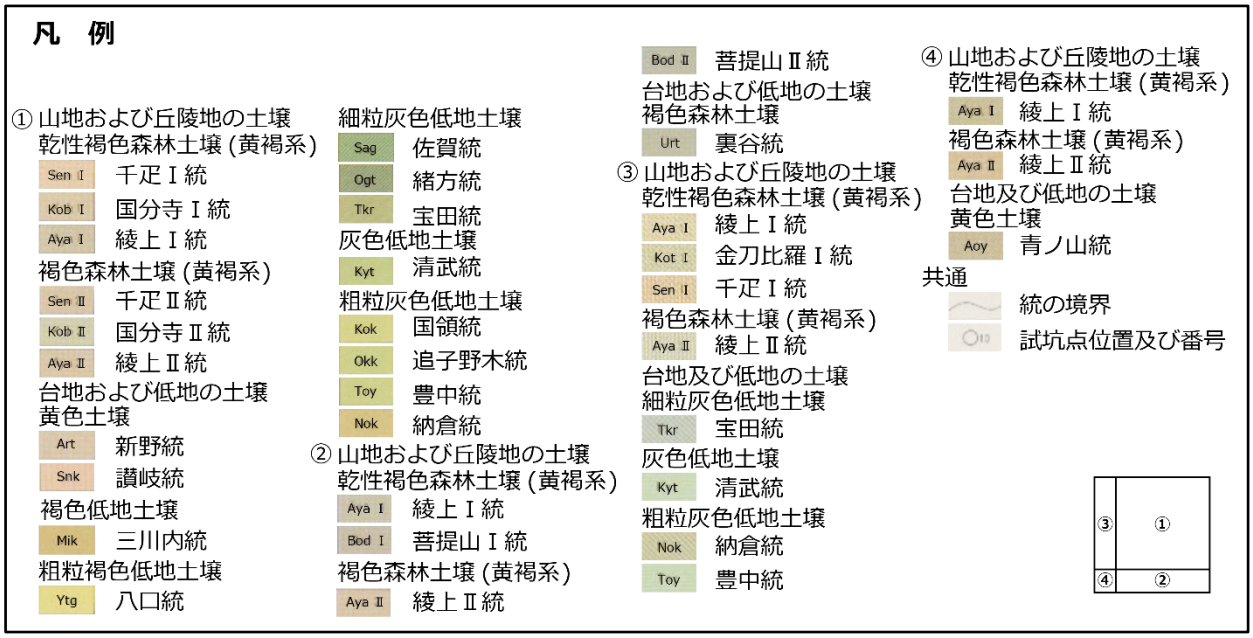
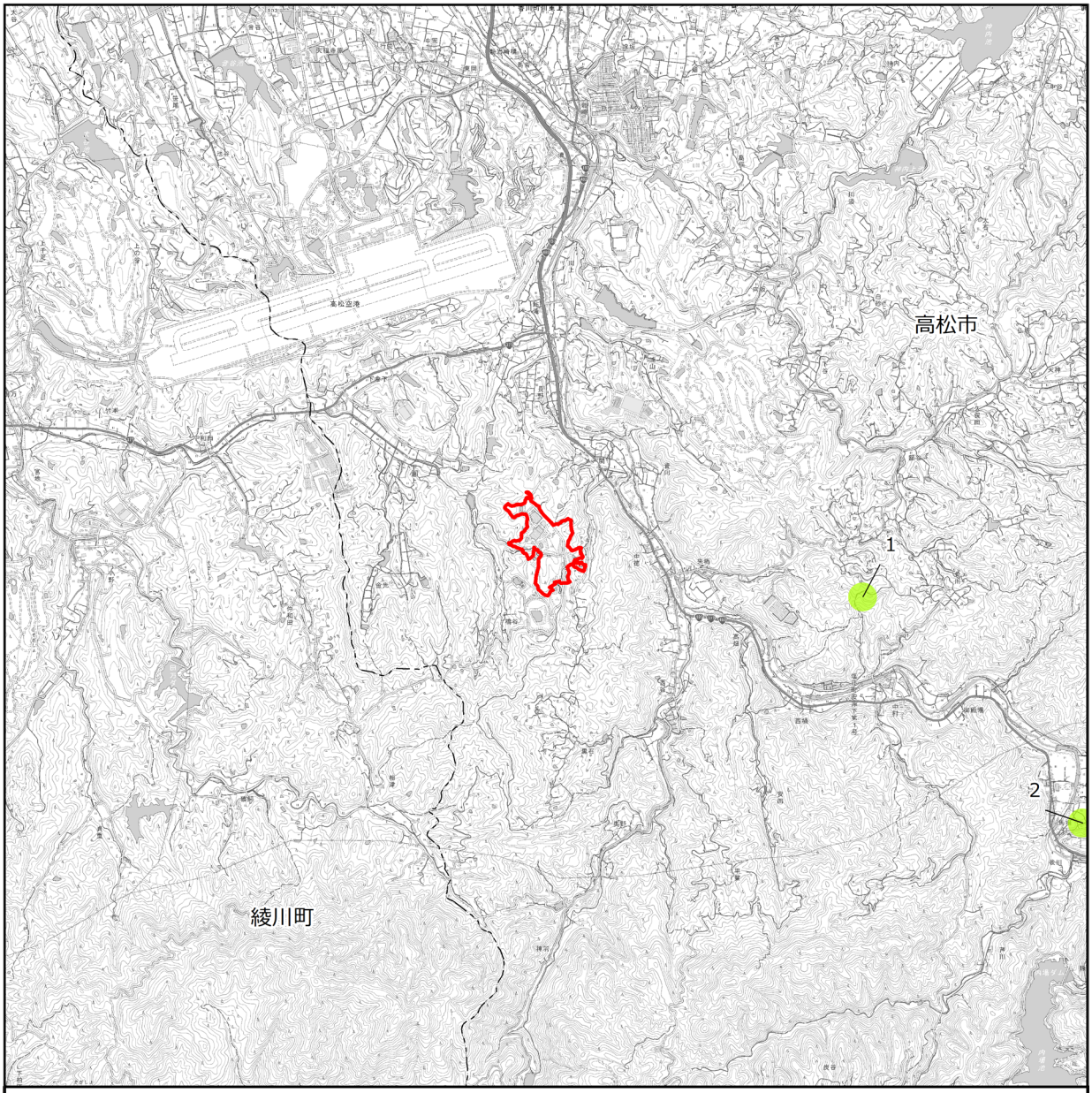


図　3-15(2)　調査区域の土壌図



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000
を複製して情報を追記したものである。

凡　例

対象事業実施区域

土壌のダイオキシン類測定地点

注）調査地点の詳細な位置は公表されていないため、調査地点を大まかな円形で示す。
出典：「公共用水域水質測定結果（令和元年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/rei1suisitu.html）
「公共用水域水質測定結果（令和4年度）」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyokanri/mizudojou/taisaku/2022suisitusokutei.html）

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2
km

図　3-16　調査区域の土壌中のダイオキシン類測定地点位置図

3.1.4 地形及び地質の状況

(1) 一般的な地形の状況

調査区域の地形分類図を図 3-17(1)～(2)に示す。調査区域には、北部は砂礫台地（上位・下位）に谷底平野及び氾濫原が入り組み、複数の中小河川が分布する。また、中央部には前山丘陵と呼ばれる山麓地が広く分布し、讃岐山脈の一部である南部には中起伏山地及び小起伏山地が分布する。調査区域を北東から南に流下する香東川の周囲には谷底平野及び氾濫原が分布し、その両岸には崖が連続的に分布する。また、調査区域の北端には高松平野へ続く扇状地が形成されている。

(2) 活断層の分布状況

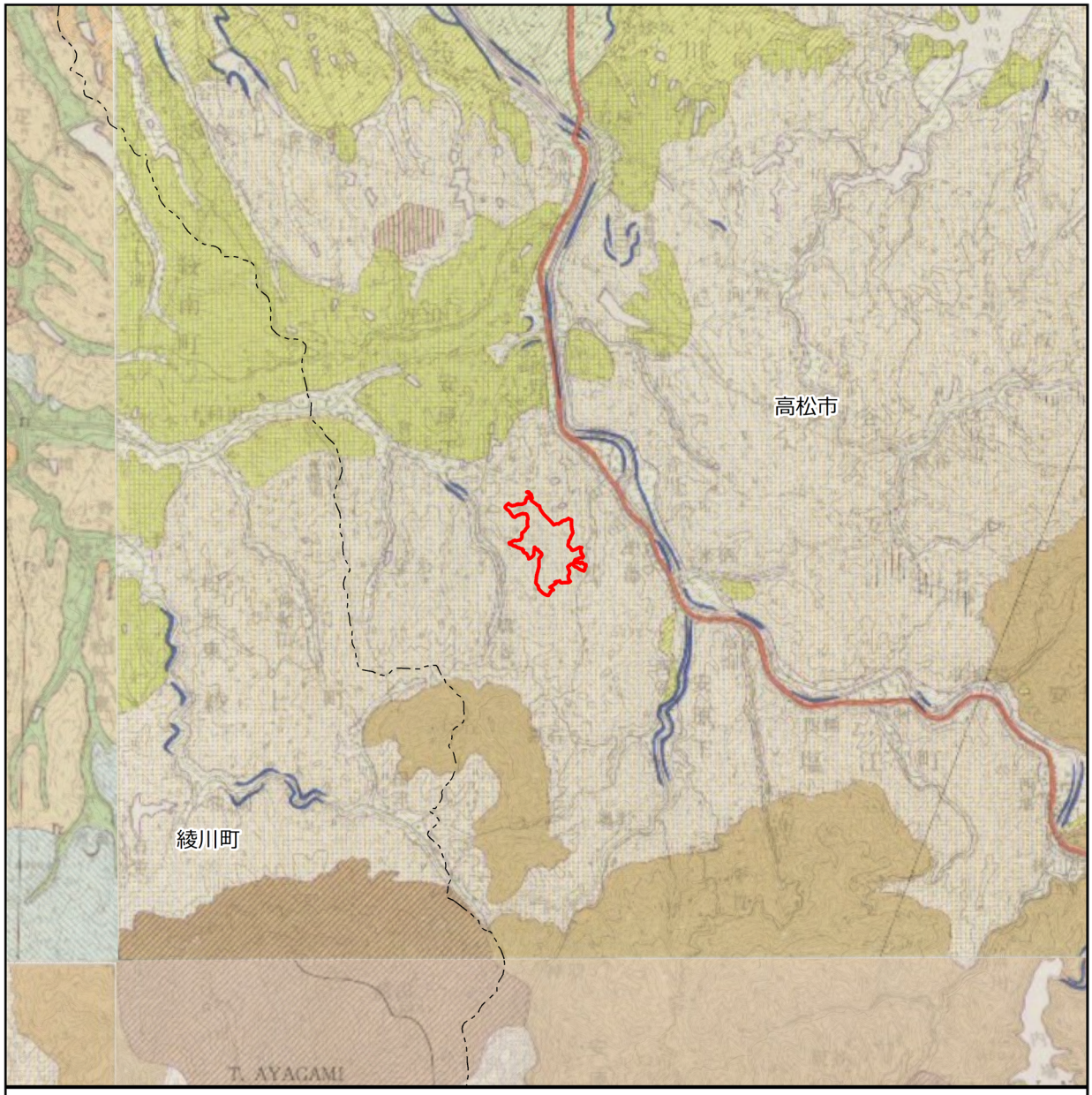
調査区域の活断層位置図を図 3-18に示す。「活断層データベース」（産業技術総合研究所HP）によると、調査区域には活断層とされる長尾活動セグメントが分布するが、対象事業実施区域には分布しない。

(3) 一般的な地質、堆積物の状況

調査区域の表層地質図を図 3-19(1)～(2)に示す。調査区域には、広範囲に花崗岩類が分布する。また、調査区域の北部には、礫、砂及び粘土（高位堆積物）、砂礫及び粘土（低位堆積物）等の半固結堆積物が分布し、調査区域の南端部には、泥岩及び泥岩がち砂岩・泥岩互層が分布し、長尾断層が東西方向に走る。更に、香東川等の河川周辺には礫がち堆積物、泥がち堆積物等の未固結堆積物が分布する。

(4) 重要な地形及び地質の分布及び特性

調査区域には、文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）、香川県文化財保護条例（昭和30年10月1日香川県条例第17号）、高松市文化財保護条例（昭和41年3月29日高松市条例第13号）、綾川町文化財保護条例（平成18年3月21日綾川町条例第90号）に基づき指定された天然記念物、香川県自然環境保全条例（昭和49年4月2日香川県条令第17号）により指定された香川県自然記念物、「第3回自然環境保全基礎調査　香川県自然環境情報図（平成元年）」（環境庁）「日本の地形レッドデータブック　第1集　新装版－危機にある地形－（平成12年12月）」(小泉武栄・青木賢人)、「日本の地形レッドデータブック　第2集－保存すべき地形－（平成14年3月）」（小泉武栄・青木賢人）のいずれかに記載された重要な地形及び地質はない。



凡　例

対象事業実施区域

注）地形分類図の凡例は次ページに掲載する。
出典：①「土地分類基本調査　地形分類図（高松南部）（昭和49年3月）」香川県
②「土地分類基本調査　地形分類図（脇町）（昭和52年3月）」徳島県・香川県
③「土地分類基本調査　地形分類図（丸亀）（昭和44年3月）」経済企画庁
④「土地分類基本調査　地形分類図（池田）（昭和47年3月）」徳島県・香川県

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2
km

図　3-17(1)　調査区域の地形分類図

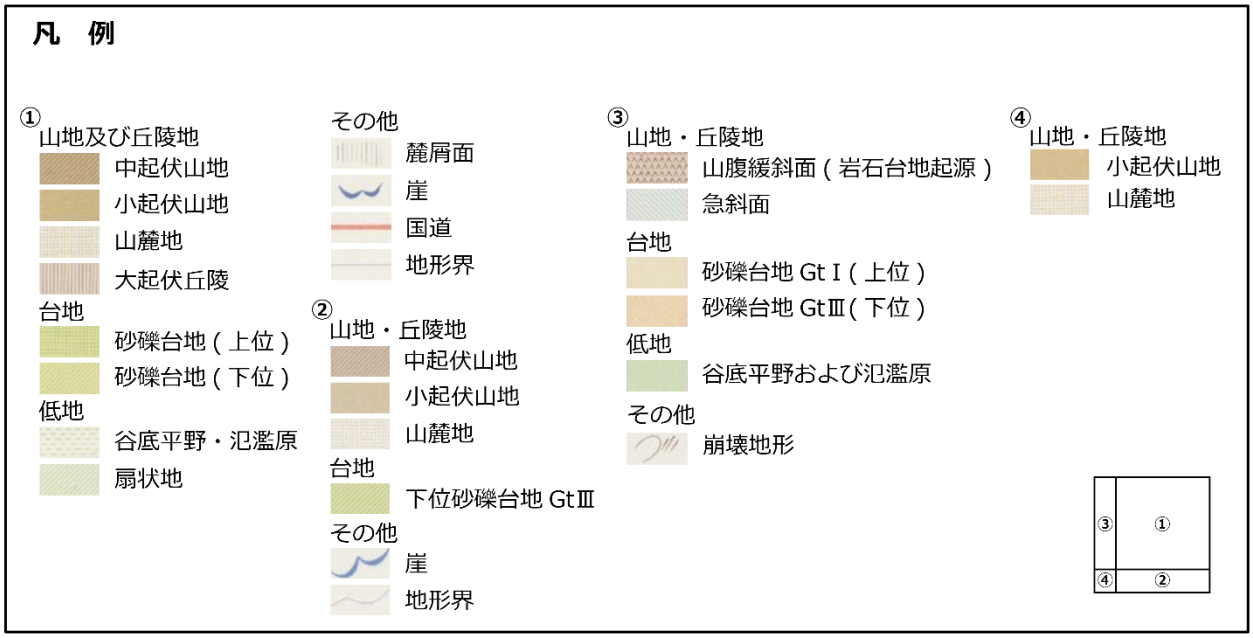
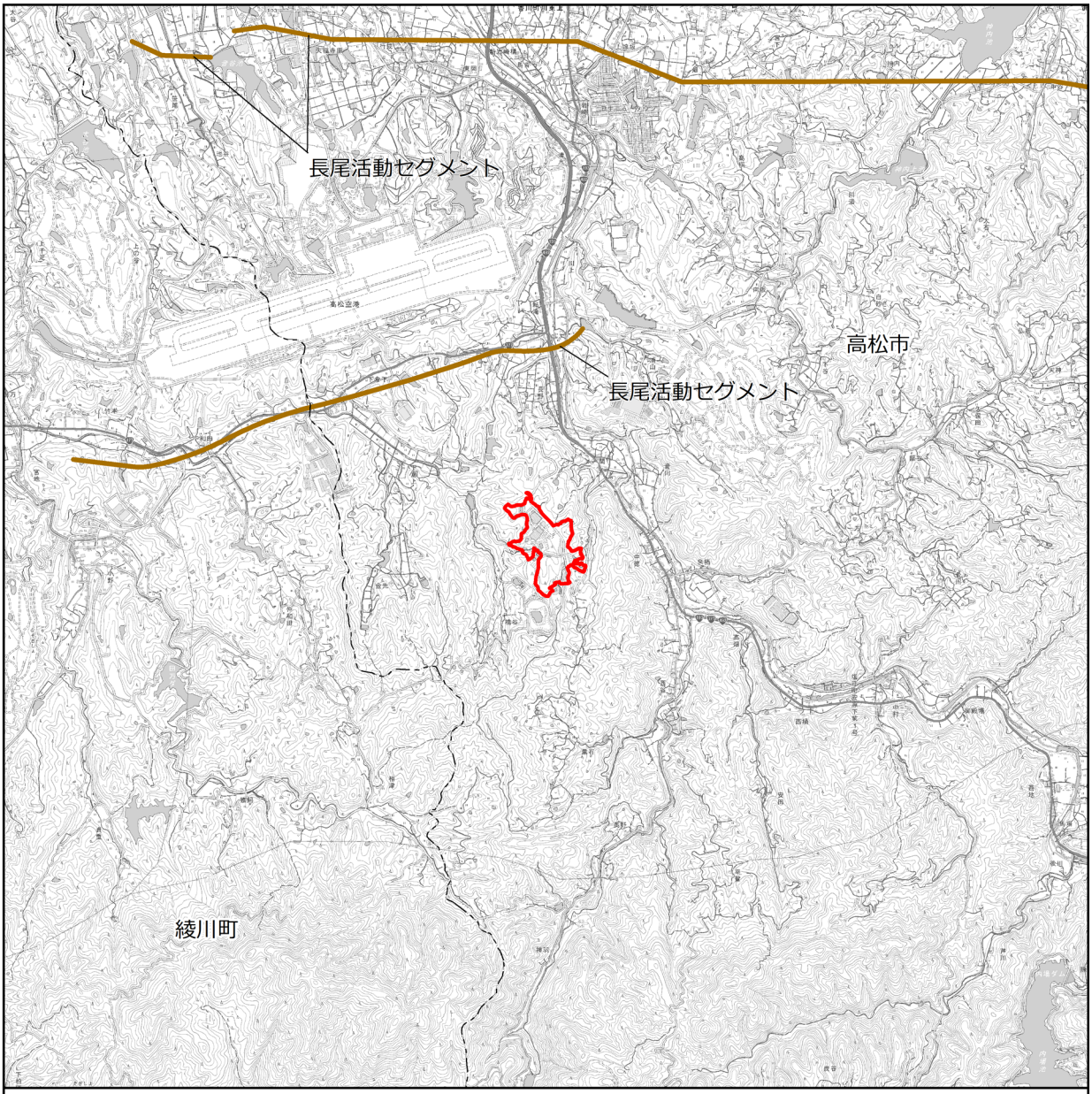


図　3-17(2)　調査区域の地形分類図



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000
を複製して情報を追記したものである。

凡　例

対象事業実施区域

活断層

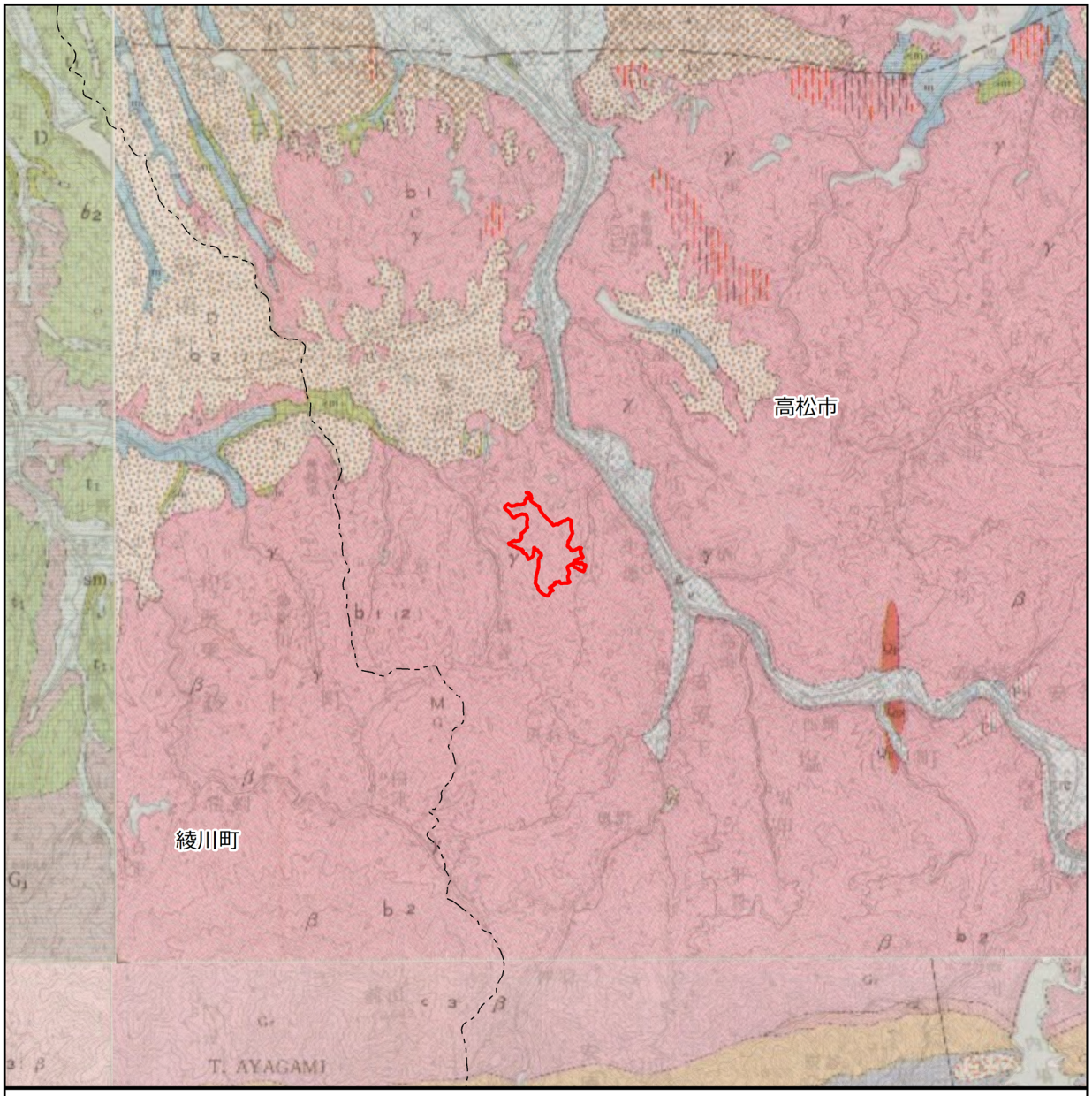
出典：「活断層データベース」産業技術総合研究所HP（https://gbank.gsj.jp/activefault/）

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図　3-18　調査区域の活断層位置図



凡　例

対象事業実施区域

注）表層地質図の凡例は次ページに掲載する。
出典：①「土地分類基本調査　表層地質図（高松南部）（昭和49年3月）」香川県
②「土地分類基本調査　表層地質図（脇町）（昭和52年3月）」徳島県・香川県
③「土地分類基本調査　表層地質図（丸亀）（昭和44年3月）」経済企画庁
④「土地分類基本調査　表層地質図（池田）（昭和47年3月）」徳島県・香川県

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2
km

図　3-19(1)　調査区域の表層地質図

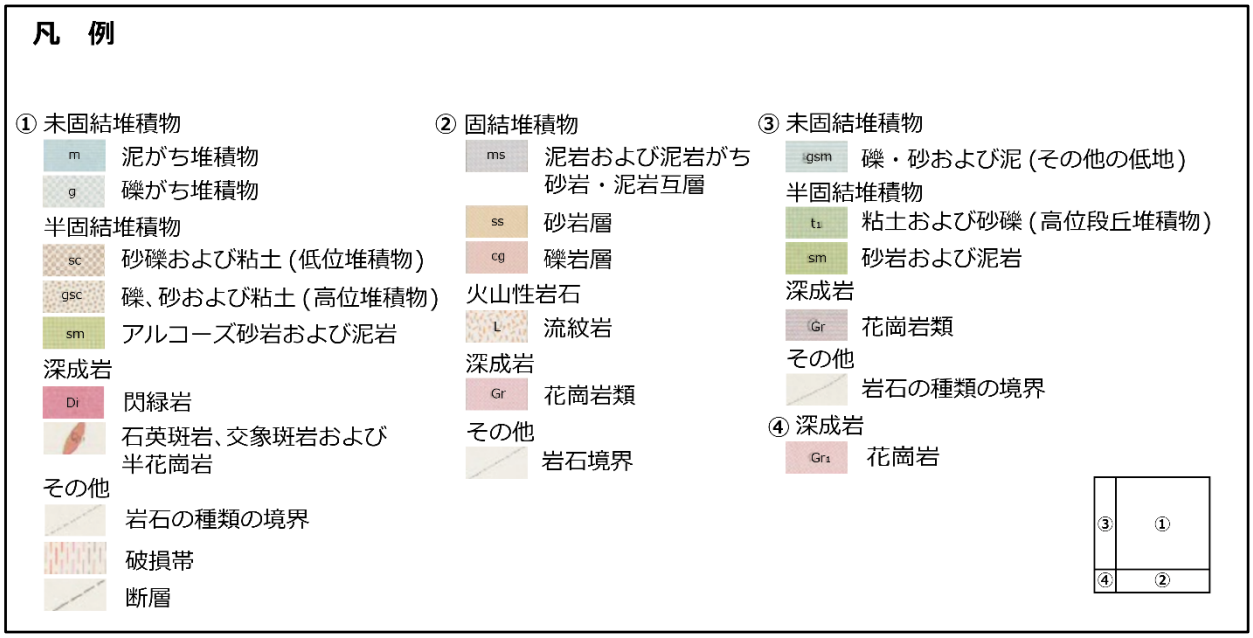


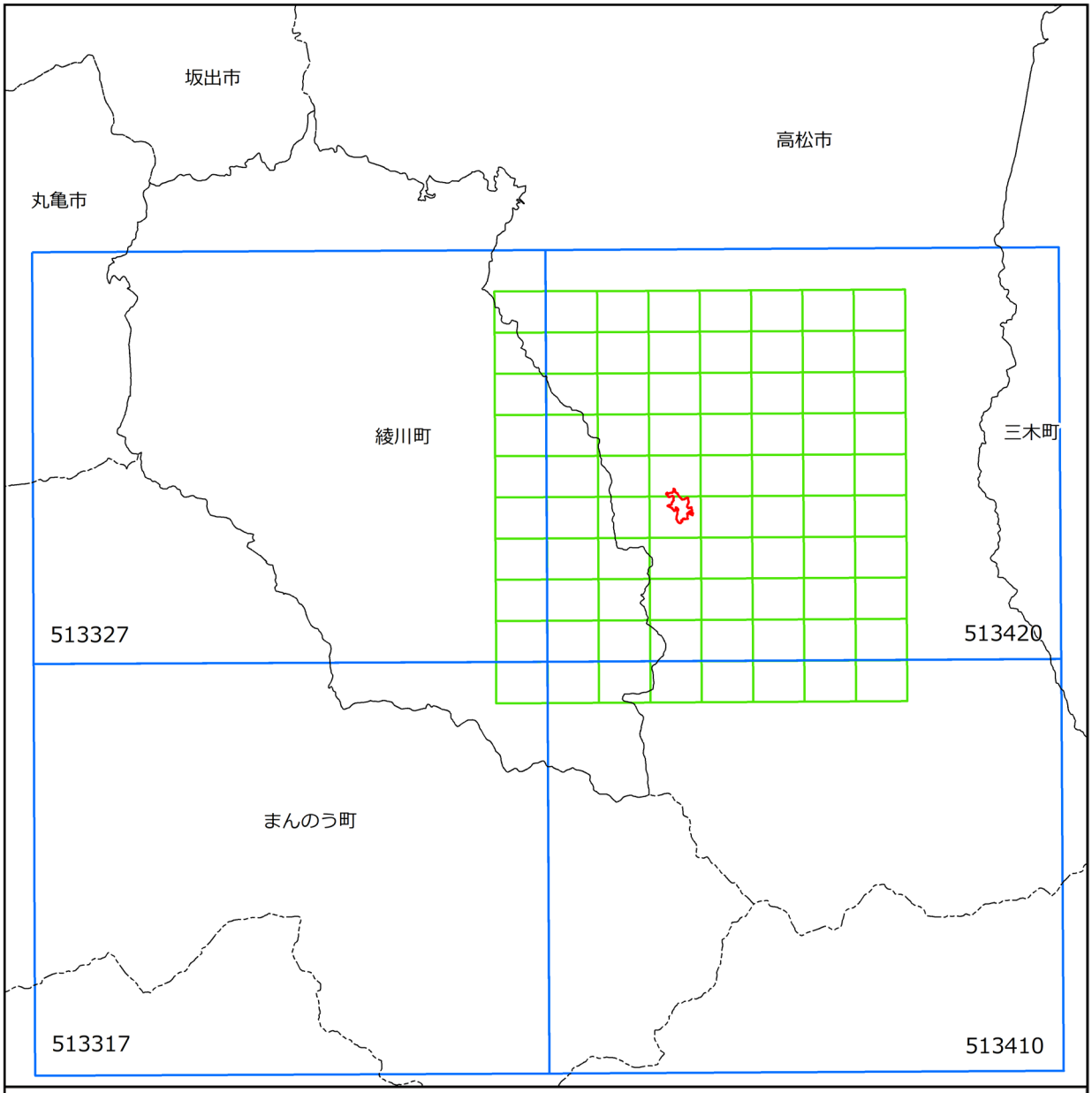
図　3-19(2)　調査区域の表層地質図

3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

調査対象とした動植物の生息・生育に関する文献資料一覧を表 3-33に示す。

第2回～第6回自然環境保全基礎調査の動植物分布については、調査区域を含む2次メッシュ（513317、513327、513410、513420）及び3次メッシュを調査範囲とした。調査区域を含む2次メッシュ・3次メッシュ図を図 3-20に示す。

自然環境保全基礎調査のうち、特定植物群落調査、巨樹・巨木林調査については、調査地点位置図を基に調査区域に分布する種を対象とした。また、「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物（令和3年）」（香川県HP）及びその他の文献資料に記載されている分布・生息状況から、高松市、綾川町、調査区域を含む旧自治体（塩江町、香川町、香南町、綾南町、綾上町）で確認されている種、及び県内全域で確認されている種を整理した。



凡　例

- 対象事業実施区域
- 調査区域
- 調査区域を含む 2 次メッシュ
- 調査区域を含む 3 次メッシュ

出典：「自然環境調査Web-GIS」環境省HP（http://gis.biodic.go.jp/webgis/）

N

1:150,000

0 1 2 3 4 5 km

図　3-20　調査区域を含む 2 次メッシュ・3 次メッシュ図

表 3-33　調査対象とした動植物の生育・生息に関する文献資料一覧

No.	文献資料名
1	「第1回自然環境保全基礎調査（昭和51年）」環境庁
2	「第2回自然環境保全基礎調査（昭和53～54年）」環境庁
3	「第3回自然環境保全基礎調査（昭和58～62年）」環境庁
4	「第4回自然環境保全基礎調査（昭和63～平成4年）」環境庁
5	「第5回自然環境保全基礎調査（平成5～10年）」環境庁
6	「第6回自然環境保全基礎調査（平成11～16年）」環境庁・環境省
7	「第7回自然環境保全基礎調査（平成17年～24年）」環境省
8	「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物（令和3年）」香川県HP（https://www.pref.kagawa.lg.jp/midorihozen/seibutu/hogo_jyore/webred2021.html）
9	「ガンカモ類の生息調査 昭和44年度～令和6年度」環境省HP（https://www.biodic.go.jp/gankamo/gankamo_top.html）
10	「香川県国・県指定文化財 地域別一覧表」香川県HP（ https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/shogaigakushu/bunkazai/culturalassets/culturalassets.html）
11	「天然記念物」高松市HP（ https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/smph/kurashi/kosodate/bunka/bunkazai/shiteibunkazai/tennen/index.html）
12	「香川県自然記念物」香川県HP（https://www.pref.kagawa.lg.jp/midorihozen/shizen/guidemap/kinen.html）
13	「国・県・市町指定等文化財」綾川町
14	「環境アセスメントデータベース」環境省HP（https://www2.env.go.jp/eiadb/ebidbs/）
15	「平成30年度版高松市環境白書（平成31年3月）」高松市HP（https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/kurashi/kankyo/kankyo_hakusho/20190318171157758.html）
16	「令和6年度版高松市環境白書（令和7年1月）」高松市HP（https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/smph/kurashi/kurashi/kankyo/kankyo_hakusho/k_soum_up20250127.html）
17	「香川県のクモ（第一報～第五報）（平成29年～令和4年）」馬場友希、香川生物44～49
18	「高松地区南部広域市町村圏振興事務組合　南部広域清掃センター更新施設整備に係る環境影響評価書（平成12年）」高松地区南部広域市町村圏振興事務組合

注1）「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物（令和3年）」（香川県HP）において、主に鳥類については具体的な確認地名が記載されていないため、「分布」欄又は「県内での生息状況」欄に記載された生息環境から対象種を抽出した。具体的には、ため池・河川（下流域は対象外とした）・平地・丘陵・山地・水田・農耕地・河川敷等を抽出対象とした。

注2）番号8～18について、市町単位より詳細な分布情報が記載されている場合は、調査区域を含む地域（字名等）・河川・ため池等に生息・生育する種を抽出した。

(1) 植物

1) 植物相

文献資料調査の結果、調査区域及びその周辺において、140科695種の植物が確認された。

樹林に生育する種では、コナラ、アベマキ、オニグルミ、リョウブ、タラノキ等の落葉広葉樹、アラカシ、ツブラジイ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、アオキ等の常緑広葉樹、ヒサカキ、アセビ、ヒイラギ等の常緑低木類、主に林床に生育するシハイスミレ、ヒトリシズカ、ホウチャクソウ、ギンラン、ツルリンドウ、オカタツナミソウ等、シダ植物のゼンマイ、ワラビ、コシダ、ミゾシダ等が確認された。また、ため池や湿地等の水域に生育する種では、ヒルムシロ、ジュンサイ、コウホネ、イシモチソウ、イヌタヌキモ、ミミカキグサ等が、耕作地や河川周辺の草地等で生育する種では、アマナ、ユウスゲ、チガヤ、キツネノボタン、オミナエシ等が、市街地や耕作地周辺に生育する種では、メヒシバ、エノコログサ、セイヨウタンポポ等が確認された。

2) 植生

調査区域における現存植生図を図 3-21に示す。

調査区域は香川県の中央部に位置し、全域が暖温帯ヤブツバキクラス域に属している。調査区域は山地及び丘陵地が大半を占め、植生はヤブツバキクラス域代償植生であるアカマツ群落（VII）及びコナラ群落（VII）が分布し、特に南側の山地には広範囲に分布するほか、調査区域南部の丘陵地・山地を中心に、スギ・ヒノキ・サワラ植林が見られる。

調査区域の北部にみられる低地・台地には、香東川、綾川等の河川沿いを中心に水田雑草群落が広く分布し、緑の多い住宅地、ゴルフ場・芝地、牧草地、畑雑草群落、造成地等も分布する。また、北側に点在する社寺林を中心に、アラカシ群落、カナメモチ－コジイ群集やシイ・カシ二次林等の常緑広葉樹林が分布する。

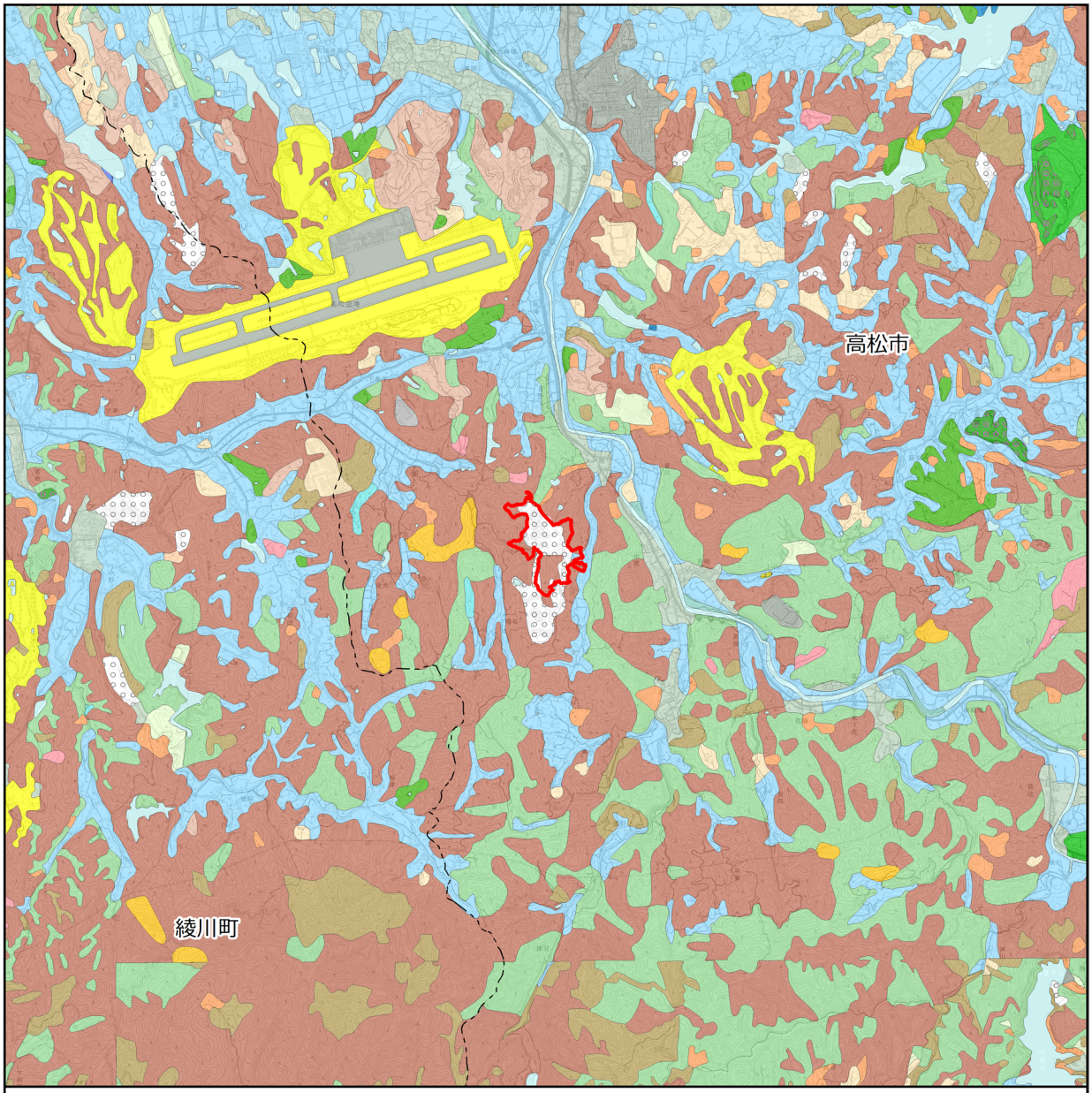
また、水辺植生として、調査区域を北東から南に流れる香東川水系や綾川水系の河畔には、主にツルヨシ群集が分布し、調査区域の北部を中心に全域に点在するため池の周辺には、アカメヤナギ群落、低木群落、ヨシクラス植生等が分布する。

3) 重要な植物種・群落等の状況

① 植物相

調査区域及びその周辺で確認された重要な植物（維管束植物）を表 3-34 (1)～(7)に、調査区域の重要な種位置図を図 3-22に示す。文献資料調査の結果、調査区域及びその周辺において、81科256種の重要な植物が確認された。

調査区域及びその周辺で確認された重要な種は、ため池等に生育する浮葉植物のサンショウモ、コウホネ、ガガブタ、沈水植物のスブタ、トリゲモ、抽水植物のナガエミクリ、コガマ、山地の樹林地に生育するクロモジ、サワグルミ、メグスリノキ、ナツツバキ、ヤマヒョウタンボク、山地の樹林林床に生育するチャボホトトギス、ムギラン、キンラン、ヒゴスミレ、山地の岩上や石垣等に着生するマツバラン、ヒメウラジロ、イワデンダ、サジラン、耕作地や河川周辺の草地等に生育するセンブリ、アイナエ、スズサイコ、キキョウ、貧栄養湿地等に生育するウメバチソウ、トウカイコモウセンゴケ、ミミカキグサ、水田雑草であるヒメミズワラビ、アギナシ、ミズマツバ、早春に開花するアマナ、ミスミソウ等である。



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000
を複製して情報を追記したものである。

凡　例

対象事業実施区域

- アラカシ群落
- カナメモチ－コジイ群集
- アカメヤナギ群落
- シイ・カシ二次林
- コナラ群落(VII)
- アカマツ群落(VII)
- 低木群落
- 伐採跡地群落(VII)
- ヨシクラス
- ツルヨシ群集
- スギ・ヒノキ・サワラ植林
- クスノキ植林
- 竹林
- ゴルフ場・芝地
- 牧草地
- 路傍・空地雑草群落
- 放棄畑雑草群落
- 果樹園
- 畑雑草群落
- 水田雑草群落
- 放棄水田雑草群落
- 市街地
- 緑の多い住宅地
- 工場地帯
- 造成地
- 開放水域

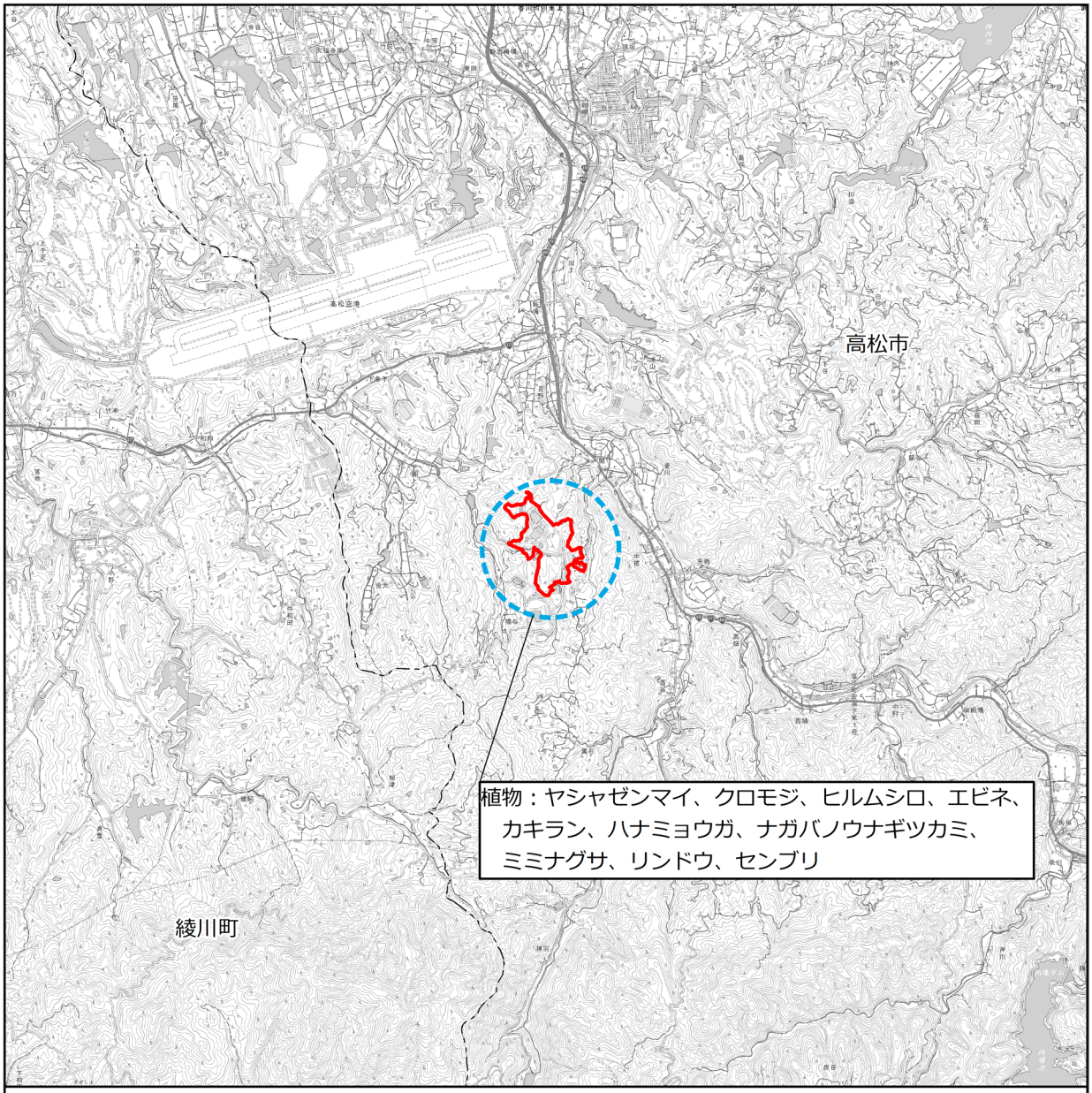
出典：「第6回自然環境保全基礎調査（平成11～16年）」環境省
「第7回自然環境保全基礎調査（平成17年～24年）」環境省

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図　3-21　現存植生図



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000 を複製して情報を追記したものである。

凡　例

対象事業実施区域

重要な種の確認位置（植物）

出典：「高松地区南部広域市町村圏振興事務組合　南部広域清掃センター更新施設整備に係る環境影響評価書（平成12年）」高松地区南部広域市町村圏振興事務組合

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図 3-22　調査区域の重要な植物種位置図

表 3-34(1)　調査区域及びその周辺で確認された重要な植物（維管束植物）

No.	分類	科名	種名	出典	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
1	シダ植物門	ヒカゲノカズラ科	マンネンスギ	8					DD
2		ミズニラ科	ミズニラ	8				NT	VU
3			オオバシナミズニラ	8				EN	CR+EN
4		ハナヤスリ科	シチトウハナワラビ	8					CR+EN
5			ナツノハナワラビ	8					CR+EN
6			コヒロハハナヤスリ	8					CR+EN
7			ヒロハハナヤスリ	8					CR+EN
8		マツバラン科	マツバラン	8				NT	CR+EN
9		ゼンマイ科	ヤシャゼンマイ	8,18					CR+EN
10		コケシノブ科	ホソバコケシノブ	8					NT
11			ハイホラゴケ	8					CR+EN
12		サンショウモ科	オオアカウキクサ	8				EN	CR+EN
13			アカウキクサ	8				EN	CR+EN
14			サンショウモ	8				NT	VU
15		イノモトソウ科	クジャクシダ	8					CR+EN
16			ヒメミズワラビ	8					NT
17			ヒメウラジロ	8				NT	VU
18		ナヨシダ科	ウスヒメワラビ	8					NT
19		チャセンシダ科	クモノスシダ	8					CR+EN
20			イヌチャセンシダ	8					CR+EN
21		ヒメシダ科	イブキシダ	8					CR+EN
22		イワデンダ科	イワデンダ	8					VU
23		コウヤワラビ科	クサソテツ	8					CR+EN
24		メシダ科	ハコネシケチシダ	8					CR+EN
25			サトメシダ	8					CR+EN
26			ヘビノネゴザ	8					NT
27			セイタカシケシダ	8					VU
28			ムクゲシケシダ	8					VU
29			オオヒメワラビ	8					VU
30			ナチシケシダ	8					NT
31			ミドリワラビ	8					CR+EN
32			ホソバノコギリシダ	8					CR+EN
33			オニヒカゲワラビ	8					CR+EN
34			ノコギリシダ	8					CR+EN
35		オシダ科	メヤブソテツ	8					CR+EN
36			ヒロハヤブソテツ	8					NT
37			ツクシヤブソテツ	8					CR+EN
38			ミヤコヤブソテツ	8					NT
39			ツクシイワヘゴ	8					CR+EN

表 3-34 (2) 調査区域及びその周辺で確認された重要な植物（維管束植物）

No.	分類	科名	種名	出典	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
40	シダ植物門	オシダ科	ナチクジャク	8					CR+EN
41			オオクジャクシダ	8					VU
42			ミヤマイタチシダ	8					CR+EN
43			ナガサキシダ	8					CR+EN
44			タニヘゴ	8					CR+EN
45			ツルデンダ	8					CR+EN
46		ウラボシ科	ヤノネシダ	8					NT
47			ヒメノキシノブ	8					CR+EN
48			コウラボシ	8					CR+EN
49			サジラン	8					CR+EN
50			イワヤナギシダ	8					CR+EN
51			オシャグジデンダ	8					CR+EN
52	種子植物門	ジュンサイ科	ジュンサイ	8					VU
53	被子植物亜門	スイレン科	オニバス	8			指定	VU	CR+EN
54			コウホネ	8					VU
55		センリョウ科	キビヒトリシズカ	8				VU	VU
56		ウマノスズクサ科	フタバアオイ	8					CR+EN
57			クロフネサイシン	8				NT	CR+EN
58		クスノキ科	クロモジ	8,18					CR+EN
59		サトイモ科	ユキモチソウ	8				NT	VU
60			ナンゴクウラシマソウ	8					CR+EN
61		オモダカ科	マルバオモダカ	8				VU	CR+EN
62			アギナシ	8				NT	CR+EN
63		トチカガミ科	スブタ	8				VU	CR+EN
64			ヤナギスブタ	8					CR+EN
65			トチカガミ	8				NT	CR+EN
66			ムサシモ	8				EN	CR+EN
67			ヒロハトリゲモ	8				NT	CR+EN
68			イトトリゲモ	8				NT	CR+EN
69			イバラモ	8					CR+EN
70			トリゲモ	8				VU	VU
71			ミズオオバコ	8				NT	VU
72			セキショウモ	8					CR+EN
73		ヒルムシロ科	イトモ	8				NT	NT
74			コバノヒルムシロ	8				VU	CR+EN
75			ヒルムシロ	8,18					NT
76			フトヒルムシロ	8					NT
77			センニンモ	8					NT
78			オヒルムシロ	8					CR+EN

表 3-34 (3) 調査区域及びその周辺で確認された重要な植物（維管束植物）

No.	分類	科名	種名	出典	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
79	種子植物門	ヒルムシロ科	ヤナギモ	8					NT
80	被子植物亜門		ササバモ	8					CR+EN
81		ホンゴウソウ科	ホンゴウソウ	8				NT	VU
82			ウエマツソウ	8				VU	VU
83		ユリ科	トサコバイモ	8			指定	NT	CR+EN
84			ヒメユリ	8				EN	CR+EN
85			チャボホトトギス	8					VU
86			アマナ	8					VU
87		ラン科	ヒナラン	8				VU	CR+EN
88			シラン	8				NT	VU
89			マメヅタラン	8				NT	VU
90			ムギラン	8				NT	VU
91			キエビネ	8				VU	CR+EN
92			エビネ	8,18				NT	NT
93			ナツエビネ	8				VU	CR+EN
94			ギンラン	8					VU
95			キンラン	8				NT	VU
96			トケンラン	8				VU	DD
97			マヤラン	8				VU	CR+EN
98			クマガイソウ	8				VU	CR+EN
99			カキラン	8,18					VU
100			クロヤツシロラン	8					VU
101			ムカゴソウ	8				VU	CR+EN
102			ムヨウラン	8					CR+EN
103			セイタカスズムシソウ	8					CR+EN
104			ジガバチソウ	8					NT
105			クモキリソウ	8					NT
106			フウラン	8				NT	CR+EN
107			コケイラン	8					NT
108			イイヌマムカゴ	8				EN	VU
109			コバノトンボソウ	8					CR+EN
110			オオヤマサギソウ	8					CR+EN
111			ヤマトキソウ	8					CR+EN
112			カヤラン	8					CR+EN
113			ヒトツボクロ	8					VU
114			キバナノショウキラン	8				EN	VU
115		ススキノキ科	ユウスゲ	8					NT
116		クサスギカズラ科	アワギボウシ	8					NT
117			ミズギボウシ	8					VU

表 3-34 (4) 調査区域及びその周辺で確認された重要な植物（維管束植物）

No.	分類	科名	種名	出典	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
118	種子植物門	ミズアオイ科	ミズアオイ	8				NT	CR+EN
119	被子植物亜門	ショウガ科	ハナミョウガ	8,18					VU
120		ガマ科	ミクリ	8				NT	CR+EN
121			ヤマトミクリ	8				NT	CR+EN
122			ナガエミクリ	8				NT	VU
123			ヒメミクリ	8				VU	CR+EN
124			コガマ	8					NT
125		ホシクサ科	オオホシクサ	8					VU
126			ホシクサ	8					CR+EN
127			コイヌノヒゲ	8					CR+EN
128			ツクシクロイヌノヒゲ	8					VU
129			イヌノヒゲ	8					VU
130		カヤツリグサ科	オニスゲ	8					CR+EN
131			カタスゲ	8					CR+EN
132			オタルスゲ	8					VU
133			ヒンジガヤツリ	8					NT
134			ミズガヤツリ	8					CR+EN
135			ヒメカンガレイ	8				VU	VU
136			サンカクイ	8					CR+EN
137			マツカサススキ	8					CR+EN
138			ケシンジュガヤ	8					CR+EN
139		イネ科	ヤマアワ	8					CR+EN
140			ウンヌケモドキ	8				NT	CR+EN
141			ウンヌケ	8				VU	CR+EN
142			ミノボロ	8					VU
143			スズメノコビエ	8					VU
144			セイタカヨシ	8					NT
145			イタチガヤ	8					CR+EN
146			シコクザサ	8					NT
147			ウシクサ	8					CR+EN
148		メギ科	サイコクイカリソウ	8				VU	VU
149		キンポウゲ科	サラシナショウマ	8					VU
150			トウゴクサバノオ	8					CR+EN
151			サイコクサバノオ	8					CR+EN
152			ミスミソウ	8				NT	NT
153			イワカラマツ	8				VU	DD
154		ボタン科	ヤマシャクヤク	8				NT	VU
155			ベニバナヤマシャクヤク	8				VU	CR+EN
156		マンサク科	コウヤミズキ	8					CR+EN

表 3-34 (5) 調査区域及びその周辺で確認された重要な植物（維管束植物）

No.	分類	科名	種名	出典	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
157	種子植物門	カツラ科	カツラ	8					CR+EN
158	被子植物亜門	ユキノシタ科	アワモリショウマ	8					VU
159			ジンジソウ	8					CR+EN
160		ベンケイソウ科	ミツバベンケイソウ	8					VU
161			ツメレンゲ	8				NT	NT
162			カンザシキリンソウ	8					CR+EN
163		アリノトウグサ科	オグラノフサモ	8				VU	CR+EN
164			タチモ	8				NT	VU
165		マメ科	カワラケツメイ	8					VU
166			イヌハギ	8				NT	NT
167		ニレ科	ハルニレ	8					CR+EN
168		イラクサ科	ヤマトキホコリ	8					CR+EN
169		バラ科	バクチノキ	8					NT
170			ツチグリ	8				VU	VU
171		ブナ科	イヌブナ	8					NT
172			イチイガシ	8					CR+EN
173		クルミ科	サワグルミ	8					VU
174		ニシキギ科	ウメバチソウ	8					CR+EN
175		スミレ科	ヒゴスミレ	8					NT
176			エイザンスミレ	8					CR+EN
177			アケボノスミレ	8					VU
178		オトギリソウ科	トモエソウ	8					CR+EN
179			ミズオトギリ	8					CR+EN
180		ミソハギ科	ミズマツバ	8				NT	VU
181		ムクロジ科	メグスリノキ	8					VU
182			テツカエデ	8					VU
183			トチノキ	8					CR+EN
184		アブラナ科	シロイヌナズナ	8					CR+EN
185			ミズタガラシ	8					NT
186			ワサビ	8					VU
187			コイヌガラシ	8				NT	VU
188		ビャクダン科	ツクバネ	8					NT
189			ヒノキバヤドリギ	8					NT
190		オオバヤドリギ科	マツグミ	8					NT
191		タデ科	サイコクヌカボ	8				NT	VU
192			ナガバノウナギツカミ	8,18				NT	DD
193			ヌカボタデ	8				VU	NT
194			コギシギシ	8				NT	NT
195		モウセンゴケ科	イシモチソウ	8				NT	NT

表 3-34 (6) 調査区域及びその周辺で確認された重要な植物（維管束植物）

No.	分類	科名	種名	出典	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
196	種子植物門	モウセンゴケ科	トウカイコモウセンゴケ	8					VU
197	被子植物亜門	ナデシコ科	ミミナグサ	8,18					NT
198			ミヤマハコベ	8					NT
199		アジサイ科	ギンバイソウ	8					CR+EN
200			ヤハズアジサイ	8					VU
201		サクラソウ科	シコクカッコソウ	8			指定	EN	CR+EN
202		ツバキ科	ナツツバキ	8					NT
203		ツツジ科	ウメガサソウ	8					CR+EN
204			マルバノイチヤクソウ	8					CR+EN
205			ツクシシャクナゲ	8					NT
206		アカネ科	ナガバジュズネノキ	8					NT
207		リンドウ科	リンドウ	8,18					NT
208			アサマリンドウ	8					NT
209			センブリ	8,18					NT
210			ムラサキセンブリ	8				NT	CR+EN
211			イヌセンブリ	8				NT	CR+EN
212		マチン科	アイナエ	8					CR+EN
213		キョウチクトウ科	フナバラソウ	8				NT	CR+EN
214			スズサイコ	8				NT	VU
215		ナス科	ヤマホオズキ	8				VU	CR+EN
216			イガホオズキ	8					NT
217		オオバコ科	アブノメ	8					CR+EN
218			キクガラクサ	8				NT	NT
219			キクモ	8					NT
220			イヌノフグリ	8				NT	VU
221			カワヂシャ	8				NT	NT
222		シソ科	キセワタ	8				VU	EX
223			シロネ	8					CR+EN
224			ヤマジソ	8				NT	CR+EN
225			ミゾコウジュ	8				NT	NT
226			ハナタツナミソウ	8					CR+EN
227		ハマウツボ科	ゴマクサ	8				NT	CR+EN
228			ヒキヨモギ	8					NT
229			オオヒキヨモギ	8				NT	VU
230		タヌキモ科	ノタヌキモ	8				VU	CR+EN
231			イヌタヌキモ	8				NT	VU
232			ミミカキグサ	8					NT
233			ホザキノミミカキグサ	8					VU
234		キツネノマゴ科	ハグロソウ	8					CR+EN

表 3-34 (7) 調査区域及びその周辺で確認された重要な植物（維管束植物）

No.	分類	科名	種名	出典	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
235	種子植物門	キキョウ科	サワギキョウ	8					CR+EN
236	被子植物亜門		キキョウ	8				NT	NT
237		ミツガシワ科	ガガブタ	8,15				NT	VU
238		キク科	ホソバノヤマハハコ	8					CR+EN
239			タウコギ	8					CR+EN
240			モリアザミ	8					CR+EN
241			キセルアザミ	8					VU
242			スイラン	8					VU
243			オグルマ	8					CR+EN
244			カセンソウ	8					NT
245			タカサゴソウ	8				VU	VU
246			アキノハハコグサ	8				EN	CR+EN
247			ミヤコアザミ	8					CR+EN
248			オカオグルマ	8					CR+EN
249			サワオグルマ	8					NT
250			オナモミ	8				VU	NT
251		ウコギ科	オオバチドメ	8					VU
252		セリ科	ミシマサイコ	8				VU	VU
253			ヌマゼリ	8				NT	CR+EN
254		スイカズラ科	ウスバヒョウタンボク	8				VU	NT
255			ヤマヒョウタンボク	8					NT
256			オミナエシ	8					NT
計		81 科	256 種		0 種	0 種	3 種	90 種	256 種

注1）種の配列及び和名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和7年、国土交通省）に準拠した。

注2）重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）、香川県文化財保護条例（昭和30年10月1日香川県条例第17号）、高松市文化財保護条例（昭和41年3月29日高松市条例第13号）、綾川町文化財保護条例（平成18年3月21日綾川町条例第90号）において天然記念物に指定されている種

特天：国指定特別天然記念物、国天：国指定天然記念物、県天：香川県指定天然記念物、
市天：高松市指定天然記念物、町天：綾川町指定天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日法律第75号）において希少野生動植物種に指定されている種

国内：国内希少野生動植物種、一種：特定第一種国内希少野生動植物種、
二種：特定第二種国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③香川県希少野生生物の保護に関する条例（平成17年7月15日香川県条例第44号）において指定希少野生生物に指定されている種

指定：指定希少野生生物

④「環境省レッドリスト2025（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）（令和7年3月18日）」（環境省）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑤「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物（令和3年）」（香川県）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、
DD：情報不足

注3）出典番号は、表 3-33に対応する。

② 植物群落

調査区域の重要な植物群落一覧を表 3-35に、調査区域の重要な植物群落位置図を図 3-23に示す。

「第2回自然環境保全基礎調査（昭和53～54年）」（環境庁）、「第3回自然環境保全基礎調査（昭和58～62年）」（環境庁）、「第5回自然環境保全基礎調査（平成5～10年）」（環境庁）及び、「香川県自然記念物」（香川県HP）によると、調査区域内の重要な植物群落として、「藤尾神社社叢」、「川上神社社叢（植物）」の2件が分布する。

表 3-35　調査区域の重要な植物群落一覧

No.	群落名	区分	出典
1	藤尾神社社叢	特定植物群落	2
2	川上神社社叢（植物）	香川県自然記念物	12

注1）No.は、図 3-23に対応する。
注2）出典番号は、表 3-33に対応する。

③ 巨樹・巨木林

調査区域の巨樹一覧を表 3-36に、調査区域の巨樹位置図を図 3-24に示す。

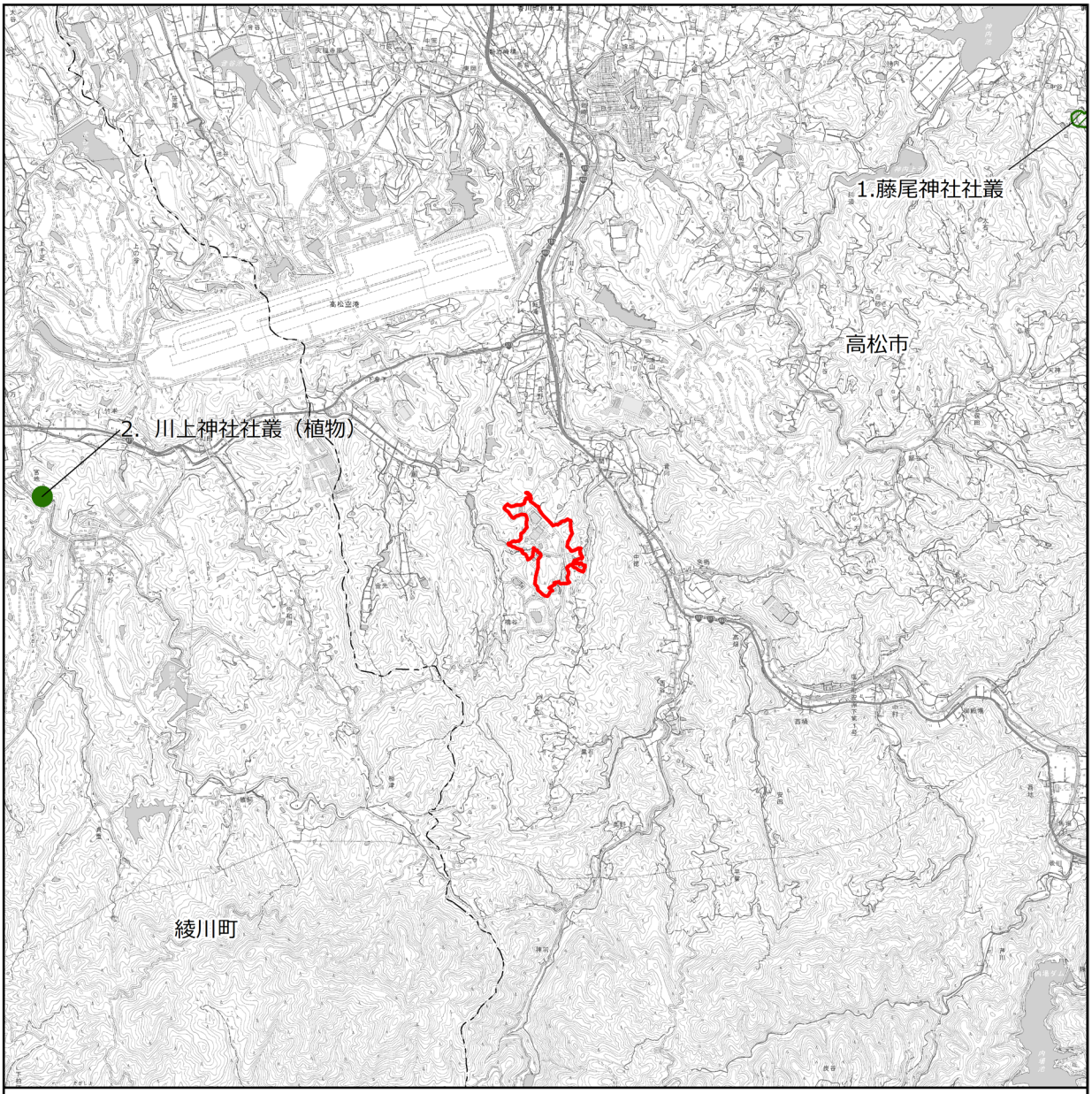
「第4回自然環境保全基礎調査　巨樹・巨木林調査報告書（平成2年）」（環境庁）、「第6回自然環境保全基礎調査　巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（平成13年）」（環境省）によると、調査区域に分布する巨樹は、コナラ、ツブラジイ、バッコヤナギ、センダン、イチョウ（2株）の計6件あるが、対象事業実施区域にはない。なお、調査区域及び対象事業実施区域に巨木林はない。

そのうち対象事業実施区域に最も近い和田神社のコナラは、樹幹の幹周300cm、樹高21mであり、対象事業実施区域の約1.7km西方に位置する。

表 3-36　調査区域の巨樹一覧

No.	種名	名称(所在地)	幹周(cm)	樹高(m)	出典	備考
1	コナラ	和田神社	300	21	4	
2	ツブラジイ	東谷平尾神社	470	20	4	
3	バッコヤナギ	藤原真好宅	520	15	4,6	
4	センダン	馬背墓地	350	8	4	
5	イチョウ	岩部	900	30	4,6	県指定天然記念物
6	イチョウ	岩部	600	30	4,6	県指定天然記念物

注1）No.は、図 3-24に対応する。
注2）出典番号は、表 3-33に対応する。



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000
を複製して情報を追記したものである。

凡　例

- 対象事業実施区域
- 特定植物群落
- 香川県自然記念物

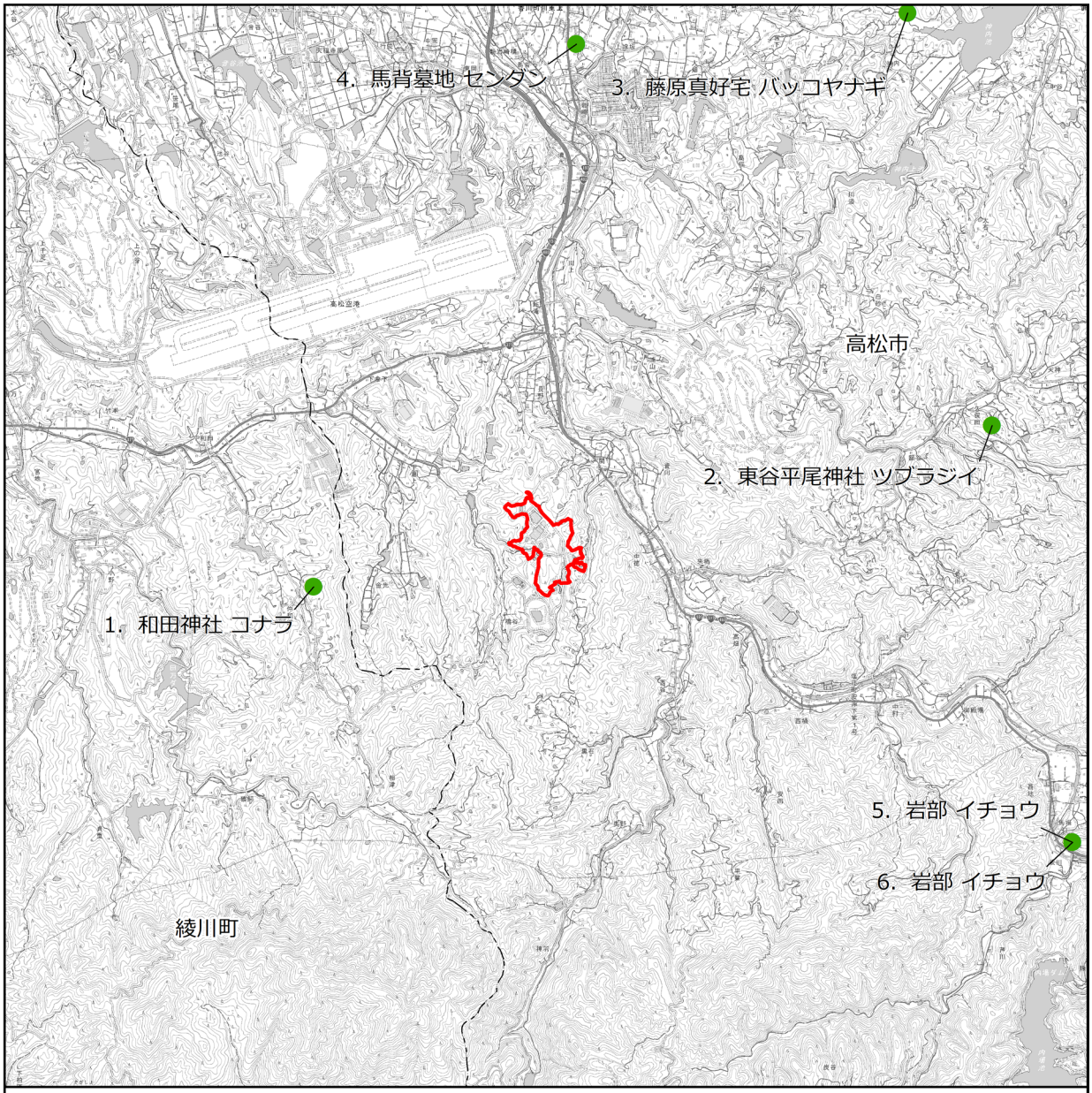
出典：「第2回自然環境保全基礎調査（昭和53～54年）」環境庁
「香川県自然記念物」香川県HP
(https://www.pref.kagawa.lg.jp/midorihozen/shizen/guidemap/kinen.html)

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図　3-23　調査区域の重要な植物群落位置図



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000 を複製して情報を追記したものである。

凡　例

対象事業実施区域

巨樹

出典：「第4回自然環境保全基礎調査（昭和63～平成4年）」環境庁
「第6回自然環境保全基礎調査（平成11～16年）」環境省

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図　3-24　調査区域の巨樹位置図

(2) 動物

1) 動物相

① 哺乳類

文献資料調査の結果、調査区域及びその周辺において、7目15科33種の哺乳類が確認された。

主に山地の樹林地に生息するモモジロコウモリ、ニホンリス、ムササビ、スミスネズミ、テン（ホンドテン）、イノシシ、ニホンジカ、低地から山地に広く生息するコウベモグラ、ニホンザル、アカネズミ、タヌキ、耕作地や河川周辺等に生息するカヤネズミ、キツネ、シベリアイタチ、ニホンイタチ、市街地等に生息するアブラコウモリ、ドブネズミ、ハクビシン等が確認された。

② 鳥類

文献資料調査の結果、調査区域及びその周辺において、17目56科182種の鳥類が確認された。

主に河川やダム湖、ため池等に生息するマガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、カイツブリ、ゴイサギ、アオサギ、バン、カワセミ、水田や湿地周辺等に生息するアマサギ、コサギ、ケリ、クサシギ、ヒバリシギ、草地や農耕地周辺等に生息するキジ、ハシボソガラス、ヒバリ、カワラヒワ、アオジ、樹林地等に生息するアオバト、カッコウ、ヨタカ、フクロウ、コゲラ、サンコウチョウ、カケス、市街地等に生息するカワラバト（ドバト）、ハシブトガラス等が確認されている。また、生態系の上位に位置するミサゴ、オオタカ、サシバ、ノスリ、ハヤブサ等の猛禽類も確認された。

③ 爬虫類

文献資料調査の結果、調査区域及びその周辺において、2目10科16種の爬虫類が確認された。

水域及びその周辺に生息する種として、河川の中流から下流域や池沼等に生息するクサガメ、ミシシッピアカミミガメ、ニホンスッポン等のカメ類、河川や水田周辺等に生息するシマヘビ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ等のヘビ類が確認された。また、低山地等に生息するジムグリ、耕作地や民家周辺に生息するニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、山地に生息する夜行性のタカチホヘビ、シロマダラ等が確認された。

④ 両生類

文献資料調査の結果、調査区域及びその周辺において、2目7科15種の両生類が確認された。

カエル類では、水田やため池等に生息するニホンアマガエル、ニホンアカガエル、トノサマガエル、ウシガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル等が確認された。また、同様の環境に生息するアカハライモリも確認された。更に、丘陵地から山地の樹林地等に生息するニホンヒキガエル、ヤマアカガエル、渓流等に生息するタゴガエル、カジカガエルも確認された。サンショウウオ類では、平地から丘陵地の池や水田、樹林地等に生息するセトウチサンショウウオ、山地樹林地の渓流部周辺等に生息するイシヅチサンショウウオが確認された。

⑤ 淡水魚類

文献資料調査の結果、調査区域及びその周辺において、8目18科49種の淡水魚類が確認された。

河川上流から中流域等に生息するカワムツ、タカハヤ、アカザ、カワヨシノボリ、河川中流から下流域等に生息するコイ（型不明）、フナ属、モツゴ、オオシマドジョウ、チュウガタスジシマドジョウ、ナマズ、シマヨシノボリ、ウキゴリ、ため池や用水路等にも生息するニッポンバラタナゴ、シマヒレヨシノボリ等が確認された。そのほか、水田や水路等に生息するミナミメダカ、ドジョウ等も確認された。

なお、「令和6年度版高松市環境白書（令和7年1月）」（高松市HP）によると、高松市内の河川で確認された淡水魚類のうち、オイカワ、カマツカ、コウライモロコ、ギギは主に香川用水を経由して吉野川から、ゲンゴロウブナ、タモロコ、ハクレン、ワカサギ等は養殖の為に国内から、ブルーギル、オオクチバス等は国外からの移入とされている。

⑥ クモ類・昆虫類

文献資料調査の結果、調査区域及びその周辺において、1目6科12種のクモ類、18目199科796種の昆虫類が確認された。

クモ類は、山地の渓流付近等に生息するオオシロカネグモ、林縁や草原等に生息するトリノフンダマシ、湿地や水田等に生息するキバラコモリグモ、低山地等に生息するカトウツケオグモ等が確認された。

昆虫類は、水田や河川等に生息するキイロサナエ、ギンヤンマ、アオイトトンボ、ショウジョウトンボ等のトンボ類、河川敷、草地、林縁や耕作地等に生息するニシキリギリス、エンマコオロギ、クルマバッタ等のバッタ類、ヤマトシジミ本土亜種、ジャコウアゲハ本土亜種、モンシロチョウ等のチョウ類が確認された。そのほか、樹林に生息する種としてクマゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ハルゼミ等のセミ類、コクワガタ、ヒラタクワガタ本土亜種等のクワガタムシ類、テングチョウ日本本土亜種、オオムラサキ等のチョウ類、ヤママユ本土亜種、コスズメ等のガ類、ゴマダラカミキリ、ノコギリカミキリ、アトモンサビカミキリ等のカミキリムシ類等が確認された。

⑦ 底生動物

文献資料調査の結果、調査区域及びその周辺において、2門4綱9目13科24種の底生動物が確認された。

渓流等に生息するサワガニ、河川上流から中流域の砂礫底に生息するマシジミ、河川中流から下流域等に生息するマツカサガイ広域分布種、ドブシジミ、テナガエビ、流れの緩い河川や用水路等に生息するハブタエモノアラガイ、モノアラガイ、サカマキガイ、水田等に生息するマルタニシ、ヒメタニシ、ヒラマキミズマイマイ、ホウネンエビ等が確認された。

⑧ 陸産貝類

文献資料調査の結果、調査区域及びその周辺において、4目21科101種の陸産貝類が確認された。

樹林の林床や落葉の下に生息するヤマタニシ、アツブタガイ、シコクゴマガイ、ケシガイ、アワジギセル、シリオレギセル、ヒラベッコウガイ、ヒメベッコウガイ、ヒメカサキビ、オオケマイマイ、タワラガイ、樹上に生息するアズキガイ、ヤマナメクジ、マルシタラガイ、セトウチマイマイ、草地や農耕地に生息するウスカワマイマイ等が確認された。

2) 重要な動物種の状況

文献資料調査の結果、調査区域及びその周辺で確認された重要な動物を表 3-37(1)～(14)に、調査区域の重要な種位置図を図 3-25に示す。

調査区域及びその周辺における重要な動物として、哺乳類は、低地から山地に生息するアズマモグラ、草地や農耕地等に生息するニホンイタチ、樹林地や洞窟に生息するテングコウモリの3種が確認された。鳥類は、樹林に囲まれた池沼等に生息するオシドリや、山地の渓流周辺等に生息するヤマセミ等の77種が確認された。爬虫類は、水域に生息するニホンスッポン、沿海地から低地に生息するタワヤモリ、耕作地や民家周辺等に生息するニホントカゲ、山地に生息するタカチホヘビの4種が確認された。両生類は、山地樹林地の渓流部周辺等に生息するイシヅチサンショウウオや、水田やため池等に生息するトノサマガエル等の6種が確認された。魚類は、河川、ため池や用水路等に生息するニッポンバラタナゴや、水田や水路等に生息するドジョウ等の19種が確認された。昆虫類は、ため池や湿地周辺等に生息するタベサナエや、樹林地に生息するオオムラサキ等の146種が確認された。なお、クモ類の重要な種は確認されなかった。底生動物は、水田等に生息するマルタニシや、渓流等に生息するサワガニ等の19種が確認された。陸産貝類は、丘陵地や山地の林床落葉下に生息するイボイボナメクジや、樹林地の岩の隙間等に生息するアワマイマイ等の44種が確認された。

表 3-37(1) 調査区域及びその周辺で確認された重要な動物（哺乳類）

項目	No.	目名	科名	種名	出典	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
哺乳類	1	モグラ目（食虫目）	モグラ科	アズマモグラ	5,8,16					NT
	2	コウモリ目（翼手目）	ヒナコウモリ科	テングコウモリ	5,8					DD
	3	ネコ目（食肉目）	イタチ科	ニホンイタチ	4,5,8,16					NT
	計	3目	3科	3種		0種	0種	0種	0種	3種

注1）種の配列及び和名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和7年、国土交通省）に準拠した。

注2）重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）、香川県文化財保護条例（昭和30年10月1日香川県条例第17号）、高松市文化財保護条例（昭和41年3月29日高松市条例第13号）、綾川町文化財保護条例（平成18年3月21日綾川町条例第90号）において天然記念物に指定されている種

特天：国指定特別天然記念物、国天：国指定天然記念物、県天：香川県指定天然記念物、
市天：高松市指定天然記念物、町天：綾川町指定天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日法律第75号）において希少野生動植物種に指定されている種

国内：国内希少野生動植物種、一種：特定第一種国内希少野生動植物種、
二種：特定第二種国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③香川県希少野生生物の保護に関する条例（平成17年7月15日香川県条例第44号）において指定希少野生生物に指定されている種

指定：指定希少野生生物

④「環境省レッドリスト2020（令和2年3月27日）」（環境省）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑤「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物（令和3年）」（香川県）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注3）出典番号は、表 3-33に対応する。



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000
を複製して情報を追記したものである。

凡　例

対象事業実施区域

重要な種の確認位置（動物）

出典：「ガンカモ類の生息調査 昭和44年度～令和6年度」環境省HP
（https://www.biodic.go.jp/gankamo/gankamo_top.html）
「高松地区南部広域市町村圏振興事務組合　南部広域清掃センター更新施設整備に係る環境影響評価書（平成12年）」高松地区南部広域市町村圏振興事務組合

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図 3-25　調査区域の重要な動物位置図

表 3-37(2) 調査区域及びその周辺で確認された重要な動物（鳥類）

項目	No.	目名	科名	種名	出典	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
鳥類	1	キジ目	キジ科	ウズラ	8				VU	VU
	2	カモ目	カモ科	マガン	8	国天			NT	VU
	3			ツクシガモ	8				VU	VU
	4			オシドリ	3,9,16				DD	
	5			トモエガモ	8,9				VU	NT
	6	ペリカン目	サギ科	ヨシゴイ	8,16				NT	CR＋EN
	7			ミゾゴイ	8,16				VU	VU
	8			ササゴイ	2,8					NT
	9			アマサギ	2,8,16					NT
	10			チュウサギ	16				NT	
	11		トキ科	ヘラサギ	8				DD	VU
	12	ツル目	クイナ科	クイナ	8,16					NT
	13			ヒクイナ	8,16				NT	NT
	14	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	2,8					NT
	15			カッコウ	2,8					NT
	16	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	2,8				NT	NT
	17	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ	8,16					VU
	18	チドリ目	チドリ科	タゲリ	8,16					NT
	19			ケリ	8				DD	NT
	20			ムナグロ	8					NT
	21			ダイゼン	8					NT
	22			イカルチドリ	2,3,8,16					NT
	23			コチドリ	2,8,16					NT
	24			シロチドリ	2,8				VU	NT
	25			メダイチドリ	8		国際			NT
	26		セイタカシギ科	セイタカシギ	8,16				VU	VU
	27		シギ科	ヤマシギ	8,16					VU
	28			アオシギ	8					VU
	29			オオジシギ	8				NT	VU
	30			ツルシギ	8,16				VU	VU
	31			アカアシシギ	8				VU	VU
	32			コアオアシシギ	8					VU
	33			タカブシギ	16				VU	
	34			オジロトウネン	8,16					VU
	35			ヒバリシギ	8					VU
	36			ウズラシギ	8					VU
	37			ハマシギ	16				NT	

表 3-37(3) 調査区域及びその周辺で確認された重要な動物（鳥類）

項目	No.	目名	科名	種名	出典	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
鳥類	38	チドリ目	シギ科	キリアイ	8					VU
	39		タマシギ科	タマシギ	2,8,16				VU	NT
	40		ツバメチドリ科	ツバメチドリ	8				VU	VU
	41		カモメ科	コアジサシ	2,8,16				VU	VU
	42	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	3,8,18				NT	NT
	43		タカ科	ハチクマ	8				NT	VU
	44			ツミ	8,18					VU
	45			ハイタカ	3,8,16,18				NT	NT
	46			オオタカ	8,16,18				NT	NT
	47			サシバ	2,8,16,18				VU	VU
	48			クマタカ	8		国内		EN	CR＋EN
	49	フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク	8					VU
	50			アオバズク	2,8,16					NT
	51			トラフズク	8					CR＋EN
	52			コミミズク	8					CR＋EN
	53	ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン	2,8					VU
	54			ヤマセミ	2,8,16					CR＋EN
	55		ブッポウソウ科	ブッポウソウ	8				EN	CR＋EN
	56	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ	8					NT
	57			オオアカゲラ	2,8					CR＋EN
	58	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	8,16					NT
	59			コチョウゲンボウ	8					CR＋EN
	60			ハヤブサ	3,8,16		国内		VU	NT
	61	スズメ目	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	8		国内		EN	CR＋EN
	62		サンショウクイ科	サンショウクイ	2,8,16				VU	VU
	63		ツリスガラ科	ツリスガラ	8					NT
	64		シジュウカラ科	コガラ	2,8					NT
	65		ムシクイ科	メボソムシクイ上種	18				DD[注4)]	
	66		センニュウ科	オオセッカ	3		国内		EN	
	67		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	2,8					NT
	68		キバシリ科	キバシリ	8					VU
	69		カワガラス科	カワガラス	2,3,8					NT
	70		ヒタキ科	トラツグミ	2,3,8,16,18					NT
	71			コマドリ	8					NT
	72			コサメビタキ	2,8,16					NT
	73		イワヒバリ科	カヤクグリ	8,16					NT
	74		アトリ科	ハギマシコ	8					VU

表 3-37(4) 調査区域及びその周辺で確認された重要な動物（鳥類）

項目	No.	目名	科名	種名	出典	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
鳥類	75	スズメ目	アトリ科	オオマシコ	3					VU
	76			イスカ	3					VU
	77		ホオジロ科	ホオアカ	8,16					NT
	計	14 目	34 科	77 種		1 種	5 種	0 種	34 種	71 種

注1）種の配列及び和名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和7年、国土交通省）に準拠した。

注2）重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）、香川県文化財保護条例（昭和30年10月1日香川県条例第17号）、高松市文化財保護条例（昭和41年3月29日高松市条例第13号）、綾川町文化財保護条例（平成18年3月21日綾川町条例第90号）において天然記念物に指定されている種

特天：国指定特別天然記念物、国天：国指定天然記念物、県天：香川県指定天然記念物、
市天：高松市指定天然記念物、町天：綾川町指定天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日法律第75号）において希少野生動植物種に指定されている種

国内：国内希少野生動植物種、一種：特定第一種国内希少野生動植物種、
二種：特定第二種国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③香川県希少野生生物の保護に関する条例（平成17年7月15日香川県条例第44号）において指定希少野生生物に指定されている種

指定：指定希少野生生物

④「環境省レッドリスト2020（令和2年3月27日）」（環境省）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑤「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物（令和3年）」（香川県）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注3）出典番号は、表 3-33に対応する。

注4）メボソムシクイ、オオムシクイ、コムシクイのいずれかであると考えられる。オオムシクイの場合、環境省レッドリスト2020においてDDに該当する。

表 3-37(5) 調査区域及びその周辺で確認された重要な動物（爬虫類）

項目	No.	目名	科名	種名	出典	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
爬虫類	1	カメ目	スッポン科	ニホンスッポン	8,16				DD	DD
	2	有鱗目	ヤモリ科	タワヤモリ	8,16				NT	NT
	3		トカゲ科	ニホントカゲ	8,16,18					NT
	4		タカチホヘビ科	タカチホヘビ	5,8,16					DD
	計	2 目	4 科	4 種		0 種	0 種	0 種	2 種	4 種

注1）種の配列及び和名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和7年、国土交通省）に準拠した。

注2）重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）、香川県文化財保護条例（昭和30年10月1日香川県条例第17号）、高松市文化財保護条例（昭和41年3月29日高松市条例第13号）、綾川町文化財保護条例（平成18年3月21日綾川町条例第90号）において天然記念物に指定されている種

特天：国指定特別天然記念物、国天：国指定天然記念物、県天：香川県指定天然記念物、
市天：高松市指定天然記念物、町天：綾川町指定天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日法律第75号）において希少野生動植物種に指定されている種

国内：国内希少野生動植物種、一種：特定第一種国内希少野生動植物種、
二種：特定第二種国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③香川県希少野生生物の保護に関する条例（平成17年7月15日香川県条例第44号）において指定希少野生生物に指定されている種

指定：指定希少野生生物

④「環境省レッドリスト2020（令和2年3月27日）」（環境省）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑤「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物（令和3年）」（香川県）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注3）出典番号は、表 3-33に対応する。

表 3-37(6) 調査区域及びその周辺で確認された重要な動物（両生類）

項目	No.	目名	科名	種名	出典	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
両生類	1	有尾目	サンショウウオ科	イシヅチサンショウウオ	5,8,16				NT	VU
	2			セトウチサンショウウオ	8,16		二種		VU	VU
	3		イモリ科	アカハライモリ	4,5,8,16				NT	NT
	4	無尾目	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	5,8,16					NT
	5		アカガエル科	トノサマガエル	5,8,16,18				NT	NT
	6			ナゴヤダルマガエル	8,16				EN	CR＋EN
	計	2目	4科	6種		0種	1種	0種	5種	6種

注1）種の配列及び和名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和7年、国土交通省）に準拠した。

注2）重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）、香川県文化財保護条例（昭和30年10月1日香川県条例第17号）、高松市文化財保護条例（昭和41年3月29日高松市条例第13号）、綾川町文化財保護条例（平成18年3月21日綾川町条例第90号）において天然記念物に指定されている種

特天：国指定特別天然記念物、国天：国指定天然記念物、県天：香川県指定天然記念物、
市天：高松市指定天然記念物、町天：綾川町指定天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日法律第75号）において希少野生動植物種に指定されている種

国内：国内希少野生動植物種、一種：特定第一種国内希少野生動植物種、
二種：特定第二種国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③香川県希少野生生物の保護に関する条例（平成17年7月15日香川県条例第44号）において指定希少野生生物に指定されている種

指定：指定希少野生生物

④「環境省レッドリスト2020（令和2年3月27日）」（環境省）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑤「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物（令和3年）」（香川県）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注3）出典番号は、表 3-33に対応する。

表 3-37(7) 調査区域及びその周辺で確認された重要な動物（魚類）

項目	No.	目名	科名	種名	出典	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
魚類	1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	8				EN	VU
	2	コイ目	コイ科	ヤリタナゴ	16				NT	CR＋EN
	3			アブラボテ	8,16				NT	CR＋EN
	4			ニッポンバラタナゴ	8,16			指定	CR	CR＋EN
	5			カワバタモロコ	5,8,16		二種	指定	EN	CR＋EN
	6			ヌマムツ	4,5,16					CR＋EN
	7			タカハヤ	4,5,8,16					NT
	8			ムギツク	4,5,8,16					VU
	9			イトモロコ	4,5,8,16					CR＋EN
	10		ドジョウ科	ドジョウ	5,8,16				NT	VU
	11			オオシマドジョウ	8,16					NT
	-			シマドジョウ種群	4,5					(NT)[注4)]
	12			チュウガタスジシマドジョウ	8,16				VU	VU
	-			スジシマドジョウ種群	4,5				(VU)[注5)]	(VU)[注5)]
	13		フクドジョウ科	ナガレホトケドジョウ	8,16				EN	CR＋EN
	14	ナマズ目	アカザ科	アカザ	5,8,16				VU	CR＋EN
	15	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	8,16				VU	VU
	16	スズキ目	ケツギョ科	オヤニラミ	5,8			指定	EN	CR＋EN
	17		カジカ科	カジカ	8,16			指定	NT	CR＋EN
	18		ハゼ科	オオヨシノボリ	5,8					VU
	19			シマヒレヨシノボリ	8,16				NT	DD
	計	5目	9科	19種		0種	1種	4種	13種	19種

注1）種の配列及び和名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和7年、国土交通省）に準拠した。

注2）重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）、香川県文化財保護条例（昭和30年10月1日香川県条例第17号）、高松市文化財保護条例（昭和41年3月29日高松市条例第13号）、綾川町文化財保護条例（平成18年3月21日綾川町条例第90号）において天然記念物に指定されている種

特天：国指定特別天然記念物、国天：国指定天然記念物、県天：香川県指定天然記念物、
市天：高松市指定天然記念物、町天：綾川町指定天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日法律第75号）において希少野生動植物種に指定されている種

国内：国内希少野生動植物種、一種：特定第一種国内希少野生動植物種、
二種：特定第二種国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③香川県希少野生生物の保護に関する条例（平成17年7月15日香川県条例第44号）において指定希少野生生物に指定されている種

指定：指定希少野生生物

④「環境省レッドリスト2020（令和2年3月27日）」（環境省）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑤「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物（令和3年）」（香川県）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注3）出典番号は、表 3-33に対応する。

注4）オオシマドジョウ（既出）と考えられ、その場合、香川県レッドデータブック2021においてNTに該当する。

注5）チュウガタスジシマドジョウ（既出）と考えられ、その場合、環境省レッドリスト2020及び香川県レッドデータブック2021においてVUに該当する。

表 3-37(8)　調査区域及びその周辺で確認された重要な動物（昆虫類）

項目	No.	目名	科名	種名	出典	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
昆虫類	1	トンボ目（蜻蛉目）	アオイトトンボ科	コバネアオイトトンボ	5			指定	EN	CR＋EN
	2		イトトンボ科	ホソミイトトンボ	5,8					NT
	3			アジアイトトンボ	4,5,8					VU
	4			モートンイトトンボ	5				NT	EX
	5			セスジイトトンボ	8					NT
	6		ヤマイトトンボ科	シコクトゲオトンボ	2,5,8					NT
	7		モノサシトンボ科	グンバイトンボ	4,5				NT	VU
	8		ムカシトンボ科	ムカシトンボ	2,4,5,8					NT
	9		ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	8				NT	VU
	10			アオヤンマ	8				NT	VU
	11			マルタンヤンマ	2,8					VU
	12			コシボソヤンマ	5,8					NT
	13			カトリヤンマ	4,5,8,18					VU
	14			サラサヤンマ	2,4,5,8,18					NT
	15		サナエトンボ科	ミヤマサナエ	5					CR＋EN
	16			キイロサナエ	4,5,8				NT	DD
	17			クロサナエ	5,8					NT
	18			アオサナエ	2,4,5,8					VU
	19			ホンサナエ	5,8					CR＋EN
	20			ヒメサナエ	5,8					NT
	21			オジロサナエ	2,4,5,8					NT
	22			タベサナエ	4,5,8				NT	NT
	23			フタスジサナエ	4,5,8				NT	VU
	24		エゾトンボ科	キイロヤマトンボ	5,8				NT	CR＋EN
	25		トンボ科	ベッコウトンボ	8		国内		CR	EX
	26			ハッチョウトンボ	2,8					CR＋EN
	27			キトンボ	8					VU
	28			ナツアカネ	4,5,8,18					VU
	29			アキアカネ	8					VU
	30			ナニワトンボ	5,8				VU	NT
	31			ノシメトンボ	4,5,8					NT
	32			ヒメアカネ	8,18					NT
	33			オオキトンボ	2,8				EN	VU
	34	バッタ目（直翅目）	キリギリス科	サヌキササキリモドキ	8					NT
	35	カメムシ目（半翅目）	セミ科	ヒメハルゼミ	8					VU
	36			チッチゼミ	5					DD
	37		サシガメ科	ゴミアシナガサシガメ	8				VU	DD
	38		ツチカメムシ科	シロヘリツチカメムシ	8				NT	NT
	39		アメンボ科	エサキアメンボ	8				NT	VU
	40			ハネナシアメンボ	8					DD

表 3-37(9) 調査区域及びその周辺で確認された重要な動物（昆虫類）

項目	No.	目名	科名	種名	出典	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
昆虫類	41	カメムシ目（半翅目）	ミズギワカメムシ科	オモゴミズギワカメムシ	8				NT	DD
	42		コオイムシ科	コオイムシ	8,18				NT	NT
	43			タガメ	2,8		二種		VU	EX
	44		タイコウチ科	ヒメタイコウチ	8					VU
	45			ヒメミズカマキリ	8					DD
	46		ナベブタムシ科	ナベブタムシ	8					NT
	47	トビケラ目（毛翅目）	トビケラ科	ツマグロトビケラ	8					NT
	48	チョウ目（鱗翅目）	セセリチョウ科	アオバセセリ本土亜種	4,8					NT
	49			ミヤマセセリ	4,5,8					NT
	50			ホソバセセリ	4,5,8					NT
	51			ヒメキマダラセセリ	4,5,8					NT
	52			ミヤマチャバネセセリ	4,8					VU
	53			オオチャバネセセリ	4,8					NT
	54			キマダラセセリ	4,5,8					NT
	55			ヘリグロチャバネセセリ	4					NT
	56		シジミチョウ科	メスアカミドリシジミ	5					NT
	57			オオミドリシジミ	4,5,8					NT
	58			ウラジロミドリシジミ	4,5,8					VU
	59			ウラナミアカシジミ	4,8					VU
	60			ミドリシジミ	8					NT
	61			クロツバメシジミ中国地方・四国・九州内陸亜種	8				NT	NT
	62			ウラキンシジミ	8					VU
	63			ウラミスジシジミ	8					NT
	64			シルビアシジミ	8				EN	CR＋EN
	65		タテハチョウ科	コムラサキ	4,5,8					NT
	66			ウラギンスジヒョウモン	4,8				VU	CR＋EN
	67			オオウラギンスジヒョウモン	4,5,8					VU
	68			ヒメヒカゲ本州西部亜種	4					EX
	69			スミナガシ本土亜種	4,5,8					NT
	70			ウラギンヒョウモン	4,8					NT
	71			オオウラギンヒョウモン	2,8				CR	EX
	72			キマダラモドキ	5,8				NT	NT
	73			クロヒカゲモドキ	4,5,8				EN	VU
	74			クモガタヒョウモン	4,8					VU
	75			ミスジチョウ	4,5,8					NT
	76			シータテハ	4,8					CR＋EN
	77			オオムラサキ	2,4,5,8,18				NT	NT
	78			ウラナミジャノメ本土亜種	8				VU	VU
	79		アゲハチョウ科	カラスアゲハ本土亜種	4,8,18					NT

表 3-37(10)　調査区域及びその周辺で確認された重要な動物（昆虫類）

項目	No.	目名	科名	種名	出典	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
昆虫類	80	チョウ目	アゲハチョウ科	ミヤマカラスアゲハ	4,5,8					NT
	81	（鱗翅目）		オナガアゲハ	4,5,8,18					NT
	82		シロチョウ科	ツマグロキチョウ	8				EN	CR＋EN
	83			スジボソヤマキチョウ	2					EX
	84		シャクガ科	トシマカバナミシャク	8					DD
	85		ヤママユガ科	オナガミズアオ本土亜種	4,5				NT	
	86		スズメガ科	ヒメスズメ	4,8				NT	VU
	87		シャチホコガ科	キシャチホコ	8					VU
	88			アカネシャチホコ	2					NT
	89		ヤガ科	クビグロケンモン	8				NT	VU
	90			コシロシタバ	4,5				NT	
	91			ナマリキシタバ	2,8					NT
	92			アサマキシタバ	4,5,					NT
	93			ワモンキシタバ	4,5,8					NT
	94			ササナミコヤガ	8					NT
	95	コウチュウ目	オサムシ科	オオヨツボシゴミムシ	8					DD
	96	（鞘翅目）		クロカタビロオサムシ	8					DD
	97			アワオサムシ	2					NT
	98			コキベリアオゴミムシ	8					DD
	99			オオキベリアオゴミムシ	8					DD
	100			サトウメクラチビゴミムシ	2					NT
	101		ハンミョウ科	アイヌハンミョウ	5,8				NT	VU
	102			コニワハンミョウ	5,8					NT
	103			エリザハンミョウ	8					VU
	104		ゲンゴロウ科	シマゲンゴロウ	5				NT	VU
	105			ケシゲンゴロウ	5				NT	
	106			シャープツブゲンゴロウ	5				NT	
	107			マルチビゲンゴロウ	8				NT	NT
	108		ミズスマシ科	オオミズスマシ	5,8,18				NT	VU
	109			ミズスマシ	8,18				VU	NT
	110		カワラゴミムシ科	カワラゴミムシ	8					DD
	111		ホソガムシ科	チュウブホソガムシ	8				VU	NT
	112		ガムシ科	ガムシ	2,8				NT	VU
	113		ムネアカセンチコガネ科	ムネアカセンチコガネ	8					DD
	114		クワガタムシ科	マダラクワガタ	5					NT
	115			オオクワガタ	5,8				VU	NT
	116			オニクワガタ	5					VU
	117		コガネムシ科	アカマダラハナムグリ	8				DD	VU
	118			オオフタホシマグソコガネ	8					NT
	119			クチキマグソコガネ	8					NT

表 3-37(11) 調査区域及びその周辺で確認された重要な動物（昆虫類）

項目	No.	目名	科名	種名	出典	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
昆虫類	120	コウチュウ目	コガネムシ科	アシナガコガネ	8					DD
	121	（鞘翅目）		マルエンマコガネ	8					NT
	122			ヒロシマオオトラフハナムグリ	8					NT
	123			シロスジコガネ	8					NT
	124			ナラノチャイロコガネ	8					NT
	125			ムラサキツヤハナムグリ	8					NT
	126			キョウトアオハナムグリ	8					DD
	127			クロカナブン	8					CR＋EN
	128		タマムシ科	クロマダラタマムシ	8					NT
	129		ホタル科	ヘイケボタル	8					NT
	130		ベニボタル科	ツヤバネベニボタル	8					DD
	131		テントウムシ科	ジュウサンホシテントウ	8					NT
	132		カミキリムシ科	アカアシオオアオカミキリ	8					DD
	133			ヨコヤマトラカミキリ	8					NT
	134			ベニバハナカミキリ	8					NT
	135			サヌキセダカコブヤハズカミキリ	2					NT
	136			トラフカミキリ	8					DD
	137			オオトラカミキリ	8					NT
	138		ハムシ科	ガガブタネクイハムシ	8					NT
	139		ゾウムシ科	モリモトシギゾウムシ	8					NT
	140	ハチ目	アリ科	トゲアリ	8,18				VU	VU
	141	（膜翅目）	スズメバチ科	モンスズメバチ	18				DD	
	142		ドロバチモドキ科	ヤマトスナハキバチ本土亜種	8,18				DD	NT
	143		ミツバチ科	ナミルリモンハナバチ	8				DD	NT
	144		ハキリバチ科	トモンハナバチ	8					NT
	145			キバラハキリバチ	8				NT	NT
	146		コマユバチ科	ウマノオバチ	8				NT	NT
	計	7目	52科	146種		0種	2種	1種	48種	141種

注1）種の配列及び和名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和7年、国土交通省）に準拠した。

注2）重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）、香川県文化財保護条例（昭和30年10月1日香川県条例第17号）、高松市文化財保護条例（昭和41年3月29日高松市条例第13号）、綾川町文化財保護条例（平成18年3月21日綾川町条例第90号）において天然記念物に指定されている種

特天：国指定特別天然記念物、国天：国指定天然記念物、県天：香川県指定天然記念物、
市天：高松市指定天然記念物、町天：綾川町指定天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日法律第75号）において希少野生動植物種に指定されている種

国内：国内希少野生動植物種、一種：特定第一種国内希少野生動植物種、
二種：特定第二種国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③香川県希少野生生物の保護に関する条例（平成17年7月15日香川県条例第44号）において指定希少野生生物に指定されている種

指定：指定希少野生生物

④「環境省レッドリスト2020（令和2年3月27日）」（環境省）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑤「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物（令和3年）」（香川県）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注3）出典番号は、表 3-33に対応する。

表 3-37(12) 調査区域及びその周辺で確認された重要な動物（底生動物）

項目	No.	門名	綱名	目名	科名	種名	出典	選定基準				
								①	②	③	④	⑤
底生動物	1	軟体動物門	二枚貝綱	イシガイ目	イシガイ科	マツカサガイ広域分布種	8				NT	CR＋EN
	2			ドブシジミ目	ドブシジミ科	ドブシジミ	8					NT
	3					ウエジマメシジミ	8					VU
	4			マルスダレガイ目	シジミ科	マシジミ	4				VU	
	5		腹足綱	タニシ目	タニシ科	マルタニシ	8				VU	VU
	6					オオタニシ	5				NT	
	7			エゾタマキビ目	エゾマメタニシ科	ヒメマルマメタニシ	8				VU	NT
	8					マメタニシ	8				CR	CR＋EN
	9				ミズツボ科	ホラアナミジンニナ	4,8				VU	VU
	10			モノアラガイ目	モノアラガイ科	コシダカヒメモノアラガイ	5				DD	
	11					モノアラガイ	5,8				NT	DD
	12				ヒラマキガイ科	クロヒラマキガイ	5				DD	
	13					ヒメヒラマキミズマイマイ	5				EN	CR＋EN
	14					ミズコハクガイ	8				VU	CR＋EN
	15					ヒラマキミズマイマイ	4,5				DD	
	16					ヒラマキガイモドキ	4				NT	
	17	節足動物門	鰓脚綱	ホウネンエビ目	ホウネンエビ科	ホウネンエビ	8					NT
	18		軟甲綱	エビ目	テナガエビ科	テナガエビ	8					NT
	19				サワガニ科	サワガニ	8					NT
	計	2門	4綱	8目	11科	19種		0種	0種	0種	14種	13種

注1）種の配列及び和名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和7年、国土交通省）に準拠した。

注2）重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）、香川県文化財保護条例（昭和30年10月1日香川県条例第17号）、高松市文化財保護条例（昭和41年3月29日高松市条例第13号）、綾川町文化財保護条例（平成18年3月21日綾川町条例第90号）において天然記念物に指定されている種

特天：国指定特別天然記念物、国天：国指定天然記念物、県天：香川県指定天然記念物、
市天：高松市指定天然記念物、町天：綾川町指定天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日法律第75号）において希少野生動植物種に指定されている種

国内：国内希少野生動植物種、一種：特定第一種国内希少野生動植物種、
二種：特定第二種国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③香川県希少野生生物の保護に関する条例（平成17年7月15日香川県条例第44号）において指定希少野生生物に指定されている種

指定：指定希少野生生物

④「環境省レッドリスト2020（令和2年3月27日）」（環境省）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑤「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物（令和3年）」（香川県）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注3）出典番号は、表 3-33に対応する。

表 3-37(13) 調査区域及びその周辺で確認された重要な動物（陸産貝類）

項目	No.	目名	科名	種名	出典	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
陸産貝類	1	オキナエビス目	ゴマオカタニシ科	ゴマオカタニシ	4,8				NT	NT
	2	ニナ目	ヤマタニシ科	サドヤマトガイ	4,5,8				NT	NT
	3		ムシオイガイ科	ハリマムシオイガイ	8					VU
	4			ピルスブリムシオイ	4,5,8					NT
	5			ヤノムシオイガイ	4				CR+EN	CR＋EN
	6			コウツムシオイガイ	4,5,8				VU	VU
	7		ゴマガイ科	シリブトゴマガイ	4,8				VU	CR＋EN
	8			シコクゴマガイ	5,8					NT
	9			トサゴマガイ	8					NT
	10			アベゴマガイ	4,5,8					NT
	11	オオカミガイ目	ケシガイ科	ニホンケシガイ	5,8					NT
	12			ケシガイ	5				NT	
	13	マイマイ目	キセルガイ科	オオギセル	4,5,8				NT	CR＋EN
	14			コンボウギセル	4,5,8					NT
	15			ツムガタギセル	4,8					VU
	16			シマケルギセル	4,5				NT	
	17			トサギセル	4,5,8				NT	CR＋EN
	18			モリサキギセル	4,5,8				NT	NT
	19			ホソヒメギセル	4,5,8				VU	NT
	20			コシボソギセル	4,5,8				NT	NT
	21			ナラビヒダギセル	4,5,8					CR＋EN
	22		ナタネガイ科	ツクシナタネ	8					CR＋EN
	23		ナメクジ科	イボイボナメクジ	5,8				NT	VU
	24		オオコウラナメクジ科	オオコウラナメクジ	8				NT	CR＋EN
	25		ベッコウマイマイ科	オオヒラベッコウ	5				DD	
	26			ヒラベッコウガイ	4,5				DD	
	27			ウラウズタカキビ	8					CR＋EN
	28			アワクリイロベッコウ	4,5,8				NT	NT
	29			キヌツヤベッコウ	4,5				DD	
	30			アワキビ	5,8				DD	VU
	31			ヒゼンキビ	4				NT	
	32			ヒメハリマキビ	4,5				NT	
	33			カサネシタラガイ	8				NT	CR＋EN
	34			ウメムラシタラガイ	4				NT	
	35			オオウエキビ	4,5				DD	
	36			オキノクニキビ	8				DD	DD
	37			トサキビ	4,5				DD	

表 3-37(14) 調査区域及びその周辺で確認された重要な動物（陸産貝類）

項目	No.	目名	科名	種名	出典	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
陸産貝類	38	マイマイ目	ベッコウマイマイ科	ヒメカサキビ	4				NT	
	39			サドタカキビ	4				DD	
	40		ニッポンマイマイ科	トサビロウドマイマイ	8				VU	VU
	41			ツルギサンマイマイ	4,5				VU	VU
	42		オナジマイマイ科	マヤサンマイマイ	8				VU	CR＋EN
	43			イソムラマイマイ	8			指定	CR+EN	CR＋EN
	44			アワマイマイ	4,5,8					VU
	計	4 目	12 科	44 種		0 種	0 種	1 種	32 種	32 種

注1）種の配列及び和名等は「日本野生生物目録－本邦野生動植物の種の現状－無脊椎動物編Ⅲ」（平成10年、環境庁：編、（財）自然環境研究センター：著）に準拠した。

注2）重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）、香川県文化財保護条例（昭和30年10月1日香川県条例第17号）、高松市文化財保護条例（昭和41年3月29日高松市条例第13号）、綾川町文化財保護条例（平成18年3月21日綾川町条例第90号）において天然記念物に指定されている種

特天：国指定特別天然記念物、国天：国指定天然記念物、県天：香川県指定天然記念物、
市天：高松市指定天然記念物、町天：綾川町指定天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日法律第75号）において希少野生動植物種に指定されている種

国内：国内希少野生動植物種、一種：特定第一種国内希少野生動植物種、
二種：特定第二種国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③香川県希少野生生物の保護に関する条例（平成17年7月15日香川県条例第44号）において指定希少野生生物に指定されている種

指定：指定希少野生生物

④「環境省レッドリスト2020（令和2年3月27日）」（環境省）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑤「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物（令和3年）」（香川県）において選定されている種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注3）出典番号は、表 3-33に対応する。

(3) 生態系

1) 生態系の概要

調査区域における生態系の概況について、地形及び土地利用状況、植生等の観点から、自然環境の類型化を行った。調査区域における自然環境類型区分図を、図3-26に示す。

調査区域は、北部の低地・台地上に水田・畑地及び市街地（高松空港を含む）が分布し、香東川水系、綾川水系をはじめとした中小河川や水路が全域に分布するとともに、北部の低地・台地を中心に多数のため池が存在する。

これらの状況を踏まえ、調査区域には、北部の【里地生態系】、【ため池・河川等の水域生態系】、主に中央部・南部に位置する【丘陵地・山地の樹林地を中心とする生態系】が分布すると考えられる。なお、複数の河川が低地から山地まで連続的に分布すること、ため池は里地や樹林地内に点在することから、各生態系の一部構成種は複数の生態系を往来して利用していると考えられる。

里地生態系において、水田では、ヒメクグ、スズメノテッポウ、コブナグサ、イヌビエ、タガラシ等の水田雑草類が、畑地周辺では、スギナ、メヒシバ、チチコグサ、カタバミ等の畑地雑草類が生育すると考えられる。これらの植生を基盤として、鳥類のヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ、両生類のアカハライモリ、ニホンアマガエル、トノサマガエル、爬虫類のニホントカゲ、シマヘビ、アオダイショウ、昆虫類のギンヤンマ、エンマコオロギ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、ヤマトシジミ本土亜種、魚類のドジョウ、ミナミメダカ等の小動物が生息すると考えられる。また、それらの動物を捕食する中型哺乳類のキツネ、ニホンイタチや、鳥類のアオサギ、ダイサギ等が生息し、更にサシバ、チョウゲンボウ等の生態系上位種が生息すると考えられる。

ため池・河川等の水域生態系において、ため池等の止水環境では沈水植物のトリゲモ、浮遊植物のイヌタヌキモ、浮葉植物のヒシや抽水植物のガマ、イグサ等が、中小河川や水路等では、沈水植物のヤナギモや抽水植物のヨシ等が生育し、湖岸や河岸にはヤナギ類等の低木が生育すると考えられる。これらの植生を基盤として、鳥類のマガモ、コガモ、オオヨシキリ、セッカ、両生類のトノサマガエル、ヌマガエル、爬虫類のシマヘビ、アオダイショウ、昆虫類のアオイトトンボ、タベサナエ、チョウトンボ、ミズカマキリ、ハイイロゲンゴロウ、ゲンジボタル、魚類のギンブナ、カワムツ、カワヨシノボリ等の小動物が生息すると考えられる。また、それらの動物を捕食する中型哺乳類のキツネ、ニホンイタチや、鳥類のアオサギ、ダイサギ等が生息し、更にミサゴ、ハヤブサ等の生態系上位種が生息すると考えられる。

丘陵地・山地の樹林地を中心とする生態系において、アカマツ群落、コナラ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林及びシイ・カシ二次林等が分布している。これらの樹林内にモモジロコウモリ、ニホンザル、イノシシ、ニホンジカ等の哺乳類、ニホンヒキガエル、ヤマアカガエル等の両生類、タカチホヘビ、ヤマカガシ等の爬虫類、オオシロカネグモ等のクモ類、ヒグラシ、オオムラサキ、カブトムシ、タマムシ等の昆虫類が生息すると考えられる。また、昆虫類を捕食するカッコウやキビタキ等の鳥類や、ハイタカ、オオタカ、フクロウ等の生態系上位種が生息すると考えられる。



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000
を複製して情報を追記したものである。

凡　例

- 対象事業実施区域
- 里地生態系
- 丘陵地・山地の樹林地を中心とする生態系
- ため池・河川などの水域生態系

出典：「第6回自然環境保全基礎調査（平成11～16年）」環境庁・環境省
「第7回自然環境保全基礎調査（平成17年～24年）」環境省

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図　3-26　自然環境類型区分図

2) 重要な生態系

調査区域の重要な生態系一覧を表 3-38に、重要な生態系位置図を図 3-27に示す。調査区域には、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（平成14年7月12日法律第88号）により指定された「鳥獣保護区」、香川県自然環境保全条例（昭和49年4月2日香川県条令第17号）により指定された「香川県自然環境保全地域」及び「香川県自然記念物」等の法令により指定された地域が存在する。そのほか「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省）、「生物多様性保全上重要な里地里山」（環境省）、「昆虫類の多様性保護のための重要地域」（日本昆虫学会自然保護委員会）及び「生物多様性重要地域（KBA）」（コンサベーション・インターナショナル･ジャパン）といった、重要な生態系を選定した目録・図書に記載された地域が存在する。

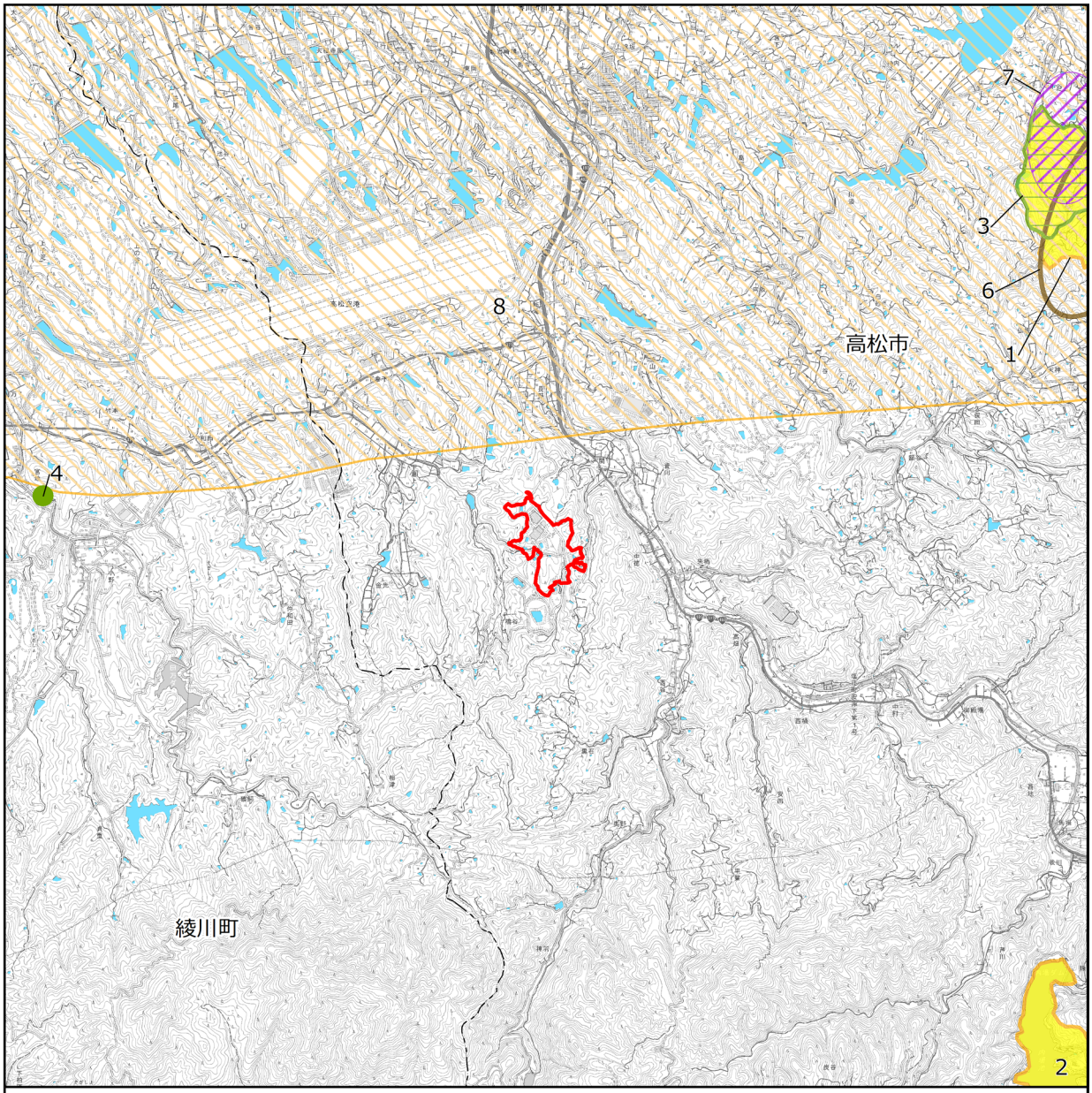
なお、調査区域には以下に示す地域・保護区等はない。

・特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（昭和55年9月22日条約第28号）に登録された「ラムサール条約登録湿地」
・世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（平成4年9月28日条約第7号）により世界遺産一覧表に記載された「文化遺産」及び「自然遺産」
・自然公園法（昭和32年6月1日法律第161号）により指定された「国立公園」、「国定公園」
・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日法律第75号）により指定された「生息地等保護区」
・自然環境保全法（昭和47年6月22日法律第85号）により指定された「原生自然環境保全地域」及び「自然環境保全地域」
・香川県自然環境保全条例（昭和49年4月2日香川県条令第17号）により指定された「香川県緑地環境保全地域」
・「香川県希少野生生物の保護に関する条例」（平成17年7月15日香川県条例第44号）により指定された「指定希少野生生物保護区」
・香川県立自然公園条例（平成2年12月21日香川県条例29号）により指定された「県立公園」

表 3-38　調査区域の重要な生態系一覧

No.	名称	特に注目される主な生物・景観	重要な生態系選定根拠
1	藤尾山鳥獣保護区	－	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づく鳥獣保護区
2	内場池鳥獣保護区	－	
3	藤尾山自然環境保全地域	－	香川県自然環境保全条例に基づく自然環境保全地域
4	川上神社社叢（植物）	植物	香川県自然環境保全条例に基づく香川県自然記念物
5	東讃部及び中讃部の水田・ため池群	ミコアイサ（鳥類)、ニッポンバラタナゴ（魚類)、ナゴヤダルマガエル（両生類）	生物多様性の観点から重要度の高い湿地
6	ドングリランド（どんぐり銀行）	－	生物多様性保全上重要な里地里山
7	藤尾山	昆虫類	昆虫類の多様性保護のための重要地域
8	讃岐平野のため池	－	生物多様性重要地域（KBA）

注1）“－”は出典に注目される主な生物・景観の記載がないことを示す。
注2）No.は、図 3-27に対応する。
出典：「香川県鳥獣保護区等位置図（令和5年度）」香川県
「香川県自然環境保全地域」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/midorihozen/shizen/guidemap/kankyo.html）
「香川県自然記念物」香川県HP
（https://www.pref.kagawa.lg.jp/midorihozen/shizen/guidemap/kinen.html）
「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」環境省HP
（https://www.env.go.jp/nature/important_wetland/）
「生物多様性保全上重要な里地里山」環境省HP
（https://www.env.go.jp/nature/satoyama/jyuuyousatoyama.html）
「環境アセスメントデータベース」環境省HP（https://www2.env.go.jp/eiadb/ebidbs/）
「KBA　Key Biodiversity Area」（コンサベーション・インターナショナル･ジャパン）
（http://kba.conservation.or.jp/index.html）



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000 を複製して情報を追記したものである。

凡　例

- 対象事業実施区域
- 鳥獣保護区
- 香川県自然環境保全地域
- 生物多様性保全上重要な里地里山
- 昆虫類の多様性保護のための重要地域
- 生物多様性重要地域（KBA）
- 香川県自然記念物
- ため池などの池沼

注1）No.5「東讃部及び中讃部の水田・ため池群」は具体的な範囲が出典に記載されていないため、参考として調査区域内のため池等の池沼（ダム湖を除く）を図示する。
注2）出典は、表 3-38と同一である。

N

1:50,000

0　0.5　1　1.5　2 km

図　3-27　調査区域の重要な生態系位置図